STAR

コンビネーションベーラ

取扱説明書

製品コード　K93115

型　式　JCB1420

“必読”　機械の使用前には必ず読んでください。

株式会社IHIスター

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

このたびは、**スターコンビネーションベーラ**お買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、保存し必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかに当社の特販店またはJAにご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1章 安全な作業をするために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店・JAへご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

このコンビネーションベーラは、路上（公道）走行できません。

このコンビネーションベーラは、道路運送車輌法の保安基準に適合する装備をしておりませんので、法令により公道を自走することができません。公道を移動する場合は、必ずトラックなどにのせて運搬してください。※積載するトラックの選定など、道路交通法を守ってください。

説明記号の見方

⚠危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。
取扱いの注意	誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。
参考	作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

本製品の使用目的について

本製品は、飼料イネや麦、牧草などの作物の刈取、梱包用の作業機としてご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は、保証書をご覧ください。）

本文の概要

1章	安全な作業をするために必ずお守りください	● 安全に関する重要な内容を、代表的な作業項目について説明しています。個別の作業については、各項目を見てください。また、各安全銘板の内容と貼付位置を示しています。
2章	保証とサービスについて	● 保証書とアフターサービスについて説明しています。
3章	各部のなまえ	● 本文中、よく使う部品の名称を紹介しています。
4章	各操作部のはたらき	● 本文中、よく使う操作レバー、および部品の位置とはたらきについて説明しています。
5章	運転前・作業前点検のしかた	● 本機の点検箇所と、作業に適した服装などを説明しています。
6章	運転・移動のしかた	● エンジンの始動から移動走行のしかた、およびトラックでの運搬のしかたを説明しています。
7章	収穫作業前の準備のしかた	● 収穫作業前に必要なほ場の準備や本機の準備について説明しています。
8章	収穫作業のしかた	● 運転のしかたを理解したうえで、ほ場での収穫方法、および各部の調節のしかたを説明しています。
9章	作業後の手入れと格納について	● 機械を最良の状態にしておくために、毎作業後および長期間使用しないときの、手入れのしかたを説明しています。
10章	点検・整備のしかた	● 長期間故障がなく、本機を安全に使用するための点検・整備のしかたを説明しています。
11章	不調診断のしかた	● 正常に作動しないときの点検・処置のしかたを説明しています。修理に出す前に確認してください。
12章	その他	● 仕様・主要消耗部品、電気回路図を記載しています

目　次

はじめに　1

お願い……1
おことわり……1
説明記号の見方（危険・警告・注意・取り扱いの注意・参考）……2
本製品の使用目的について……2

本文の概要　3

1章　安全な作業をするために必ずお守りください　8

1. 作業者の体調・服装について……8
2. 使用する機械について……8
3. 運転前・作業前点検をするとき……9
4. 運転・移動をするとき……11
5. 運搬するとき……13
6. 作業をするとき……14
7. 作業後の手入れ・格納をするとき……16
8. 点検・整備をするとき……17
9. 安全銘版の貼り付け位置……20

2章　保証とサービスについて　24

保証書は大切に保管してください……24
アフターサービスをお受けになるときは……24

3章　各部のなまえ　25

4章　各操作部のはたらき　28

エンジンコントロール関係……28
作業関係……29
走行関係……31
電装関係……34
自動化装置……36
警報装置……38

SAMPLE

5章 運転前・作業前点検のしかた 39

1. 作業者の体調・服装について……39
2. 本機の点検のしかた……40

6章 運転・移動のしかた 41

1. 本機への乗降のしかた……41
2. ドライバーシートの前後調節のしかた……41
3. バックミラーの調整……41
4. ステアリングハンドルの前後調節のしかた……41
5. エンジンの始動のしかた……42
6. エンジンの停止のしかた……44
7. 発進のしかた……44
8. 変速のしかた……46
9. 旋回のしかた……46
10. 停車のしかた……47
11. 駐車のしかた……47
12. 移動走行のしかた……48
13. トラックでの運搬のしかた……49
14. 作業灯用外部電源の使いかた……51
15. パトライト増設用電源の使いかた……52

7章 収穫作業前の準備のしかた 53

1. 収穫できる作物の条件について……53
2. 収穫作業ができるほ場の条件について……53
3. 刈取方法について……54
4. 本機の準備のしかた……57
5. ほ場への出入りのしかた……63

8章 収穫作業のしかた 64

1. ダイレクトカット収穫作業のしかた……64
2. 予乾収穫作業のしかた……68
3. 警報装置が作動したときの処置のしかた……69

サンプル

9章 作業後の手入れと格納について 70

1. 機体の洗浄のしかた……70
2. 各部の掃除のしかた……71
3. 格納のしかた……72

10章 点検・整備のしかた 73

1. 定期点検・整備の時期について……73
2. 定期点検一覧表……74
3. オイル・グリス・不凍液一覧表……77
4. 給油・給水一覧表……77
5. エンジンルームカバーのオープンのしかた……78
6. 燃料の点検・補給のしかた……78
7. オイルの点検・補給・交換のしかた……79
8. 冷却水の点検・補給・交換のしかた……81
9. エンジンオイルエレメントの交換のしかた……83
10. HSTフィルタの交換のしかた……83
11. ウォータセパレータと燃料コシ器エレメントの点検・掃除・交換のしかた……84
12. 燃料タンクのドレン抜きのしかた……85
13. 燃料の空気（エア）抜きのしかた……85
14. エアクリーナーエレメントの掃除・交換のしかた……85
15. 吸気口・ラジエータスクリーン・ラジエータフィン・オイルクーラフィンの掃除のしかた……86
16. バッテリの点検・整備のしかた……88
17. パイプ類の点検のしかた……89
18. 電気配線の点検のしかた……89
19. ヒューズ・スローブローヒューズの点検・交換のしかた……90
20. 各部ベルトの点検・調節のしかた……91
21. 駐車ブレーキワイヤの点検・調節のしかた……93
22. クローラの点検・調節のしかた……94
23. 排気ガスの色について……95
24. 作業部の点検のしかた……95
25. 自動注油装置について……98
26. フレールカッター・受刃の研磨のしかた……100
27. トワインナイフの交換のしかた……102

SAMPLE

11章 不調診断のしかた 104

1. キースイッチを「始動」位置にしてもスタータが回らない場合 ……104
2. スタータは回るがエンジンが始動しない場合 ……105
3. 運転中に水温パイロットランプが点灯し、ブザーが鳴る場合 ……105
4. 運転中に油圧パイロットランプが点灯した場合 ……106
5. 運転中にチャージパイロットランプが点灯した場合 ……106
6. 機体が水平にならない（UFO装置）……106
7. 油圧が作動しない場合 ……107
8. 作業部で下記の現象が出た場合 ……108

12章 その他 112

1. 仕様 ……112
2. 主要消耗部品 ……113
電気回路図 ……折り込み

STAR

1章 安全な作業をするために必ずお守りください

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
- ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

1. 作業者の体調・服装について

⚠警告

■こんなときは、運転しない!

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 18才未満の人

【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。

■安全靴・作業帽・ヘルメット・つなぎなどの作業に適した服装をする

サンダル、スリッパ
はち巻き・首巻き・腰タオル
だぶついた服の着用は禁止です。

【守らないと】
機械に巻き込まれたり、滑ったりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

2. 使用する機械について

⚠警告

■使用する前には、必ず点検を行う

本機を使用するときは、運転前・作業前点検を行い、異常箇所は必ず整備してください。
また、作業終了時にも異常箇所がないか点検してください。

【守らないと】
整備不良による事故、機械の故障を引き起こすおそれがあります。

■機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】
死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

⚠警告 ■ **電源取出し用コネクタ以外から電源を取り出して、電気機器を接続しない**

電源取出し用コネクタを利用して、電気機器を付ける場合にも、制限容量を越えると火災のおそれがあります。

【守らないと】

火災のおそれがあります。

⚠注意 ■ **必ず定期点検・整備を受ける**

1年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保守を行ってください。特に、燃料パイプは2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故、機械の故障を引き起こすおそれがあります。

3. 運転前・作業前点検をするとき

⚠危険 ■ **注油・給油は、エンジンが冷えてから行う**

エンジン回転中やエンジンが熱い間は、給油・注油を絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料やオイルに引火して、ヤケドや火災の原因になります。

■ **燃料補給時は火気厳禁**

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料に引火して、ヤケドや火災の原因になります。

⚠警告 ■ **点検は平坦で安定した場所で行う**

運転前・作業前点検を行うときは、機械が倒れたり動いたりしない、平坦で安定した場所で行ってください。

【守らないと】

思わぬ事故の原因になります。

■ **燃料を補給した後は、燃料キャップを締め、こぼれた燃料は拭き取る**

燃料キャップがゆるんでいると、燃料がこぼれ出ることがありますので、確実に締め込んでください。また、こぼれた燃料は、きれいに拭き取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

⚠警告

■ 燃料もれに注意する

燃料パイプが破損していると燃料もれを起こしますので、必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

■ 電気部品やコードも必ず点検する

毎日の作業前には、配線コードが他の部品のエッジ部に接触していないか、コードの被覆がはがれていないか、コードの固定部がゆるんでいないか点検し、ある場合は必要な処置してください。

【守らないと】

ショートして、火災の原因になります。

■ バッテリ液を「下限（LOWER)」以下にしない

バッテリ液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。

【守らないと】

「下限」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

■ 排気ガスには十分に注意

倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。

エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむを得ず屋内で始動するときは、十分に換気をしてください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

■ ブレーキのききや各レバー類の作動点検を行う

ブレーキのきき具合や片ききの有無、ステアリングハンドル・各レバー類に著しいガタや遊びがないか点検し、ある場合は必要な処置をしてください。

【守らないと】

正常な走行ができず、死亡や傷害事故、機械の破損を引き起こすおそれがあります。

■ ステアリングハンドルのきき具合を、必ず点検・整備する

ステアリングハンドルの切角と旋回半径（きき具合）が同じか点検し、違う場合は、点検・整備に出してください。

【守らないと】

片ききになり、死亡事故や重大な傷害事故の原因になります。

⚠注意

■ 取り外したカバー類は、必ず取り付ける

運転前・作業前点検で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、傷害事故の原因になります。

■ クローラの摩耗を点検する

クローラが著しく摩耗していたり、キズがついていないか確認してください。

【守らないと】

横滑りや、転倒事故の原因になります。

4. 運転・移動をするとき

⚠警告

■ 坂道では駐車禁止

坂道の途中では駐車しないでください。

【守らないと】

機械が動き出し、事故の原因になります。

■ 道路の端に、寄りすぎないように注意

走行時は、道路の端に寄りすぎないでください。

【守らないと】

路肩がくずれ、横倒しになって、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 溝や高いあぜを渡るときは、アユミ板を使用する

ほ場に入るとき、溝や高いあぜを渡るとき、軟弱な場所を通るときは、必ずアユミ板を使用してください。アユミ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。

■ 寒冷時には必ず暖機運転を行う

寒冷時に運転する場合は、エンジンを始動してから暖機運転(15分)を必ず行ってください。

【守らないと】

主変速ワイヤー・駐車ブレーキワイヤーなどが凍結していると、誤動作する可能性があります。

■ 登り坂の途中では、副変速レバー操作禁止

【守らないと】

後退して、思わぬ事故を引き起こす原因になります。

⚠警告

■ 傾斜地での斜め走行・旋回禁止

斜面を斜めに突っ切ったり、平行に走行すると、転倒や横滑りの原因になります。また、重なり合った木の葉や枝、鉄板や板の上も滑りやすいので注意してください。

【守らないと】

バランスがくずれて転倒し、傷害事故の原因になります。

■ ベーラ部にベールが入ったままでのあぜ越え、トラックへの積み・降ろし、移動走行、傾斜地作業、急旋回禁止

ベーラ部にベールが入った状態で「あぜ越え」「トラックへの積み・降ろし」や傾斜がある場所での作業および走行」は絶対に行わないでください。

【守らないと】

転倒事故のおそれがあります。

⚠注意

■ 関係法規を守り、ヘルメットを必ず着用する

走行時は関係法規を守り、安全のためにヘルメットを着用してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。

■ 周囲に合図し、ゆっくり発進する

発進するときは、周囲に合図をして、安全を確認しながらゆっくり発進してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 運転者以外の人を乗せない

走行中は、他の人を機械に乗せたり、周囲に近づけたりしないでください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。

■ 道路走行するときは、旋回モード切替ノブを「標準モード」に切り替える

【守らないと】

「湿田モード」では、旋回時に自動減速しないため、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意 ■ 刈取作業のとき以外は、エコモードスイッチは「切」位置にする

【守らないと】
「入」位置にしたままでは、アクセルレバーでのエンジン回転調節ができないため、思わぬ事故の原因になります。

5. 運搬するとき

⚠警告 ■ トラックへの積み・降ろしをするときは、長さ・強度・幅の十分あるアユミ板を使用する

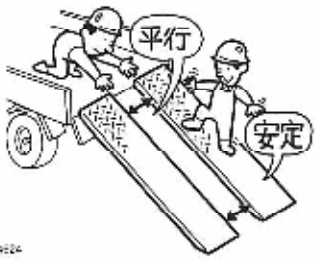
アユミ板は、丈夫ですべり止めのある基準に合ったもので、トラックの荷台に設置したときに、傾斜角度が15度以下になる長さのものを使用してください。

【守らないと】
アユミ板が折れて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。

■ トラックへの積み・降ろしをするときは、アユミ板の平行や安定を確認する

アユミ板を設置するときは、平行や安定を必ず確認してください。

【守らないと】
バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。



■ 運搬をするときは、本機のエンジンを停止し、駐車ブレーキをかける

トラックに積み込んだら、本機のエンジンを停止し、駐車ブレーキを必ずかけてください。

【守らないと】
運搬中、荷台から機械が転落して、事故を引き起こす原因になります。

■ 機械をトラックに、ロープで確実に固定する

丈夫なロープを本機のロープフックに掛け、トラックと確実に固定してください。

【守らないと】
運搬中、荷台から機械が転落して、事故を引き起こす原因になります。

■ 積み・降ろしは、水平で安定した場所で行う

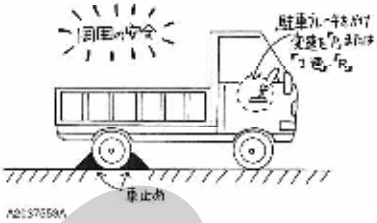
トラックなどへの積み・降ろしは、周囲に危険物が無く、水平で安定した場所で行ってください。

【守らないと】
転落・転倒事故をまねくおそれがあります。

⚠注意

■ 積み込むトラックには、必ず車止めをする

本機を積み込むトラックは、エンジンを停止し、変速を「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけて、タイヤに車止めをしてください。



【守らないと】

トラックが動いて、転落事故を引き起こすおそれがあります。

■ アユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、最低速にする

【守らないと】

急に重心が変わり、転落・転倒事故をまねくおそれがあります。

■ 積み・降ろし作業は、誘導者を付けて行う

トラックへの積み・降ろし作業は、補助者を付けて、周囲の安全を十分に確認しながら行ってください。また補助者は、機械の直前・直後には立たないでください。

【守らないと】

転落などの事故を引き起こすおそれがあります。

■ 傾斜した荷台やアユミ板の上では、進路変更禁止

【守らないと】

バランスがくずれて、転倒事故を起こすおそれがあります。

6. 作業をするとき

⚠危険

■ 作業中は絶対に人を近づけない

作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 作業前に、補助者と作業の段取りを打ち合せる

補助者と組んで作業をするときは、作業の段取りを、補助者とよく打ち合せしてください。ホーンなどで、お互いに合図を送り合い、作業をしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こす原因になります。

⚠警告

■ 詰まり・巻付きを取り除くときは、エンジンを停止する

刈取部、ベーラ部の詰まり・巻付きを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

回転するフレールカッター、スチールローラに巻き込まれてけがをしたり、本機が急に動きだして、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

■ 手刈りした作物などを刈取部に押し込まない

【守らないと】

回転するフレールカッターに巻き込まれ、重大な事故をまねくおそれがあります。

■ エンジンやマフラー、およびプーリー駆動部の周辺のゴミを取り除く

作業中は、エンジンやマフラー、およびプーリー駆動部に付着している茎葉・ゴミ・燃料などを、時々取り除いてください。その場合、必ずエンジンを停止して行ってください。

【守らないと】

付着物が引火して、火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

■ ゲートを開閉するときは、後方を確認する

ゲートを開閉するときは、後方に十分注意をし、人を近寄らせないでください。

【守らないと】

壁の間やゲートに挟まれ、けがをするおそれがあります。

■ ベールの排出は後方を確認し、平坦な場所で行う

ベールを排出するときは、後方に十分注意をはらい、人を近寄らせないで、平坦な場所で行ってください。

【守らないと】

ベールが転がり、巻き込まれてけがをするおそれがあります。

■ 刈取部の下に入るときは、必ず下がらないように固定する。

刈取部は、必ず刈取部昇降ロックレバーを『閉』にするとともに、歯止めをし、下がらないように固定してください。

【守らないと】

刈取部の下敷きになり、重大な傷害事故をまねくおそれがあります。

■ 梱包部の中に入るときは、必ずゲートが下がらないように固定する。

ゲートは、必ずゲート開閉ロックレバーを『閉』にするとともに、歯止めをし、閉じないように固定してください。

【守らないと】

ゲートに挟まれて、重大な傷害事故をまねくおそれがあります。

SAMPLE

⚠注意

■ 畦畔を乗り越えるときは、最低速度で、畦畔に対して直角に渡る

畦畔を乗り越えるときは、斜めに渡らないでください。必ず、畦畔に対して直角に渡ってください。

【守らないと】

バランスをくずし、転倒などによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 夜間作業をするときは、作業灯を使用する

夜間作業をするときは、作業灯を点灯し周囲が確認できる状態で作業してください。

【守らないと】

周囲の状況がわかりにくく、思わぬトラブルを引き起こします。

7. 作業後の手入れ・格納をするとき

⚠警告

■ 作業終了後は、各部の掃除をする

作業が終ったら、必ず点検・整備を行い、各部の掃除をして、ゴミなどを完全に取り除いてください。その場合、必ずエンジンを停止して行ってください。

【守らないと】

火災の原因になります。

■ 平坦な場所に機械を保管する

機械は、平坦な場所に刈取部を接地させ、駐車ブレーキをかけて保管してください。

【守らないと】

機械が動き出し、思わぬ事故の原因になります。

■ エンジンが熱いときは、シートをかけない

エンジンが過熱している間は、絶対にシートをかけないでください。

【守らないと】

火災の原因になります。

■ 高い場所の整備や手入れを行う場合は、脚立などを使用する

【守らないと】

エンジンルームの上などは高温となっているためヤケドを負ったり、高いところから落ちてけがをするおそれがあります。

8. 点検・整備をするとき

⚠危険

■ ラジエータが熱いときは、ラジエータキャップを外さない

ラジエータが過熱しているときは、ラジエータキャップを絶対に外さないでください。

【守らないと】

熱湯が吹き出して、ヤケドをするおそれがあります。

■ バッテリ点検時は火気厳禁

液槽キャップを開けると、バッテリの液槽口から爆発性のあるガスがでます。バッテリを点検するときや液槽キャップを開けるときは、火気を近付けないでください。

【守らないと】

ガスに引火して、ヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。

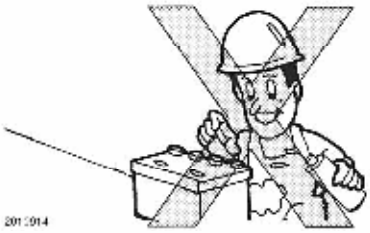
⚠警告

■ バッテリ液を体や衣服に付けないように

バッテリ液を体や衣服に付けないように注意してください。万一、付着したときは、すぐに水で洗い流してください。また、目に入ったときや飲み込んだときは、すぐ水でよく洗った後、必ず医師の治療を受けてください。

【守らないと】

バッテリ液は希硫酸です。衣服が破れたり、失明やヤケドをします。



■ バッテリの取り付け・取り外しは、正しい手順でする

バッテリ端子は、取り付けるときは⊕側を先に取り付け、取り外すときは⊖側から取り外してください。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災の原因になります。

■ 必ず指定のバッテリを使用する

バッテリを交換するときは、必ず取扱説明書で指定された容量のバッテリを使用してください。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災の原因になります。

⚠警告

■ 点検・整備を行うときは、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかける

点検・整備は、平坦な場所でエンジンを停止させ、刈取部昇降ロックを行い、駐車ブレーキをかけて、クローラに歯止めをしてから行ってください。

【守らないと】

機械が動き出し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

■ ブレーキの点検・整備は必ず行う

ブレーキのききが悪かったり、片ぎきになるとたいへん危険です。必ず点検・整備を行ってください。

【守らないと】

死亡や傷害事故、機械の破損を引き起こすおそれがあります。

■ ステアリングハンドルや操作レバー類は、必ず点検・整備をする

ステアリングハンドルや各操作レバー類に、著しいガタや遊びがないか点検し、ある場合は必要な処置をしてください。

【守らないと】

正常な走行ができず、死亡や傷害事故、機械の破損を引き起こすおそれがあります。

■ ステアリングハンドルのきき具合を、必ず点検・整備する

ステアリングハンドルの切角と旋回半径（きき具合）が同じか点検し、違う場合は、点検・整備に出してください。

【守らないと】

片効きになり、死亡事故や重大な傷害事故の原因になります。

■ 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは、厚紙や板などを使って点検する。

高圧噴油に直接、手や体が触れないようにしてください。もし、触れた場合は、直ちに医者の診断を受けてください。

【守らないと】

油が皮膚に浸入した場合、数時間以内に取り除かないと壊疽（えそ）にかかるおそれがあります。

■ 刈取部を上げて点検・整備するときは、必ず下がらないように固定する

刈取部は、必ず刈取部昇降ロックレバーを「閉」にするとともに、歯止めをし、下がらないように固定してください。

【守らないと】

下敷きになり、重大な傷害事故をまねくおそれがあります。

⚠警告

■ ゲートを開けて点検・整備するときは、必ずゲートが下がらないように固定する

ゲートは、必ずゲート開閉ロックレバーを『閉』にするとともに、歯止めをし、閉じないように固定してください。

【守らないと】

ゲートに挟まれて、重大な傷害事故をまねくおそれがあります。

⚠注意

■ 取り外したカバー類は、必ず取り付ける

点検・整備で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、回転部にふれてケガをする原因になります。

■ クローラの摩耗やキズを点検する

クローラが著しく摩耗していたり、キズが付いていないか点検し、ある場合は新しいクローラと交換してください。

【守らないと】

横滑りや、転倒事故の原因になります。

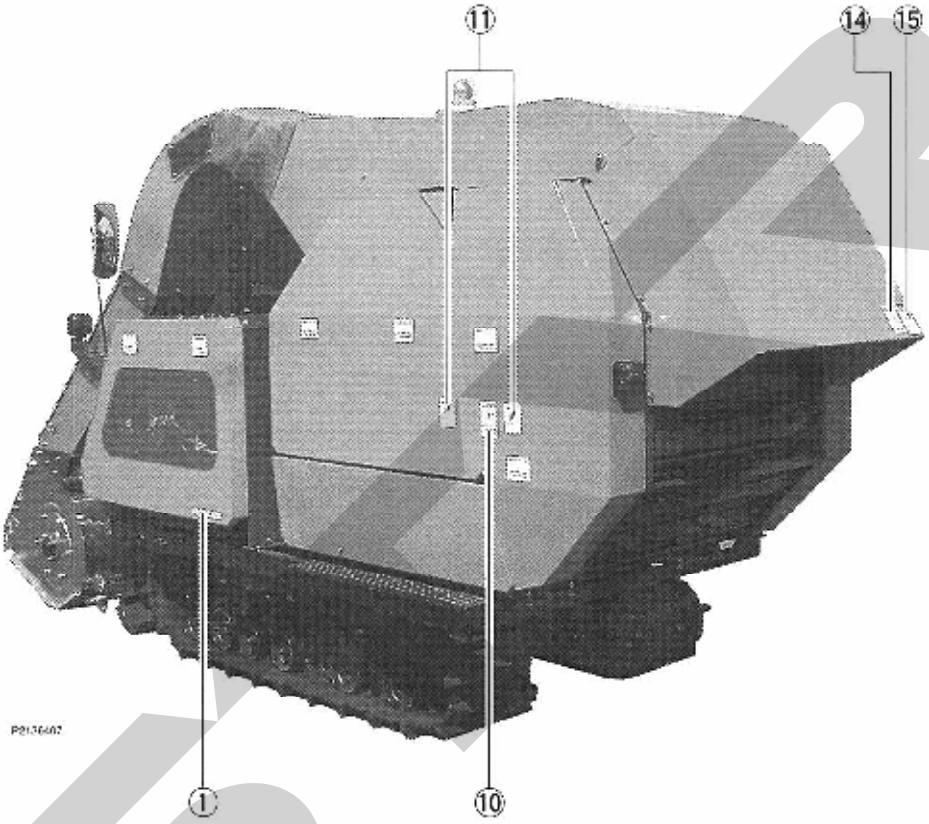
■ トワインナイフを交換するときは、厚手の手袋を着用し、刃先にさわらない

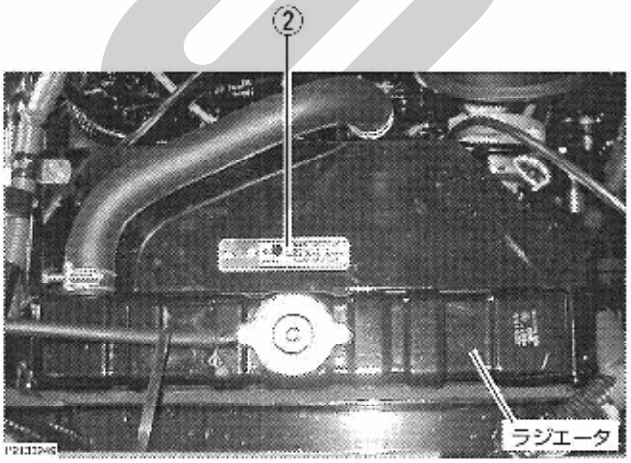
【守らないと】

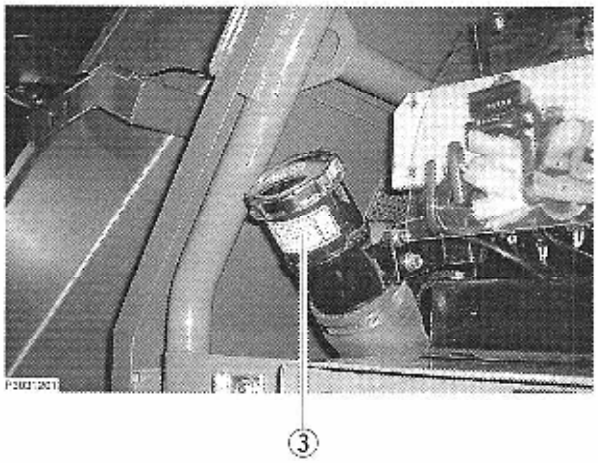
素手で刃先にふれると、けがをするおそれがあります。

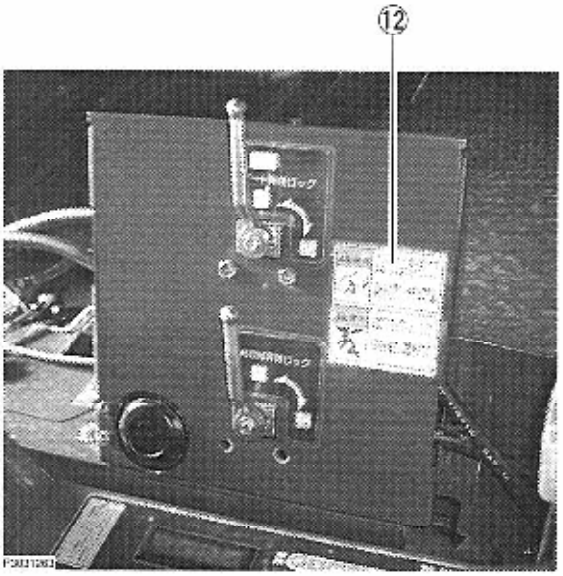
9. 安全銘板の貼り付け位置

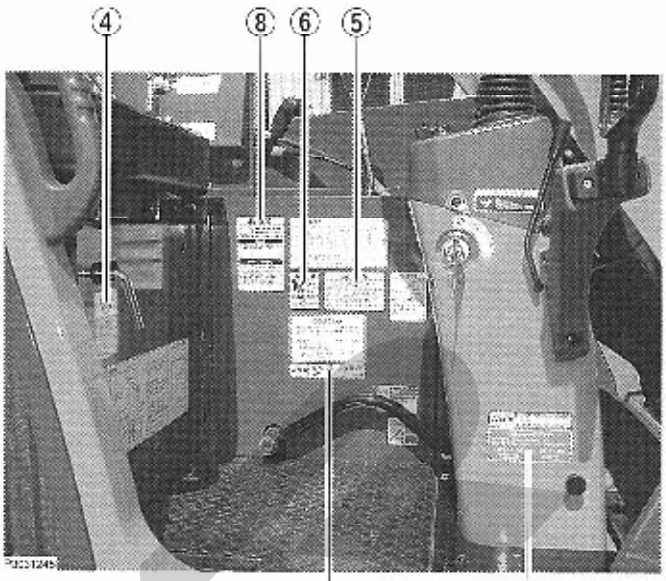
安全に作業していただくために安全銘板の貼り位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。

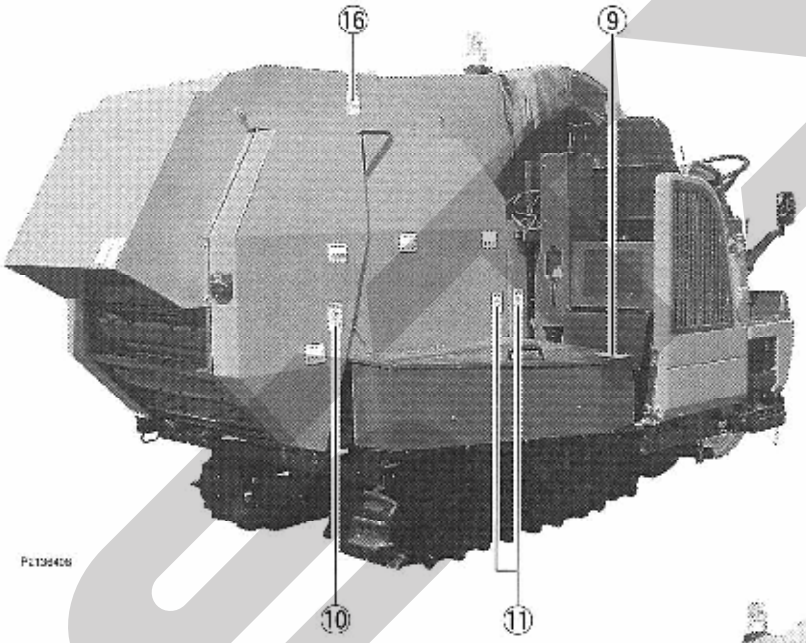


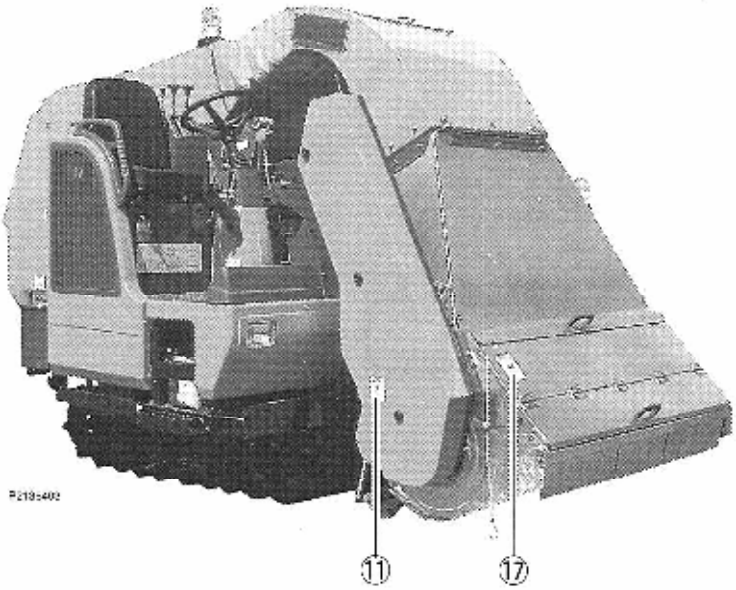




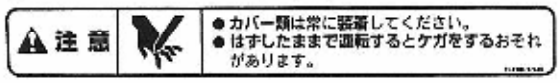

⑫


④
⑧
⑥
⑤
⑬
⑦


⑯
⑨
⑩
⑪


⑪
⑰

① 1E8500-97440 注意（ベルトカバー

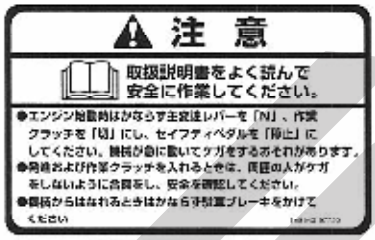


② 1E8500-97220 危険（ラジエーター

③ 1E8230-97030 危険（火気厳禁B

④ 1E3100-97390 警告（カバーオープン

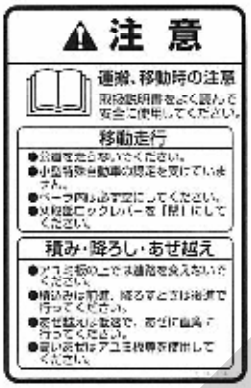
⑤ 1E8540-97720 注意（取扱S



⑥ 1E8500-97460 注意（エンジン停止

⑦ 1E8665-97300 注意（旋回モード

⑧ 1K1140-97421 注意（運搬、移動



⑨ 1E3100-49590 ラベル；警告149

⑩ 1K1140-40020 ラベル；警告71

⑪ 1E3100-40030 ラベル；警告84

⑫ 1K1140-40200 ラベル；警告164

⑬ 1E8230-97800 注意（UFO

⑭ 1K1140-40060 ラベル；警告105

⑮ 1K1140-40040 ラベル；警告75

⑯ 1K1140-40050 ラベル；警告82

⑰ 1K1140-40000 ラベル；警告68

保証書は大切に保管してください

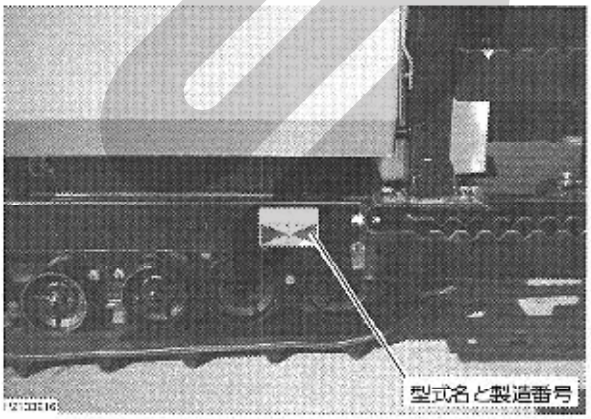
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

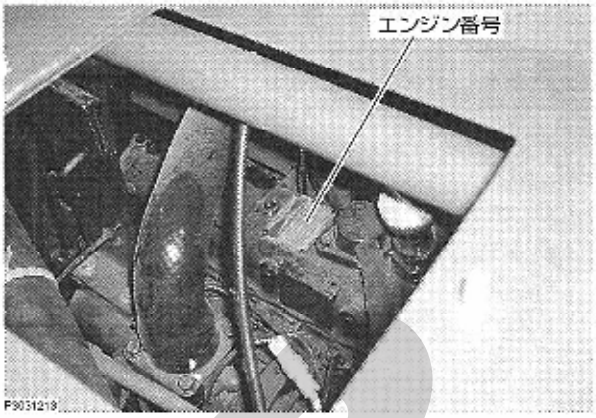
アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに104ページの「11章 不調診断のしかた」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
  (何速で、どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
  (約□□アールまたは約□□時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。





※写真はエンジンオイル給油口ふたを開けて見ています。

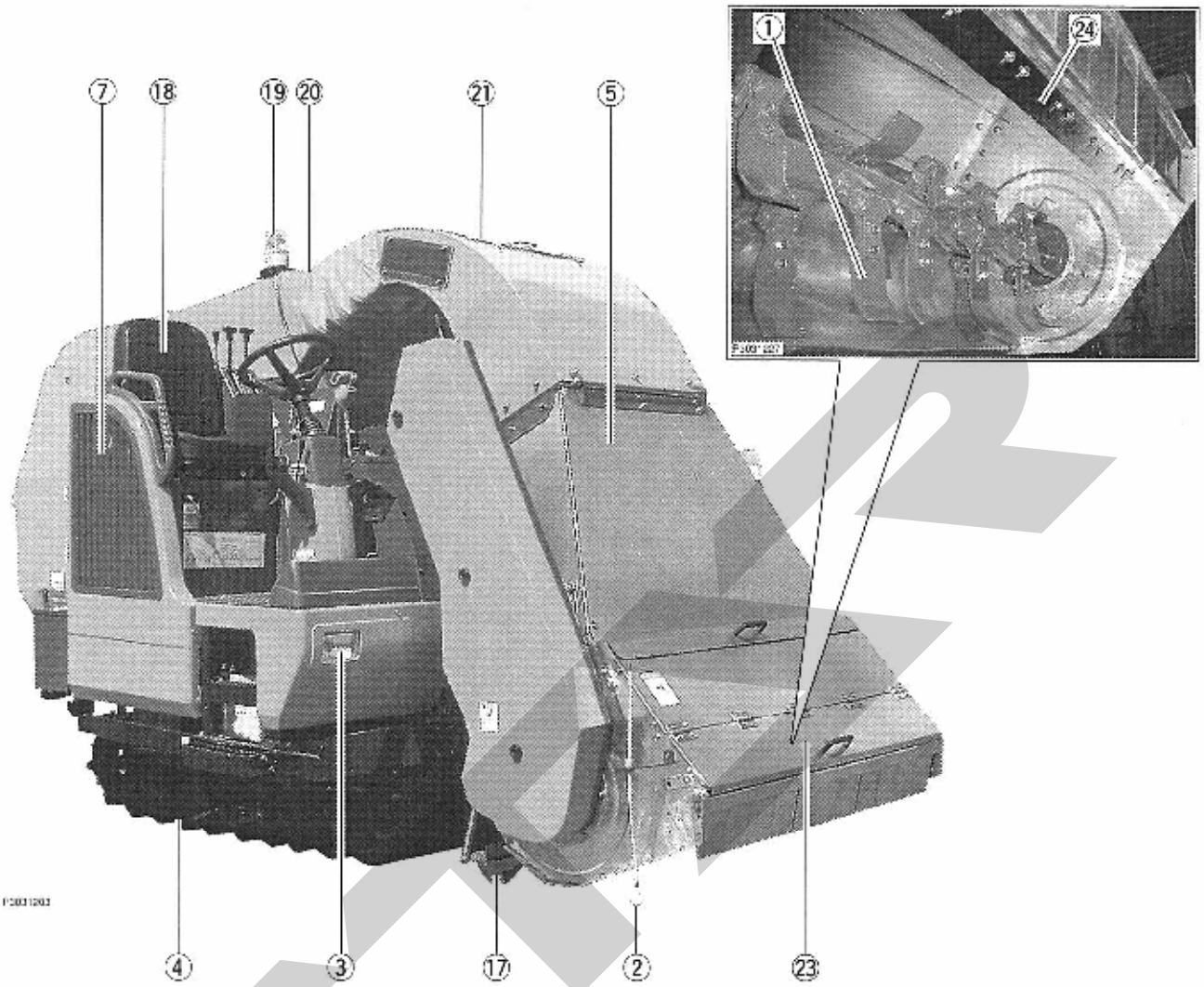
補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

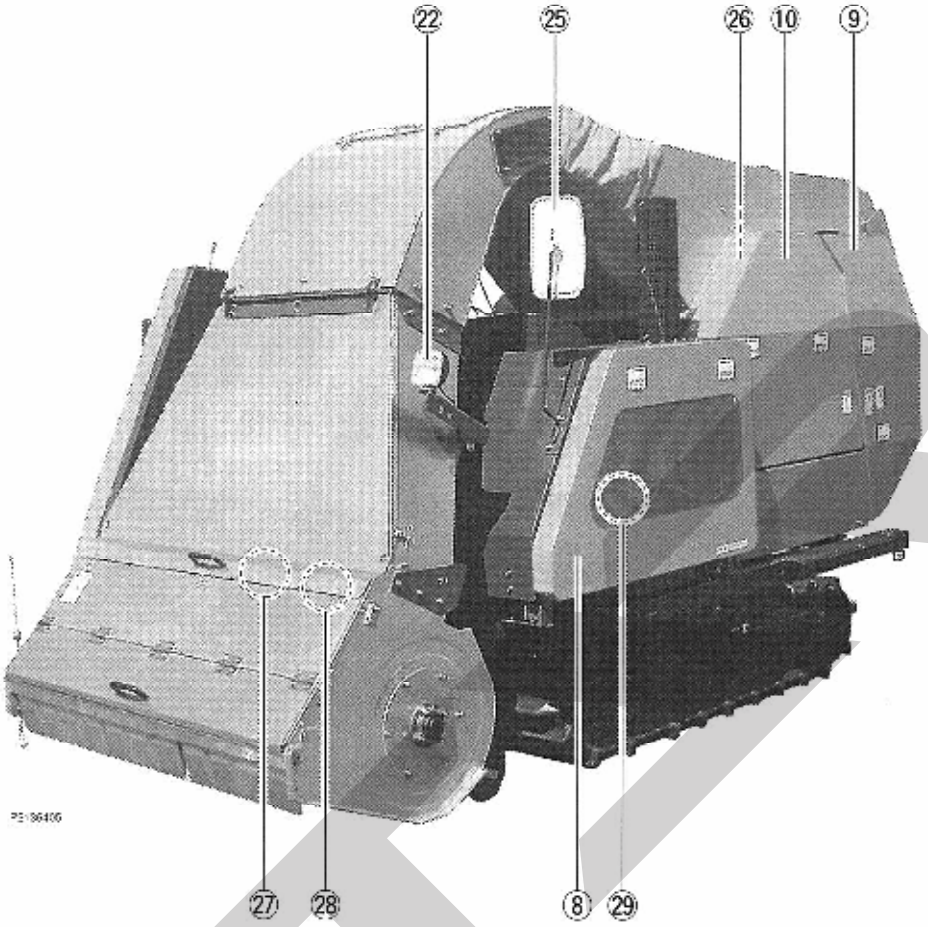
メーカー純正部品・オイルについて

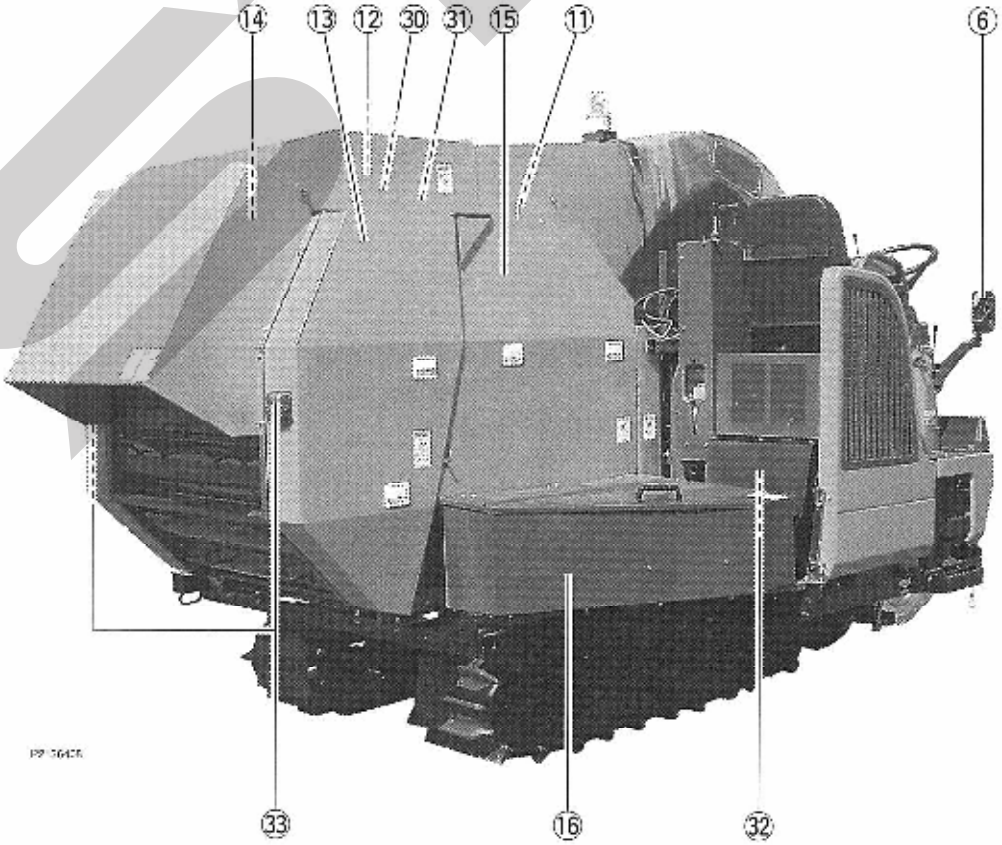
純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ねきびしい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。
部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルとご指定ください。

各部のなまえ



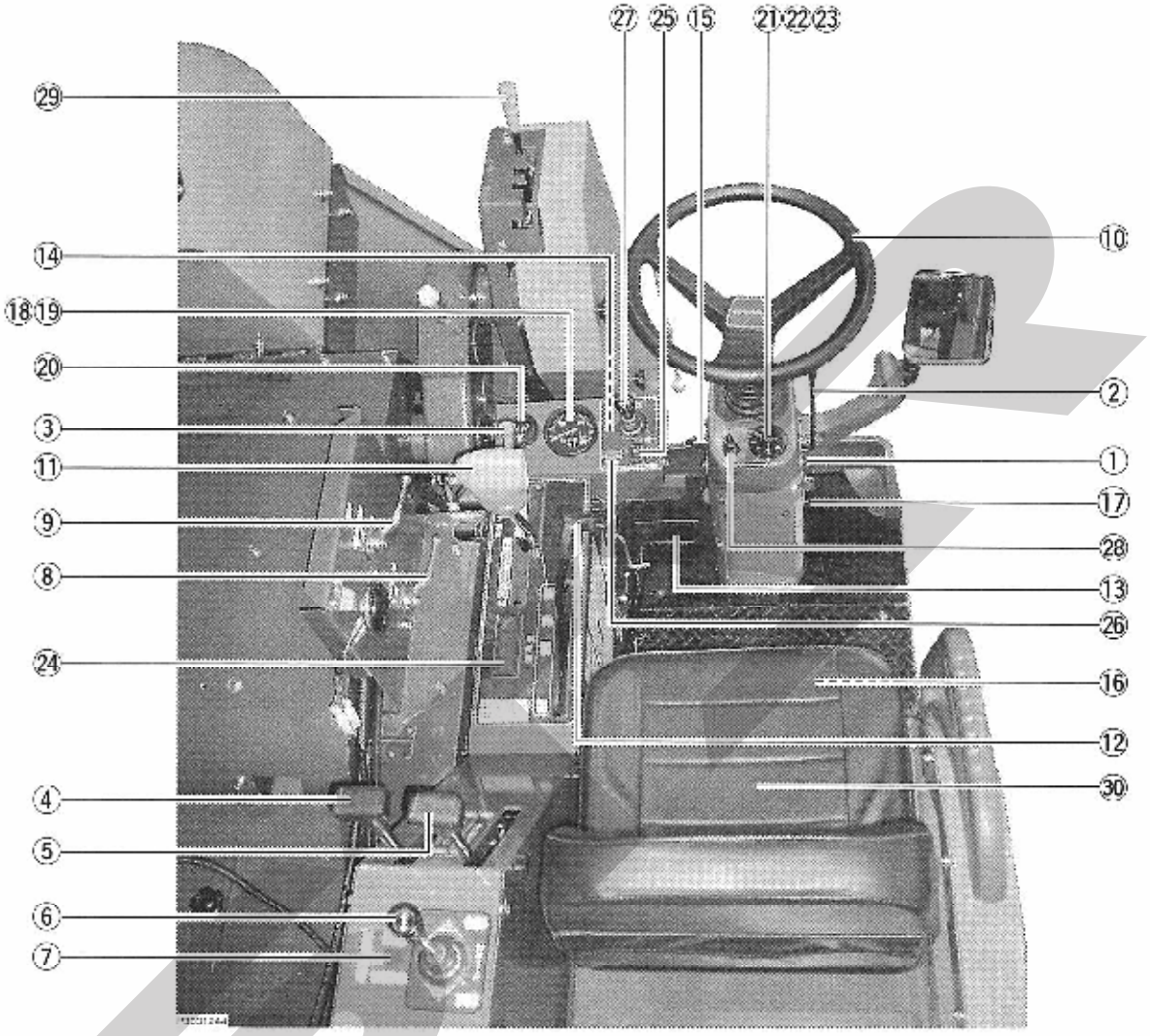
①フレールカッター
②マーカー
③ヘッドライトR
④クローラ
⑤刈取掃除口カバー
⑥バックミラーR
⑦エンジンルームカバー
⑧ルーム枠カバー
⑨ゲートカバーL
⑩フロントカバーL
⑪梱包密度インジケーター
⑫ゲート開閉シリンダ
⑬ゲートカバーR
⑭スチールローラ
⑮フロントカバーR
⑯トワインケーシング
⑰センサソリ
⑱ドライバシート
⑲パトライト
⑳エアシュート掃除口
㉑シュート掃除口
㉒ヘッドライトL
㉓受刃カバー
㉔受刃
㉕バックミラーL
㉖自動注油ポンプ
㉗刈取昇降シリンダ
㉘刈取下げストッパ
㉙燃料給油口
㉚トワインプーリ
㉛トワインローラ
㉜エアクリーナ
㉝ウインカ


㉒
㉕
㉖
⑩
⑨
㉗
㉘
⑧
㉙


⑭
⑬
⑫
㉚
㉛
⑮
⑪
⑥
㉝
⑯
㉜

運転席周り

このページの部品名称は、「4章　各操作部のはたらき」(28～38ページ) で説明しています。

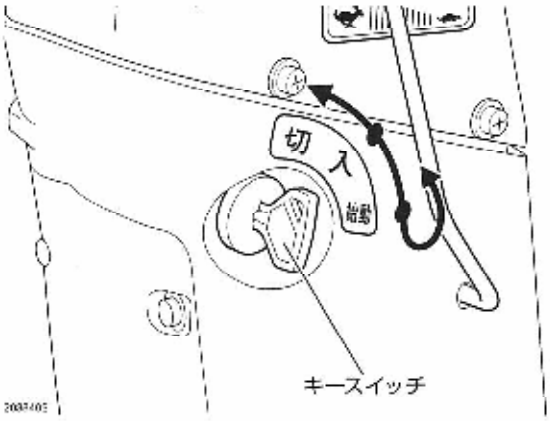


①キースイッチ
②アクセルレバー
③刈高さ調節レバー
④フレールクラッチレバー
⑤ベーラクラッチレバー
⑥ゲート開閉レバー
⑦トワイン繰出しスイッチ
⑧刈取部昇降ロックレバー
⑨ゲート開閉ロックレバー
⑩ステアリングハンドル
⑪主変速レバー
⑫副変速レバー
⑬セフティペダル
⑭駐車ブレーキロックレバー
⑮チルトレバー
⑯エンジンルームカバーロックレバー
⑰旋回モード切替ノブ
⑱回転計
⑲アワメータ
⑳燃料計
㉑ウインカスイッチ
㉒ライトスイッチ
㉓ホーンボタン
㉔モニターランプ
㉕UFO自動スイッチ
㉖傾斜角調節ダイヤル
㉗車高調節レバー
㉘エコモード切替スイッチ
㉙センサソリ調節レバー
㉚ドライバーシート

エンジンコントロール関係

❶キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。



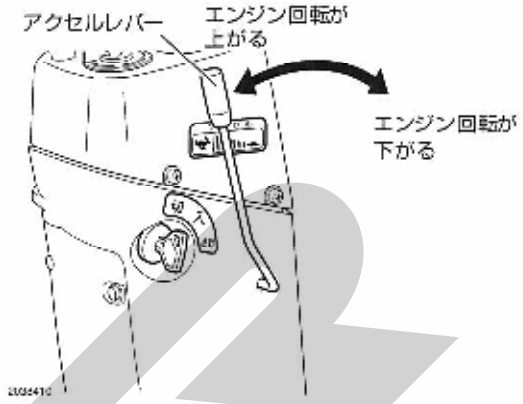
- 「切」位置……エンジン停止時に使用する（電流は流れず、キーを抜き取れる）
- 「入」位置……各電装スイッチに電流が流れる（エンジンが停止している場合は、モニターランプの油圧パイロットランプとチャージパイロットランプが点灯する）
- 「始動」位置…セルモータが回転し、エンジンが始動する
  モニターランプのグローパイロットランプが消灯していることを確認してから、「始動」位置にしてください。
  （エンジンが始動したらキーから手を離す。キーは自動的に「入」位置に戻り、連続運転に入る）

参考

- 寒冷時には、エンジン始動を容易にするため、キースイッチを「入」位置にすると、自動的にエアヒータが作動し、始動準備が完了するとエアヒータの通電が停止し、グローパイロットランプも消灯します。

❷アクセルレバー

エンジン回転の上げ下げに使用します。

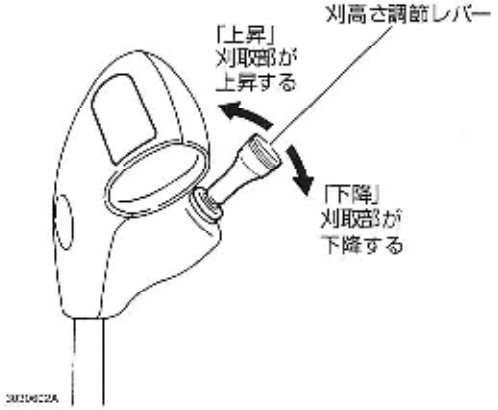


- 手前に引く……エンジンの回転が上がる
- 前方に押す……エンジンの回転が下がる

作業関係

❸刈高さ調節レバー

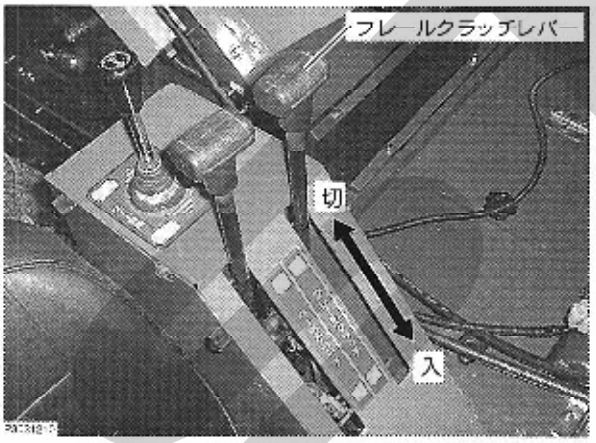
刈取部の上昇・下降に使用します。



- 「下降」側……刈取部が下がる
- 「上昇」側……刈取部が上がる

❹フレールクラッチレバー

刈取部の作動・停止に使用します。



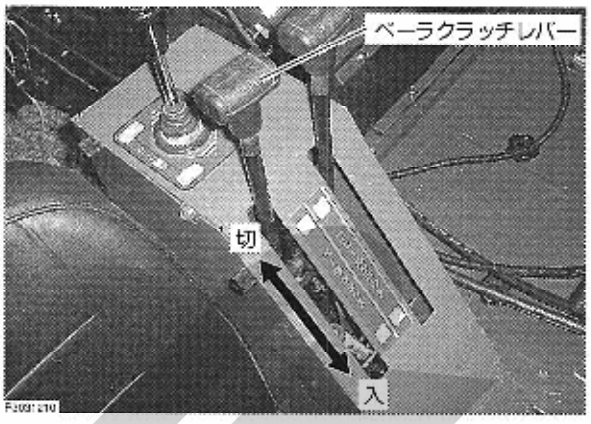
- 「入」位置……刈取部が作動する。
- 「切」位置……刈取部が停止する。

参考

- ベーラクラッチレバー・フレールクラッチレバーが「切」位置のとき、フレールクラッチレバーを「入」位置にするとベーラクラッチレバーも連動して、「入」位置になります。

❺ベーラクラッチレバー

ベーラ部の作動・停止に使用します。



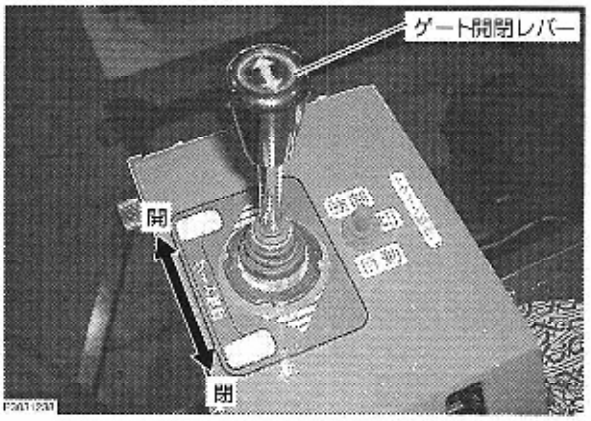
- 「入」位置……ベーラ部が作動する。
- 「切」位置……ベーラ部が停止する。

参考

- ベーラクラッチレバー・フレールクラッチレバーが「入」位置のとき、ベーラクラッチレバーを「切」位置にするとフレールクラッチレバーも連動して、「切」位置になります。

❻ゲート開閉レバー

ベーラのゲートの開閉に使用します。



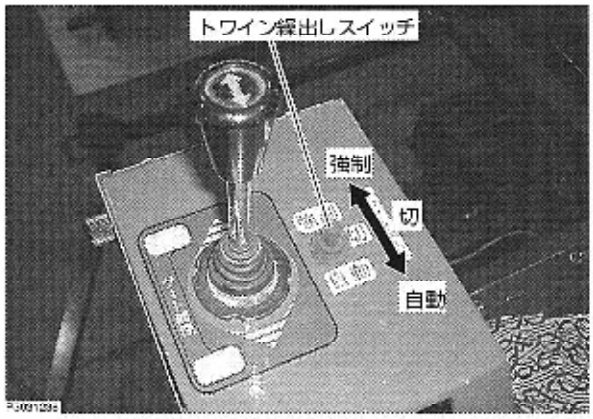
- 「開」側……ゲートが開きます。
- 「閉」側……ゲートが閉じます。

取扱いの注意

- **ゲートの開閉に連動して、ベーラ部駆動チエーンへ自動で注油する機構になっていますので、ベーラクラッチレバー「切」状態でのゲート開閉は少なくしてください。注油過剰になります。**

❼トワイン繰出しスイッチ

トワインの繰出し方を切替えて、ベールの結束方法を選べます。



- 「強制」側……トワインを任意に繰出し、ベールを結束します。
  スイッチを倒すと数秒間、繰出しを行います。スイッチから手を離すと自動的に「切」位置に戻ります。
- 「切」側……トワインの繰出しをしません。
- 「自動」側……ベーラ部が満量になったとき、自動的にトワインを繰出し、ベールを結束します。

参考

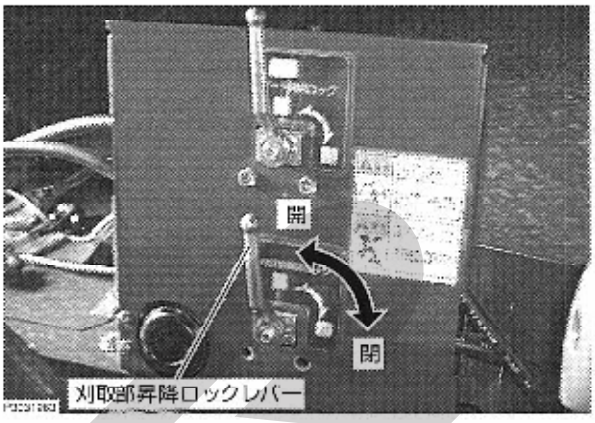
- 「強制」位置にしたとき、パトライトが数秒間点灯します。（ブザーは鳴りません）
- 「自動」「切」位置で作業し、ベーラ部が満量になったときは、ブザーが断続して鳴り、同時にパトライトが点灯します。
- 「自動」位置のとき、トワインの繰出しは、ブザー停止後に始まります。

取扱いの注意

- **ベーラクラッチレバーが「切」位置（ベーラ駆動チェンが停止）のときは、トワインは繰出されません。**
- **刈取量が少なくベールが回転していないときは、結束されません。**

❽刈取部昇降ロックレバー

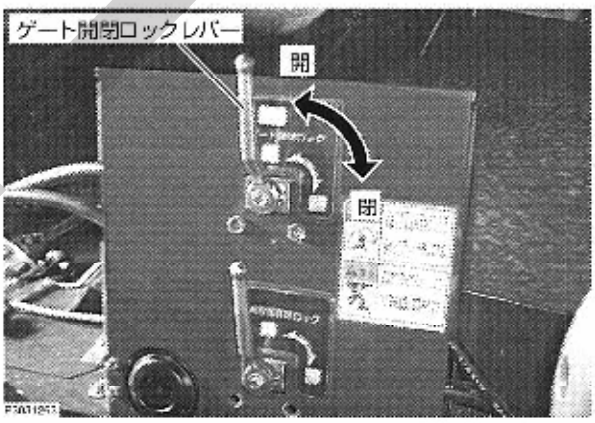
刈取部の上昇・下降の動きを固定します。



- 「開」側…刈取部が上昇・下降できます。
- 「閉」側…刈取部の上昇・下降の動きを固定します。

❾ゲート開閉ロックレバー

ゲートの開閉の動きを固定します。

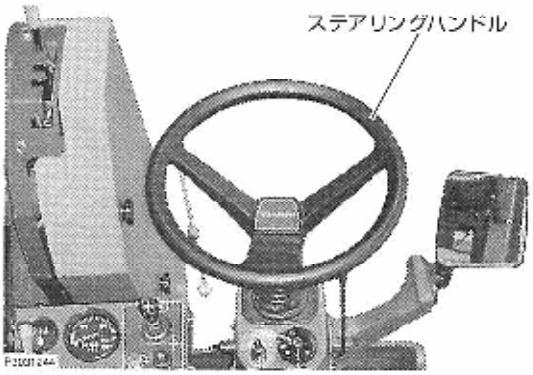


- 「開」側…ゲートが開閉できます。
- 「閉」側…ゲートの開閉の動きを固定します。

走行関係

⑩ステアリングハンドル

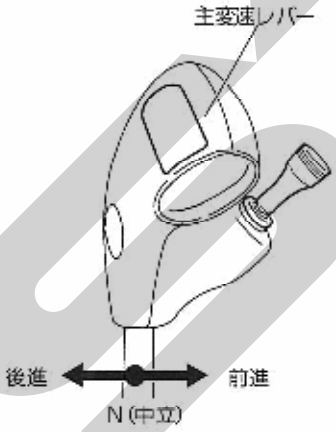
機体を旋回させるときに使用します。



ハンドルを右へ回すと機体が右へ旋回し、左へ回すと左へ旋回します。
さらにハンドルを右または左へ回すと、左右のクローラが逆転し、旋回半径が小さくなります。

⑪主変速レバー（HST）

前進・後進の進行方向と走行速度の調節、および走行の停止に使用します。



- 「前進」側……機体が前進する
- 「後進」側……機体が後進する
- 「N」（中立）位置……機体が停止する

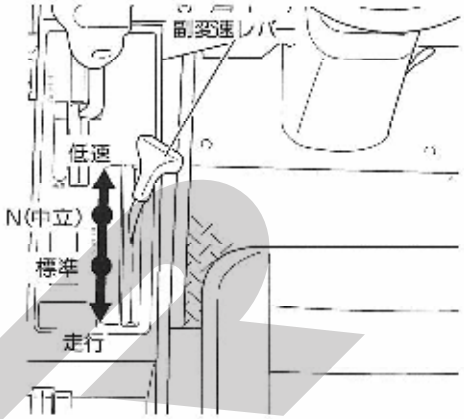
走行速度は、レバーの操作量によって無段階に選べます。

取扱いの注意

- **セフティペダルを踏み込むと、主変速レバーは「N」（中立）位置に戻り、主変速レバーの操作はできません。**

⑫副変速レバー

使用目的や条件により、「低速」「標準」「走行」の3段階の走行速度が選べます。



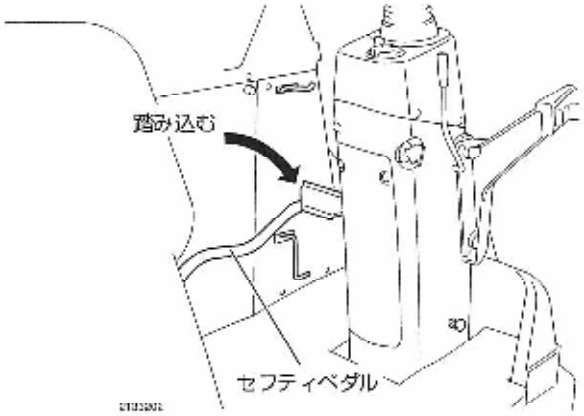
- 「低速」位置……半倒状や悪条件作物
  トラックへの積み、降ろし
  ほ場の出入り
- 「N」（中立）位置……走行しない
- 「標準」位置……標準的な作物
- 「走行」位置……移動走行

取扱いの注意

- **主変速レバーを、必ず「N」（中立）位置にして、機体を完全に停止してから変速してください。**
- **セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。**
- **坂道では変速しないでください。**

⑬セフティペダル

エンジン始動時、および走行中の緊急停止時に使用します。



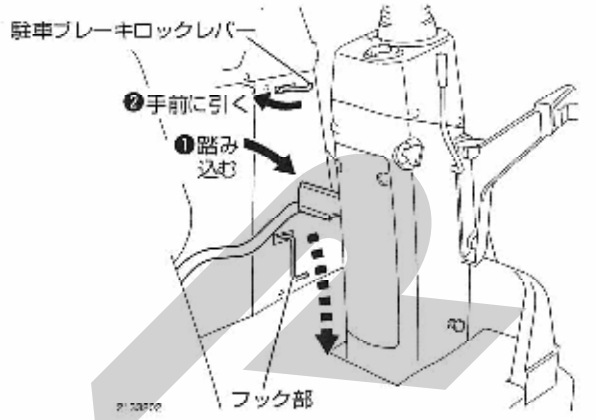
セフティペダルを踏み込むと、主変速レバーが「N」(中立) 位置に戻り、本機が停止し、ブレーキがききます。

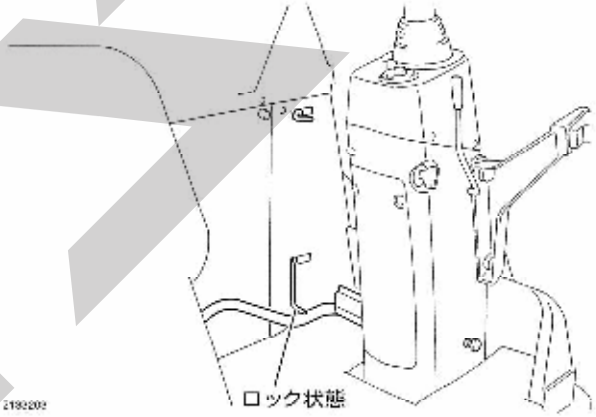
参考

- 通常の走行停止は、主変速レバーを「N」(中立) 位置にして行ってください。

⑭駐車ブレーキロックレバー

ドライバーシートに座って、駐車ブレーキをかけるときに使用します。





セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけると、駐車ブレーキがかかります。

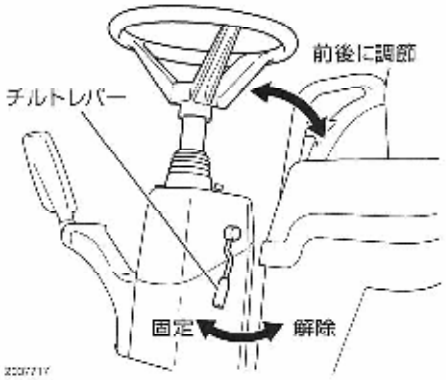
解除するときは、セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フックが外れ解除できます。

参考

- セフティペダルを踏み込むと、主変速レバーが「N」(中立) 位置に戻り、本機が停止し、ブレーキが効きます。
- 駐車ブレーキをかけると、主変速レバーの操作はできません。

⑮チルトレバー

ステアリングハンドルの、前後の角度を調節するときに使用します。

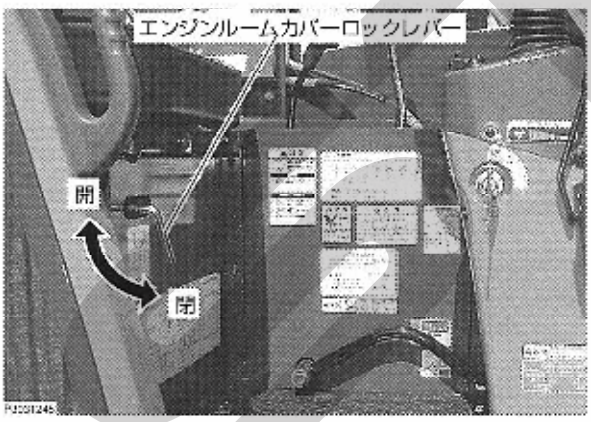


- 「解除」位置……ハンドルの固定が解除される
- 「固定」位置……ハンドルが固定される

好みの角度に調節し、調節後は確実に固定してください。

⑯エンジンルームカバーロックレバー

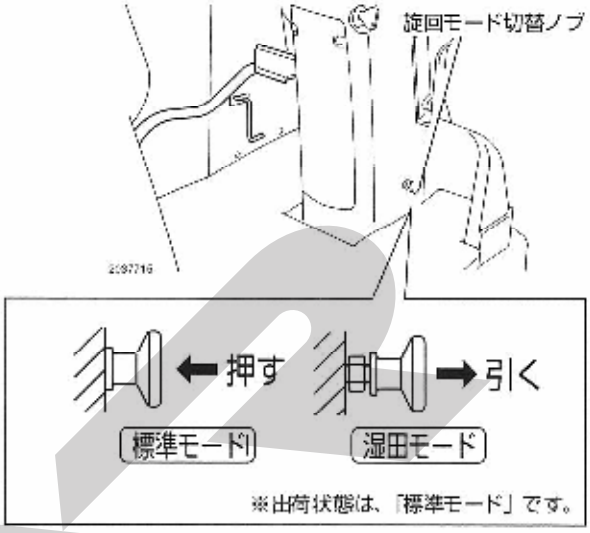
エンジンルームカバーの開閉に使用します。



エンジンルームカバーをオープンするときは、エンジンルームカバーロックレバーを「開」方向に引いてください。エンジンルームカバーを閉めたときは、ロックが確実にできているか確認してください。

⑰旋回モード切替ノブ

旋回モードを切り替えるときに使用します。



旋回モード切替ノブは、主変速レバーを「N」（中立）位置、ステアリングハンドルを「中立」にして操作してください。

- ノブを押し込む…標準モード（スピンターンする）
- ノブを引き出す…湿田モード（スピンターンしない）

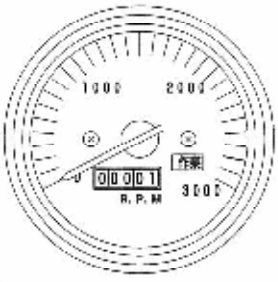
参考

- 「標準モード」では、旋回時に自動減速が働いて小回りができますが、「湿田モード」では、自動減速せずに大回りになります。路上走行するときは、「標準モード」にしてください。
- 乾いたほ場での作業や・移動走行では、「標準モード」を使用してください。ぬかるみで作業をする場合は、「標準モード」でも十分に作業は可能ですが、機体の沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えると、さらに旋回性能が向上します。

	標準モード	湿田モード
旋回時の車速	減速する	減速しない
副変速「標準」での旋回	スピンターンする（小回り）	スピンターンしない（大回り）
乾いたほ場での旋回	◎	○
ぬかるみでの旋回	○※ハンドルを切りすぎない	◎（旋回力大）
移動走行性能	◎	×（使用不可）
中耕入れ性能	◎	×（使用不可）

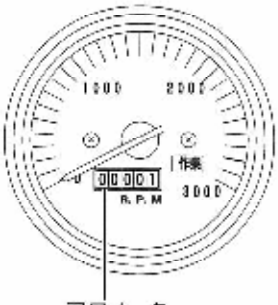
⑱回転計

エンジン回転数を表示します。



⑲アワメータ

アワメータは、エンジンの使用時間を表示します。
(エンジンを始動するとカウントを始めます。)



アワメータ

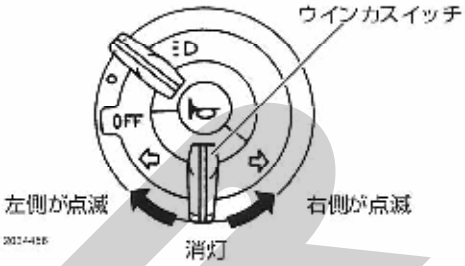
⑳燃料計

燃料の残量を表示します。
針が「E」位置を示した場合は早めに燃料を補給してください。

電装関係

㉑ウインカスイッチ

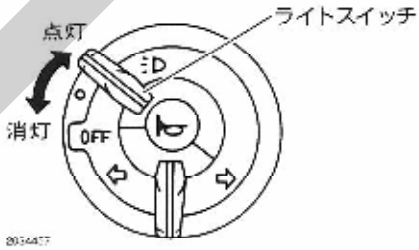
旋回方向を指示するときに使用します。



キースイッチを「入」位置にして、旋回する側の矢印方向に回すと、ウインカが点滅します。

㉒ライトスイッチ

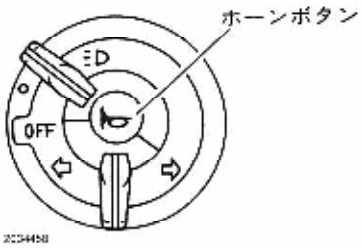
ヘッドライトを点灯させるときに使用します。



キースイッチを「入」位置にして、ライトスイッチを右（点灯ED）側に回すと、ヘッドライトが点灯し、左（OFF）側に回すと消灯します。

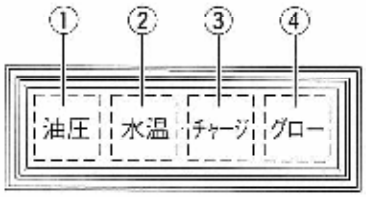
㉓ホーンボタン

ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。



キースイッチを「入」位置にして、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

㉔モニターランプ



21J5201

①油圧パイロットランプ

エンジンの潤滑油圧力が低下したとき、ランプが点灯し、ブザーが鳴ります。

参考

- エンジン始動時にキースイッチを「入」位置にすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。

②水温パイロットランプ

エンジンの冷却水温が異常に上がったとき、ランプが点灯しブザーが鳴ります。

③チャージパイロットランプ

エンジン回転中、バッテリに充電しなくなったときランプが点灯します。

参考

- エンジン始動時にキースイッチを「入」位置にすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。

④グローパイロットランプ

寒冷時には、エンジン始動を容易にするため、キースイッチを「入」位置にするとランプが点灯し、自動的にエアヒータが作動します。始動準備が完了するとエアヒータの通電が停止し、グローパイロットランプも消灯します。

自動化装置

〈機体水平制御（UFO）装置〉

⚠注意

- **路上や傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、必ずUFO自動スイッチを「切」（ランプ消灯）にしてください。機械が急に傾き転倒し、ケガをするおそれがあります。**

㉕UFO自動スイッチ

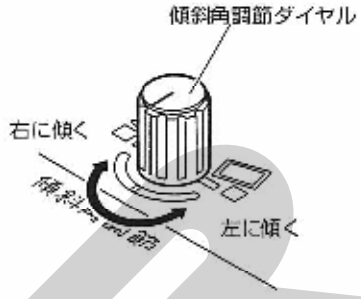
機体を水平に自動制御するときに使用します。
傾斜角調節ダイヤルにより、自動制御する角度を調節できます。

スイッチを押すごとに「入」「切」を繰り返します。
自動制御は、ペーラクラッチレバーが「入」位置のときに作動します。

- 「入」（ランプ点灯）……自動制御が働く
- 「切」（ランプ消灯）……自動制御が切れる

㉖傾斜角調節ダイヤル

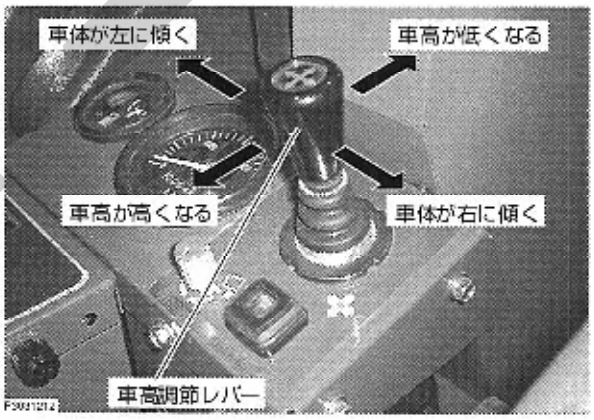
本機の左右傾斜角を、希望の角度に自動制御するときに使用します。



- 中央位置 ……水平になる
- ⟲ 方向に回す……右に傾く（左上りの傾斜角）
- ⟳ 方向に回す……左に傾く（右上りの傾斜角）

㉗車高調節レバー

手動で左右傾斜角度を調節するときに使用します。



- 前方に倒す ……車高が低くなる
- 後方に倒す ……車高が高くなる
- 左に倒す ……車体が左に傾く
- 右に倒す ……車体が右に傾く

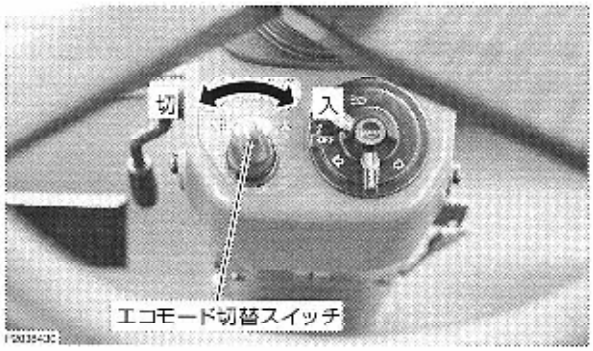
参考

- 車高水平制御装置には、手動優先回路が組み込まれていて、自動制御中でも車高調節レバーを操作すると、手動で機体の昇降角度を調節できます。手動調節をやめると自動制御が働きます。
- 自動制御中に手動で機体の角度や車高を調節したときは、UFO自動スイッチのランプは消灯します。

〈自動定回転制御装置〉

エンジン回転を自動的に制御したいときに使用します。

㉘エコモード切替スイッチ



- 「切」位置…… アクセルレバーでエンジン回転を調節できる
- 「入」位置…… ベーラクラッチレバーが「入」位置のとき、自動的にエンジン回転が回転計の「グリーンゾーン」位置（定格回転2800rpm）になる。
  ベーラクラッチレバーを「切」位置にすると、自動的にエンジン回転が「低回転（アイドリング）」になる。

参考

- エコモード「入」位置のときは、アクセルレバーでのエンジン回転の調節はできません。

〈刈取バックアップ装置〉

ベーラクラッチレバー「入」位置のとき、主変速レバーを後進位置にすると刈取部が自動で上昇します。

取扱いの注意

- **ベーラクラッチレバー「切」位置で後進するとき、センサーソリが土を引っ掛けないように、必ず刈取部を上げてから行ってください。**
- **刈取バックアップが作動中に、刈高さ調節レバーを操作すると、調節レバーでの操作（手動操作）が優先されます。**

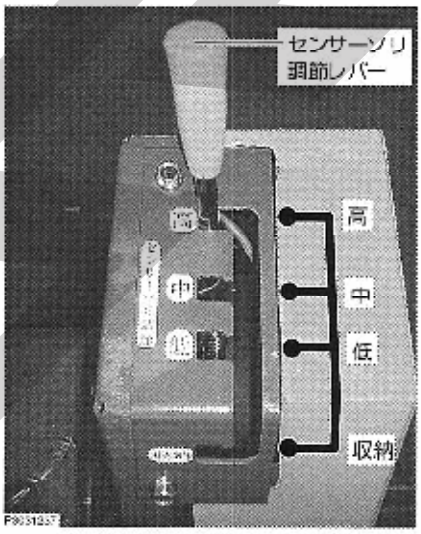
〈OKリフト〉

センサーソリ調節レバーで設定された刈高さ以下になったときに、自動的に刈取部を上昇させます。
ベーラクラッチレバーが「入」位置のときに作動します。

㉙センサーソリ調節レバー

OKリフトが働く高さを調節するときに使用します。
3段階に調節できます。

- 「収納」位置ではOKリフトが解除になります。



参考

- センサーソリ調節レバーが「収納」位置のときは、刈高さ調節レバーで調節してください。
- センサーソリ調節レバーを操作するときは、刈取部を地面に接地させた状態で行うと、軽く操作できます。

取扱いの注意

- **OKリフトは、上昇のみ作動します。下降は刈高さ調節レバーで下げてください。**
- **ほ場が軟らかくOKリフトが働きにくいような場合は、センサーソリ調節レバーを希望の刈高さより高い設定、または「収納」位置にし、刈高さ調節レバーで調節してください。**

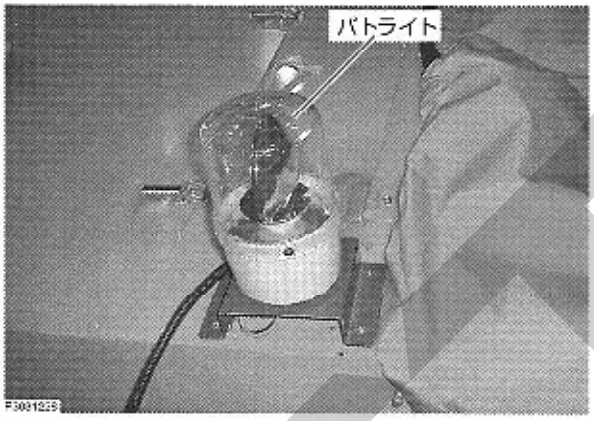
警報装置

❶ベーラ満量警報

トワイン繰出しスイッチ「自動」「切」位置のときベーラ内が満量になると、ブザーの断続音と連動してパトライトが数秒間点灯し、作業補助者などに知らせます。
パトライトは、マグネット式で自由に設置できます。

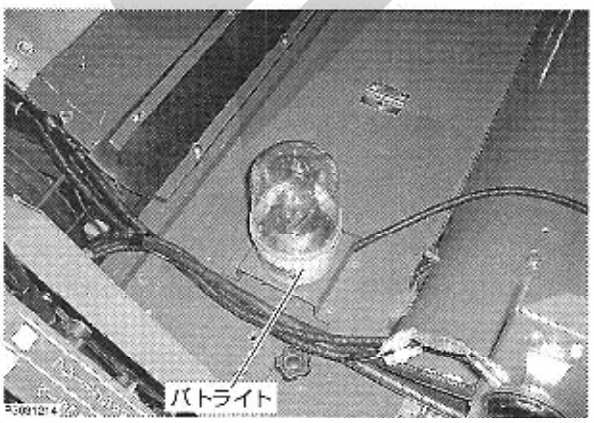
参考

- トワイン繰出しスイッチ「強制」位置にしたときは、パトライトが数秒間点灯します。(ブザーは鳴りません)



取扱いの注意

- **刈取作業以外のときは、エンジンルームの上に設置してください。エンジンルーム以外では落下して破損するおそれがあります。**



❷オーバーロード警報

作業による負荷が大きくなり、エンジン回転が下がると、ブザーが鳴ります。

参考

- 作業速度を下げて、負荷を下げてください。

❸傾斜角警報

本機の左右傾斜角度が大きくなると、ブザーが鳴ります。
左右各「15度～17度」……断続音
左右各「17度」以上……連続音

参考

- ブザーが鳴ったら本機の傾斜角を小さくしてください。

❹エンジン始動安全警報

エンジン始動時、ベーラクラッチレバーが「入」位置のときは、キースイッチを「始動」位置にしても警報ブザーが鳴り、エンジンの始動ができません。

参考

- ベーラクラッチレバーを「切」位置にしてください。

⚠危険

- エンジンが熱い間は、注油・給油を絶対にしないでください。守らないと、ヤケドや火災のおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。守らないと、火災の原因になります。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと、こぼれた燃料に引火して、ヤケドや火災のおそれがあります。

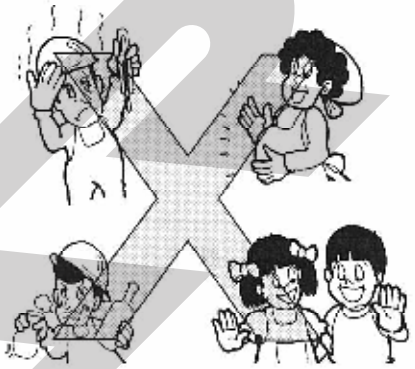
⚠警告

- 点検・整備・調節を行うときは、平坦で安定した場所で行ってください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

1.作業者の体調・服装について

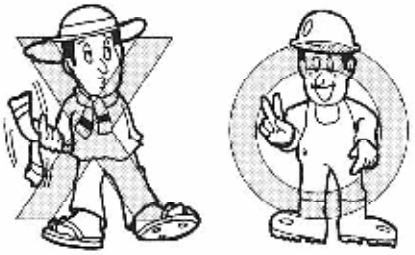
体調について

作業を行うときは、健康な状態で行ってください。過労・病気・薬物の影響、その他の理由で作業に集中できないときには、作業を行わないでください。特に、お酒を飲んで酔っている・妊娠している・18才未満の人は作業を行わないでください。



服装について

- 操作レバーや機械部品に引っかからない、だぶつきのない服装をしてください。
- 安全靴などのすべり止めの付いた靴を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- 作業によっては、保護メガネ・マスク・手袋などの保護具を必ず着用してください。
- タオルをはち巻き・首巻き・腰にはさんで作業を行わないでください。



2.本機の点検のしかた

運転・作業を行う前の点検は次の順序で行ってください。

点検順序	点検箇所	参照ページ
前日の異常箇所	● 前日の作業中に異常を感じたところがありませんか	104～110
本機の周りを回ってみて	● 各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか	
	● 燃料の量と燃料もれはありませんか	77・78
	● クローラの損傷・ゆるみはありませんか	94
	● 各部注油箇所の油切れはありませんか	75・76
	● 各部ベルト・チェンのゆるみや折損はありませんか	91～93・95～98
エンジンルームカバーおよびルーム枠カバーを開けてみて	● エンジンオイルの量と汚れ、油もれはありませんか	77・79
	● 燃料の量と燃料もれ、水もれ、オイルもれはありませんか	77～81
	● 冷却水の量と水もれ、ホースの損傷はありませんか	77・81
	● エアクリーナーの汚れはありませんか	85
	● 冷却ファンのベルト張りと損傷はありませんか	91
	● エンジン防塵装置のほこりやゴミはありませんか	86・87
	● 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか	89
	● マフラーおよび連結パイプの亀裂・腐食などがありませんか	89
	● マフラーおよび連結パイプ・カバー内の高温部に可燃物（ワラ屑など）の堆積や付着がありませんか	
ドライバーシートに座ってみて	● ランプ・メータ・スイッチの作動状態は正常ですか	34・35
	● ドライバーシートの前後位置は作業しやすい位置になっていますか	41
	● ステアリングハンドルが、チルト機構により固定されていますか、また作業しやすい位置になっていますか	33
エンジンを始動してみて	● エンジン始動後に異音はありませんか	
	● 排気ガスの色は正常ですか	95
	● 各作業クラッチレバー・スイッチの作動状態は正常ですか	29・30
	● セフティペダルの作動具合は正常ですか	32
	● ステアリングハンドルで機体の旋回が行えますか	31
	● 刈高さ調節レバーで刈取部の昇降が行えますか	29
	● ゲート開閉レバーでベーラ部のゲートの開閉が行えますか	29
	● フレールクラッチレバーで刈取部の駆動停止が行えますか	29
	● ベーラクラッチレバーでベーラ部の駆動停止が行えますか	29

1.本機への乗降のしかた

乗降のしかた

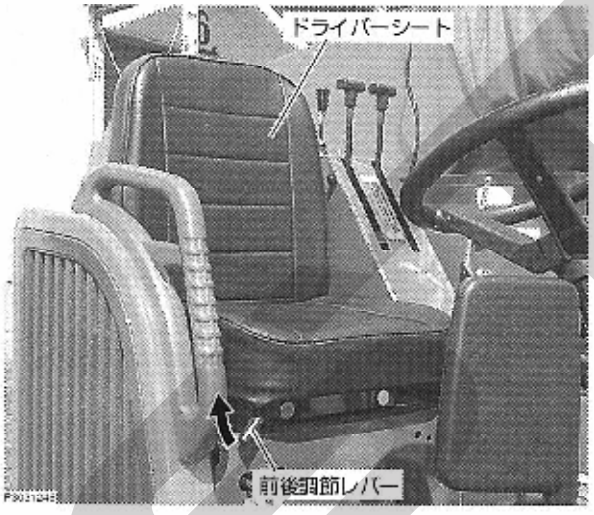
運転席右側より乗降してください。

⚠注意

- 本機への飛び乗り、飛び降りは、あぶないので行わないでください。
- エンジンルームがエンジンルームロックレバーで確実に固定されているか確認してください。

2.ドライバーシートの前後調節のしかた

運転者の体格に合わせて、前後に4段階調節できます。



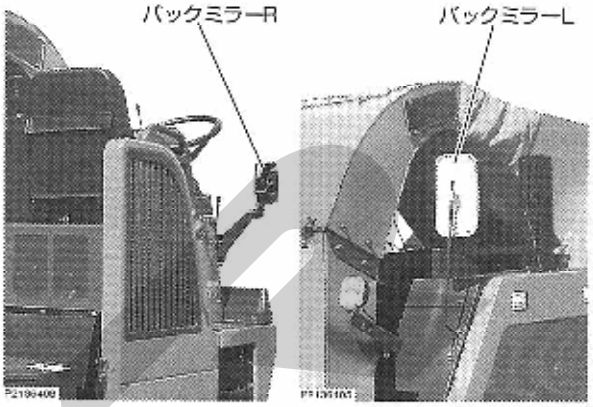
〈調節のしかた〉

❶前後調節レバーを矢印方向に引き上げます。

❷ドライバーシートを前後にスライドさせて操作しやすい位置に調節してください。

3.バックミラーの調整

左右の後方が、十分確認できるように調整してください。



4.ステアリングハンドルの前後調節のしかた

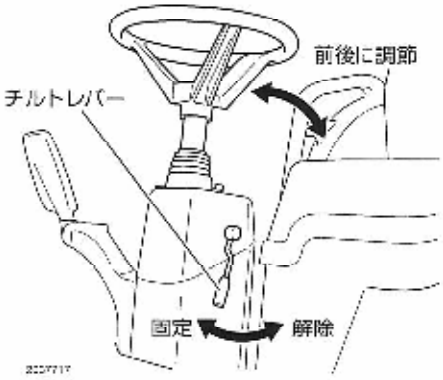
ステアリングハンドルの前後角度を、運転者の体格に合わせて調節してください。

〈調節のしかた〉

❶チルトレバーを「解除」位置にしてください。ハンドルの固定がゆるみます。

❷ステアリングハンドルの前後の角度を、作業しやすい位置に調節してください。

❸チルトレバーを「固定」位置にしてください。ハンドルが固定されます。



取扱いの注意

- ステアリングハンドルを調節したときは、チルトレバーで確実にハンドルを固定してください。

5.エンジンの始動のしかた

⚠警告

- エンジンの始動および暖機運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分換気をしてください。排気ガスによる中毒で、死亡事故につながるおそれがあります。
- エンジン始動時は、必ず運転席に座って、駐車ブレーキが掛かっている事を確認して、スイッチとレバーの位置、および周囲の安全を確認してください。
  急に機械が動きだして、傷害事故を起こすおそれがあります。

⚠注意

- エンジンを始動する前に、運転前・作業前の点検を行ってください。点検せずにエンジンを始動すると、整備不良のために、傷害事故や機械の故障を引き起こす場合があります。

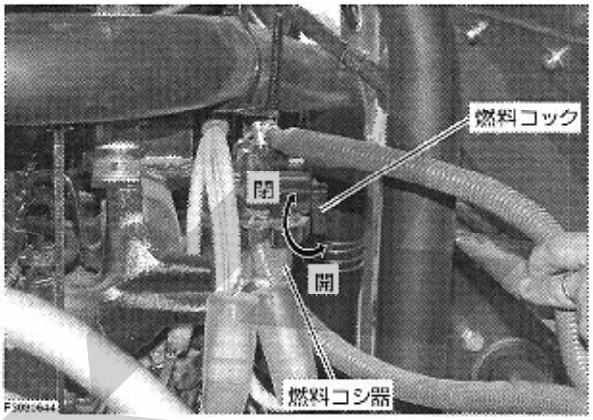
取扱いの注意

- 走行中または作業中にエンジンが停止したときは、副変速レバーを「N」(中立) 位置にしないと、エンジンがかからない場合があります。
- 作業中にエンジンが停止したときは、キースイッチをいったん「切」位置にしてから、再度始動してください。

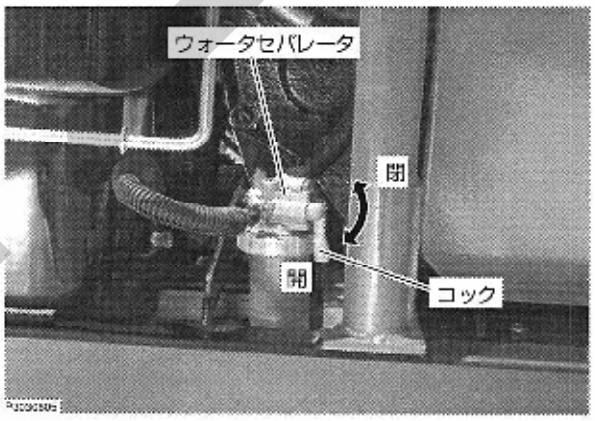
❶エンジン始動前の確認・準備

❶ルーム枠カバーを外してください。

❷燃料コシ器の燃料コックを「開」位置にしてください。



❸ウォータセパレータのコックを「開」位置にしてください。



❹ルーム枠カバーを元通り取り付けてください。

❺ドライバーシートに座ってください。

❻駐車ブレーキを掛けてください。

❼エコモードを「切」にしてください。

参考

- エコモードスイッチが「入」位置でもエンジンの始動はできますが、アクセルレバーでエンジン回転の調節ができなくなりますので、「切」位置にしておいてください。

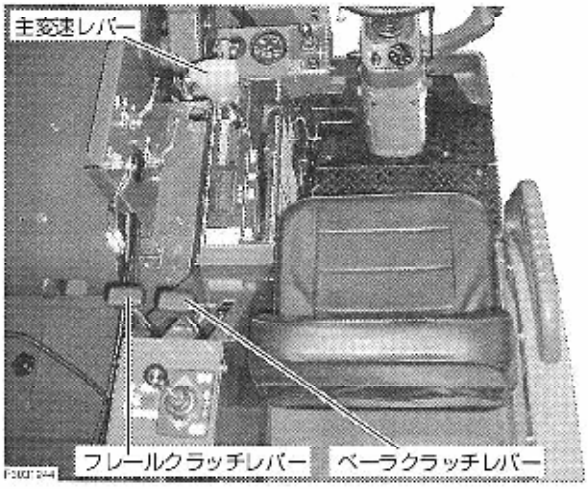
❽主変速レバーを「N」(中立) 位置にしてください。

❾副変速レバーを「N」(中立) 位置にしてください。

❿フンールクラッチペダル・ペーラクラッチレバーを「切」位置にしてください。

参考

- ベーラクラッチレバーが「入」位置のとき、キースイッチを「入」位置にしても、エンジン始動安全警報ブザーが鳴り、エンジン始動はできません。

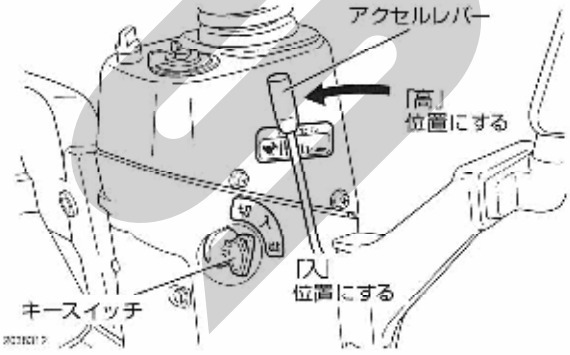


❷エンジン始動操作のしかた

❶駐車ブレーキが掛かっていることを確認してください。

❷アクセルレバーを手前に引いてください。（エンジン回転「高」位置）

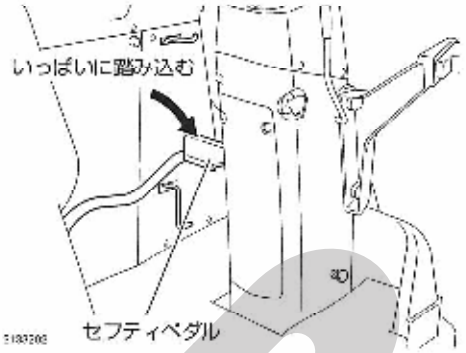
❸キースイッチにキーを差し込んで、「入」位置にし、モニターランプのグローパイロットランプが消灯したことを確認してください。



参考

- 寒冷地では、モニターランプのグローランプが点灯し、エアヒータに通電していることを表します。

❹セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、キースイッチを「始動」位置に回してください。



参考

- セフティペダルをいっぱいに踏込むと、駐車ブレーキロックレバーが「ブレーキ」位置から「解除」位置に戻ります。

取扱いの注意

- **ベーラクラッチレバーを「切」位置にして、セフティペダルをいっぱいまで踏み込まないと、セルモータは回りません。**
- **セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。**
  10秒以内で始動しなかった場合は、いったんキースイッチを「切」位置に戻し、1分以上経ってから、再び始動してください。

❺エンジンが始動したら、すみやかにキースイッチから手を離してください。キースイッチは、自動的に「入」位置に戻ります。

取扱いの注意

- **エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「始動」位置にしないでください。セルモータが破損することがあります。**

❸暖機運転のしかた

⚠注意

- **暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけてください。機械が動き出したりして、傷害事故の原因になります。**

❶エンジン始動後、駐車ブレーキをかけてください。
❷アクセルレバーを「低」位置に押し戻してください。エンジン回転が下がります。
❸約5分間は作業をせずに、エンジンをかけたままにしておいてください。

参考

- 寒冷時は、暖機運転を15分以上行ってください。

6.エンジンの停止のしかた

❶主変速レバーを「N」(中立) 位置にしてください。
❷アクセルレバーを「低」位置に押し戻してください。
❸キースイッチを「切」位置にしてください。エンジンが停止します。

取扱いの注意

- **主変速レバーが「N」(中立) 位置でないときは、キースイッチを「切」位置にしないでください。エンジンの再始動が行いにくくなることがあります。**

7.発進のしかた

⚠警告

- **できるだけ低速で走行し、急発進・急旋回・急停止は絶対にさけてください。**
- **坂道や凹凸、カーブの多い道路では、高速運転しないでください。**

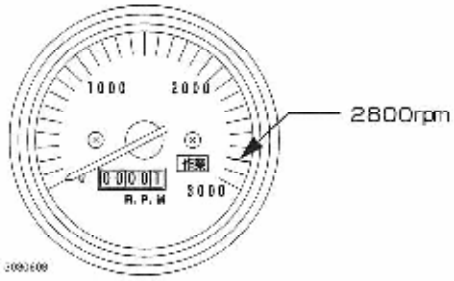
⚠注意

- **発進するときは、周囲に合図をして、安全を確認しながらゆっくり発進してください。**
- **作業中および移動時は、安全のためにヘルメットをかぶってください。**
- **寒冷時に運転する場合は、エンジン始動後、暖機運転（15分以上）を必ず行ってください。**
  駐車ブレーキワイヤーなどが凍結していると、誤動作する可能性があり危険です。

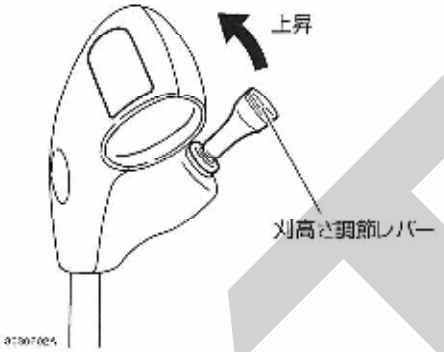
❶発進前の準備

❶エンジンを始動してください。(➜42ページ参照)

❷アクセルレバーを「高」位置にし、エンジン回転を回転計の「2800rpm」にしてください。



❸刈高さ調節レバーを「上昇」側にして、刈取部を20cm上げます。



❹副変速レバーを希望の位置にしてください。

参考

- 副変速レバーが変速しにくいときは、駐車ブレーキを解除して、セフティペダルから足を離してから変速操作をしてください。

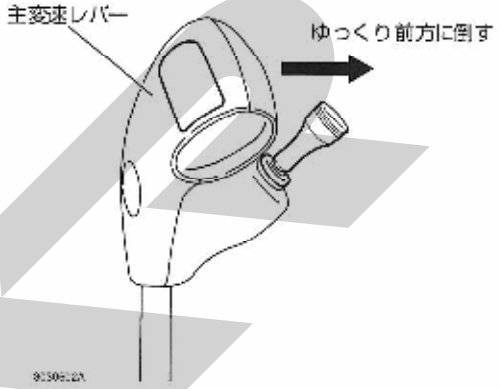
❷発進操作のしかた

❶駐車ブレーキを解除してください。
(➜32ページ参照)

❷ステアリングハンドルを右手で持ってください。

❸周囲の安全を十分に確認する。

❹左手で主変速レバーをゆっくり前方へ倒してください。機体が発進します。



❺発進後、必要に応じて主変速レバーをさらに前方へ倒してスピードを上げます。

取扱いの注意

- **主変速レバーは、セフティペダルを踏まずに操作してください。セフティペダルを踏むと、主変速レバーが「N」(中立)位置で固定されます。**
- **主変速レバーを「前進」から「後進」、または「後進」から「前進」に操作する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、機械が破損することがあります。**

6章

8.変速のしかた

❶主変速レバーを「N」(中立) 位置にし、機体が停止したことを確認してください。
❷副変速レバーを希望の位置にしてください。

取扱いの注意

- **副変速レバーを操作する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、機械が破損することがあります。**
- **セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。**
- **坂道では変速しないでください。**

9.旋回のしかた

⚠警告

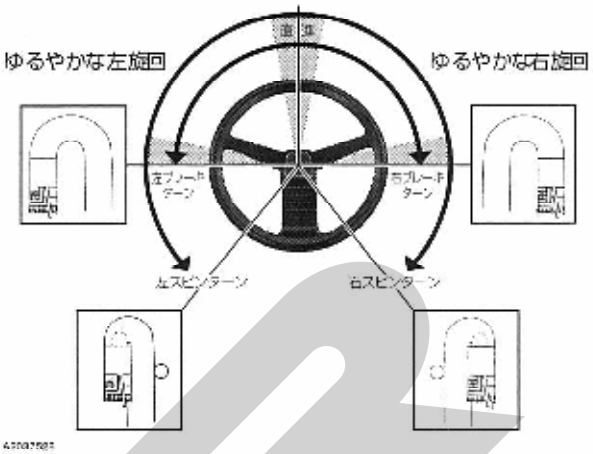
- **副変速レバーを「走行」位置での高速移動時は、急旋回しないでください。必ず速度を落として行ってください。守らないと、接触・転倒事故のおそれがあります。**

❶主変速レバーで走行スピードを下げてください。
❷旋回したい方向へステアリングハンドルを回すと、その方向へ機体が旋回します。

ステアリングハンドルの操作量と旋回状態について

ハンドルの操作量によって、旋回角度の調節ができます。ハンドルを回した側のクローラが徐々に減速され、約1/4回転で、クローラの速度がゼロになり、ブレーキターンの状態になります。
さらにハンドルを回すと、徐々にクローラが逆転し始め、約135°でスピンターンの状態になります。

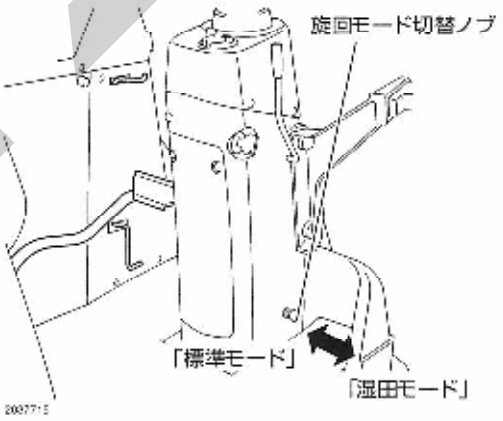
〈ハンドル操作量と旋回状態〉



〈旋回モードの切り替えについて〉

旋回モード切替ノブで、旋回モードを切り替えることができます。

- 「標準モード」位置……乾いたほ場での作業・移動走行時
- 「湿田モード」位置……ぬかるみでの作業



参考

- 「標準モード」でも十分に作業は可能ですが、機体の沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えると、さらに作業性能が向上します。

10.停車のしかた

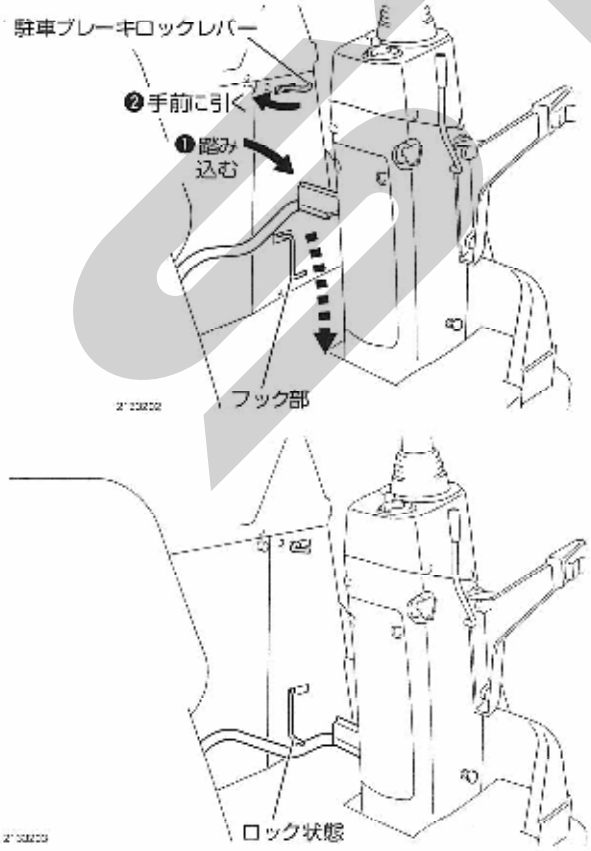
❶主変速レバーを「N」(中立)位置にし、機体が停止していることを確認してください。
❷駐車ブレーキを掛けてください。
❸アクセルレバーを「低」位置に押し戻してください。エンジン回転が下がります。
❹キースイッチを「切」位置にしてください。エンジンが停止します。

11.駐車のしかた

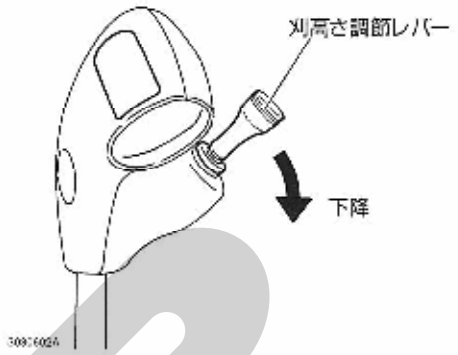
⚠注意

- **やむを得ず坂道で駐車するときは、クローラに歯止めをしてください。**

❶平坦で安全な場所に機体を移動してください。
❷主変速レバーを「N」(中立)位置にし、機体が停止していることを確認してください。
❸駐車ブレーキを掛けてください。



❹刈高さ調節レバーを「下降」側にしてください。刈取部を地面に接地させます。



❺エンジンを停止してください。
(➡44ページ参照)
❻運転席から離れる場合は、安全のためにキーを抜いておいてください。

12.移動走行のしかた

⚠警告

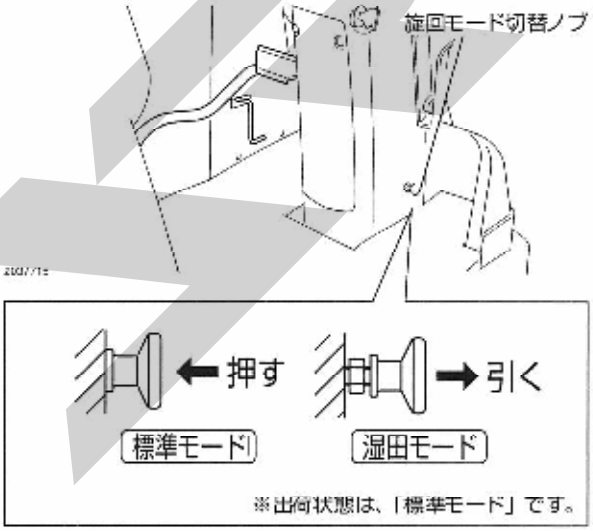
- 移動走行時はベーラ内部を空にしてください。
- 運転者の他に、人を乗せないようにしてください。
- 発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。
- 傾斜地の斜面を斜めに走行したり、平行に走行すると転倒や横滑りの原因になります。また、重なり合った木の葉や草、濡れた鉄板や板の上も滑りやすいので十分注意して走行してください。
- 安全のために、ヘルメットを着用してください。
- 狭い農道や傾斜地、路肩に草がおいしげっている所は、路肩に十分注意して、スピードをおとして走行してください。

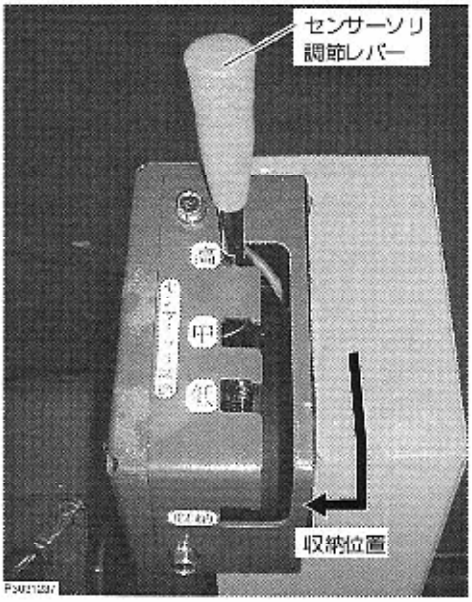
⚠注意

- 傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、UFO自動スイッチを必ず「切」（ランプ消灯）にしてください。
  機体が急に傾いて転倒し、ケガをするおそれがあります。
- 車高調節レバーで、車高を最も低い位置にセットしてください。車高が高いと、機体の重心が高くなり、転倒し、ケガをするおそれがあります。
- 移動走行時は、刈取部を最上げにしてください。
- 移動走行するときは、旋回モード切替ノブを「標準モード」に切り換えてください。守らないと、旋回時に自動減速しないため、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 運転席はクローラ全幅より、右側に大きくはみ出していますので、狭い農道や路肩に障害物があるときは、十分注意して走行してください。

移動走行操作のしかた

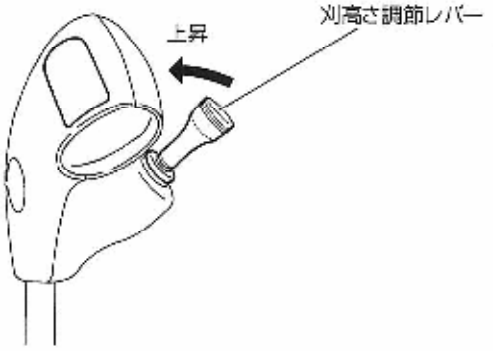
❶エンジンを始動してください。(➡42ページ参照)
❷UFO自動スイッチを「切」位置にしてください。
❸車高調節レバーを前方に倒し車高を最も低い位置にしてください。
❹パトライトをエンジンルームの上に設置してください。
❺旋回モード切替ノブ……「標準モード」
　センサーソリ調節レバー……「収納」位置





❻アクセルレバーを手前に引いてエンジン回転を、回転計の目盛が示す「2800rpm」位置にしてください。

❼刈高さ調節レバーを「上昇」側にして、刈取部を最上げにしてください。



❽駐車ブレーキを解除してください。(➜32ページ参照)

❾主変速レバーをゆっくり前方へ倒して発進してください。

取扱いの注意

- 走行スピードは、主変速レバーで調節してください。

13.トラックでの運搬のしかた

⚠警告

- 積み・降ろしをする場所は、平坦で安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 積込むトラックは、車止めなどで動かないように処置してください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- アユミ板は、基準に合ったものを使用してください。守らないと、転落事故の原因になります。
- 積み・降ろしの機体方向は、積込みは前進、降ろしは後進で行ってください。守らないと、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。
- アユミ板の上では、進路変更を絶対に行わないでください。クローラがアユミ板から外れて、転倒するおそれがあります。
- 本機の直前・直後には機械が不意に動いたときにあぶないので、絶対に立たないでください。
- 本機がアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、十分に注意してください。特に、スピードの速いときは、転倒のおそれがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。
- トラックの荷台に積込んだ機体は、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。機体は丈夫なロープで確実に固定してください。守らないと、転落事故の原因になります。

⚠注意

- 積み・降ろしをするときは、UFO自動スイッチを必ず「切」(ランプ消灯)にしてください。機体が急に傾いて転倒し、ケガをするおそれがあります。
- 車高が最下位置になっていることを確認してください。

❶アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

〈アユミ板の基準〉

- 長さ…トラックの荷台高さの4倍以上。
- 幅……45cm以上。
- 強度…1枚が3500kgに十分耐えられるもの。
- 表面…すべらないよう処理してあるもの。
- トラックの荷台に引っ掛けるためのフックが付いているもの。

❷トラックの準備

❶トラックは、本機が荷台内幅に十分納まる（4トンワイドなど）大きさを準備してください。

❷トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車してください。

❸トラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキを掛けてください。

❹タイヤに車止めをしてください。

❺トラックの荷台にアユミ板のフックを段差ができないように、確実に掛けてください。

❸本機の積込みかた

本機の積込みは、前進で行ってください。

❶本機は、移動走行と同じ状態にしてください。

❷エンジンを始動してください。（➜42ページ参照）

参考

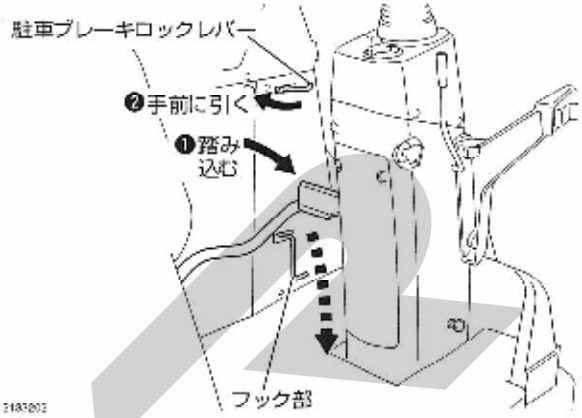
- エコモード切替スイッチが「入」位置では、アクセルレバーでエンジンの回転の変更が出来ません。

❸本機は、アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めてください。

❹副変速レバーを「低速」位置、主変速レバーを前進「1」位置にしてください。機体はゆっくり動き始めます。

❺本機がトラックに積み込まれたら、セフティペダルをいっぱいに踏み込んでください。

❻駐車ブレーキを掛けてください。

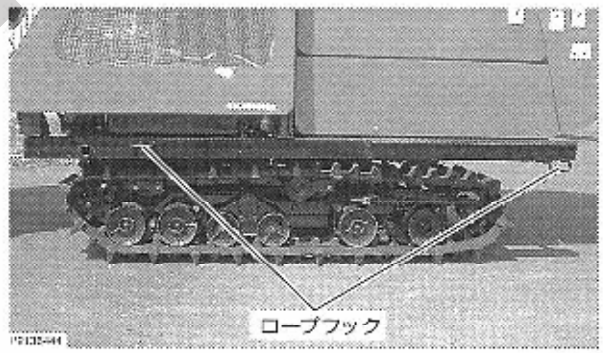


❹トラックに積み込んだら

❶刈高さ調節レバーを「下降」側にし、刈取部をトラックの荷台に接地させます。

❷エンジンを停止してください。

❸機体左右のロープフック（4か所）に、十分強度のあるロープをかけて、機体を確実に固定してください。



取扱いの注意

- **ロープフック以外には、ロープを掛けないでください。破損するおそれがあります。**
- **ロープを強く締めすぎないでください。変形などのおそれがあります。**

❻本機の降ろしかた

❶機体を固定しているロープを外してください。
❷エンジンを始動してください。(➜42ページ参照)
❸刈高さ調節レバーを「上昇」側にし、刈取部を最上げにします。

取扱いの注意

- **センサーソリが「収納」位置になっていることを確認してください。センサーソリがアユミ板などに引掛かり、破損するおそれがあります。**

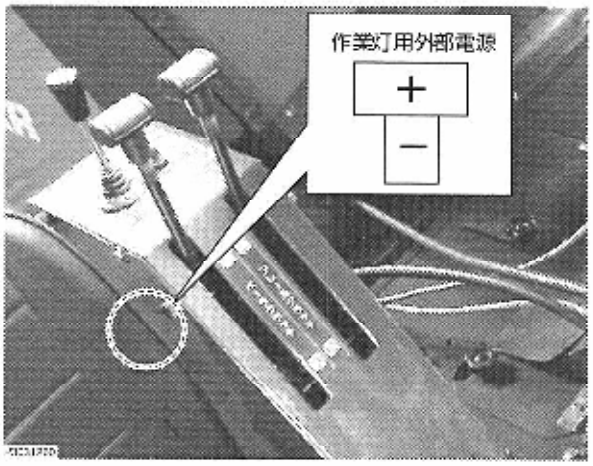
❹セフティペダルを踏み込んで、駐車ブレーキを解除してください。
❺副変速レバーを「低速」位置にして、主変速レバーを後進「1」位置にしてください。機体がゆっくりと動き始めます。
❻本機はアユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めてください。
❼本機を完全にトラックから降ろしたら、主変速レバーを「N」(中立)位置にして、駐車ブレーキを掛けてください。
❽エンジンを停止してください。

14.作業灯用外部電源の使いかた

⚠警告

- **外部電源取出し用コネクタ以外から電源を取り出して電気機器を接続しないでください。火災の原因になります。**
- **外部電源取出し用コネクタに接続できる作業灯は、1箇所合計で35W以下です。制限容量を越えて使用しないでください。火災の原因になります。**
- **ヒューズに見合った線径ハーネス(自動車用低圧電線AV0.75㎟相当以上)を使用してください。線径の細いハーネスを使用すると火災の原因になります。**
- **作業灯用外部電源ですので、作業灯以外のものを接続しないでください。思わぬ事故の原因になるおそれがあります。**

作業灯用外部電源は、作業灯専用です。外部電源取出し用コネクタに接続できる作業灯は、1箇所合計で35W以下です。使用する配線は、自動車用低圧電線AV0.75㎟相当以上を使用してください。
作業灯用外部電源のヒューズは、作業灯15Aを使用しています。極性は、下図のようになっています。



取扱いの注意

- **端子の「+」「−」を間違えないでください。間違えると、ヒューズが切れることがあります。**

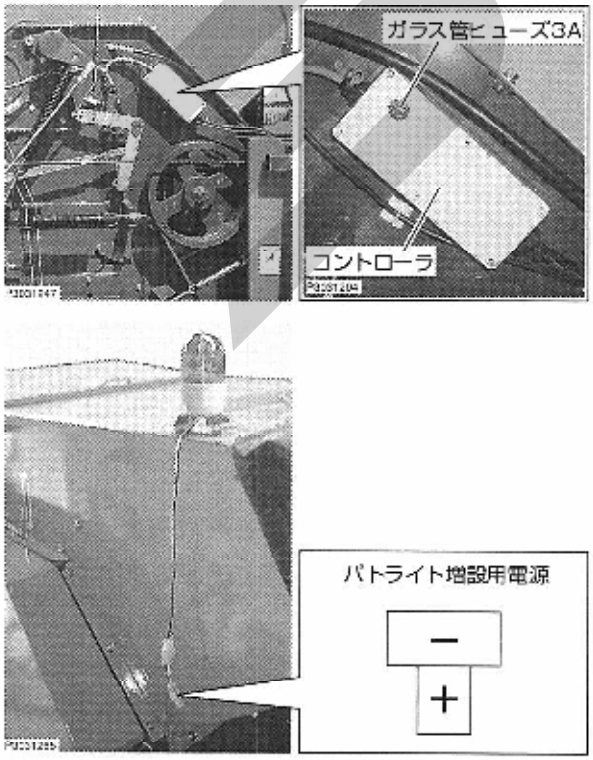
6章

15.パトライト増設用電源の使いか

⚠警告

- パトライト増設用コネクタ以外から電源を取り出して電気機器を接続しないでください。火災の原因になります。
- パトライト増設用コネクタに接続できるパトライトは、10W以下です。制限容量を越えて使用しないでください。火災の原因になります。
- ヒューズに見合った線径ハーネス（自動車用低圧電線AV0.75㎟相当以上）を使用してください。線径の細いハーネスを使用すると火災の原因になります。
- パトライト増設用外部電源ですので、パトライト以外のものを接続しないでください。思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

パトライト増設用電源は、パトライト専用です。パトライト増設用コネクタに接続できるパトライトは、合計で10W以下です。使用する配線は、自動車用低圧電線AV0.75㎟相当以上を使用してください。
パトライト増設用電源のヒューズは、コントローラ3Aを使用しています。極性は、下図のようになっています。



取扱いの注意

- 端子の「＋」「−」を間違えないでください。間違えると、ヒューズが切れることがあります。

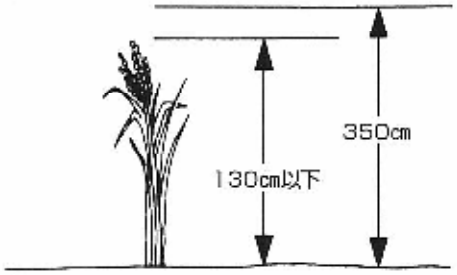
7章 収穫作業前の準備のしかた

1.収穫できる作物の条件について

作物の状態やほ場の広さなどの条件により、収穫方法が多少異なります。作業に入る前に作物の状態やほ場の広さを確認して、能率よく作業を行ってください。

作物の長さ

刈取りに適する作物の長さは、130cm以下です。作業限度は350cm（ソルゴー）です。



参考

- 作物の状態（茎葉の量や作物の長さ）に合わせ、作業速度を調節してください。

作物のぬれ

作物にツユが付いていたり、葉がぬれていると、正常な作業ができないことがあります。ツユが完全に落ち、葉や茎が乾いてから刈取ってください。（手でしごいてぬれない状態）

作物の収穫適期

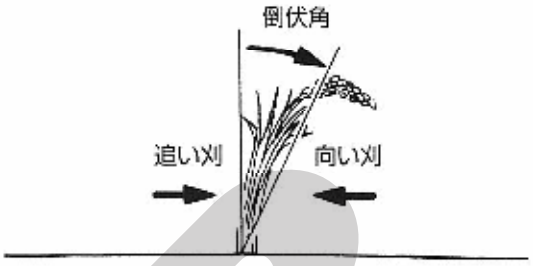
飼料イネの場合は糊熟期～黄熟期です。
水分は65%以下です。（茎葉・子実の全体水分）

取扱いの注意

- **熟期が遅れると脱粒しやすくなり、損失が多くなります。**

作物の倒伏状態

- 向い刈り…倒伏角85°以下
- 追い刈り…倒伏角70°まで



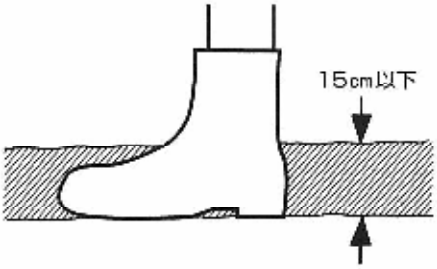
取扱いの注意

- **倒伏した作物に土が付着している場合は、収穫しないでください。サイレージの品質が悪くなります。**

2.収穫作業ができるほ場の条件について

①ぬかるみの度合い

足の沈み（15cm）までのぬかるみであれば作業できますが、一度通ったクローラ跡は、できるだけ通らないようにしてください。



②雑草の状態

雑草が多くても、刈取作業には支障はありませんが、ほ場内に雑草が多いとサイレージの品質が低下する場合があります。ほ場内の除草を定期的に行ってください。

③傾斜角

ほ場の傾斜角度が5°以上の場合は収穫作業はしないでください。

3.刈取方法について

⚠危険

- 刈取作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。回転物に巻き込まれたり、旋回時の接触事故など大変危険です。

⚠警告

- 後進するときは、後方の安全確認をし、低速で移動してください。
- 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「切」位置にしてから点検してください。
- ワラクズなどを取り除く場合や、作物が詰まった場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチ類を全て「切」位置にしてください。
- 二人以上の共同作業では、ホーンなどでお互いに合図し合ってから行ってください。思わぬ傷害事故の原因になります。

収穫体系

2通りの収穫体系ができます。
作物やほ場の条件に合わせて選択してください。

1. ダイレクトカット収穫：
   刈取り～梱包まで一行程で行う。
2. 予乾収穫：
   刈取り～刈落としの後、予乾して、拾い上げ～梱包する。

作物水分	ほ場状態	収穫体系
適　正	乾いている	ダイレクトカット収穫
	湿っている	
多　い	乾いている	予乾収穫
	湿っている	作業できません

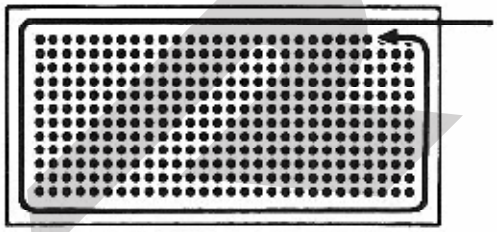
取扱いの注意

- 飼料イネの場合は、予乾収穫体系は行わないでください。籾の損失率が多くなります。
- 予乾収穫体系の拾い上げのときは、少し拾い残しがあります。

刈取方法

刈取方法は、ダイレクトカット収穫体系・予乾収穫体系とも同じです。
植付け条に沿って刈取るのが原則です。従って2方向刈りを基本とし、次の要領で刈取ってください。

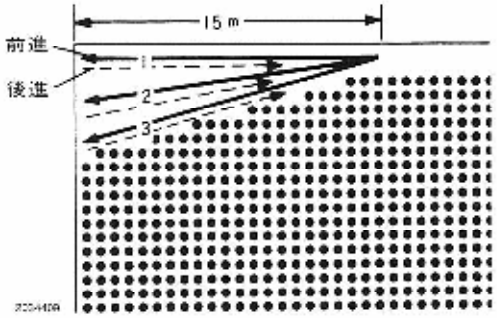
❶あぜぎわから、左回りで低速で刈り取ってください。



参考

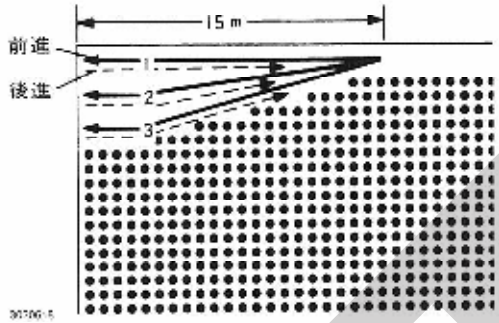
- あぜぎわが刈取れない場合は、周囲3～4条を残して、左回り刈りをしてください。
- ほ場の出入口の関係で右回り刈りをする場合も、左回り刈りと同じ要領で行ってください。
- 左回りであぜぎわ1周目を刈り終わったあと、2周目は右回り刈りをすると、あぜぎわ刈りで排出したベールを寄せたり、ほ場から搬出しなくてすみ能率的な作業ができます。
  3周目からは、左回り刈りで行ってください。

❷ほ場の四隅は3～4回斜め刈りをしてください。



参考

- **本機の取扱いに慣れてきたら**
  あぜぎわで、刈取部が平行になるように方向修正をすると、手刈りをしなくてすみます。

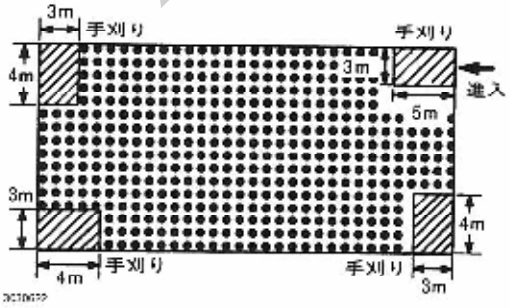


取扱いの注意

- **あぜぎわでは、刈取部が土かみしないように注意してください。**
- **方向修正は、ゆっくり行ってください。また、後進するときは未刈り株を踏まないように注意してください。**

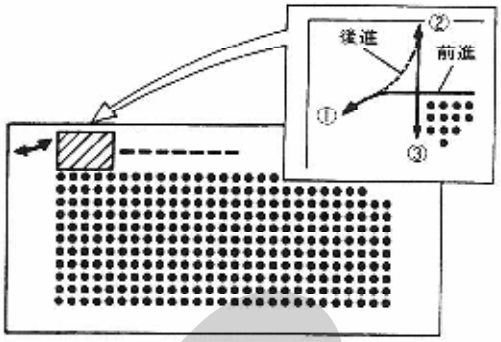
参考

- 四隅を手刈りするときは、下図のようにしてください。



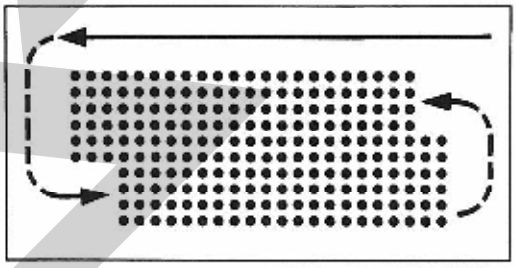
※刈始めのみ3m×5mを手刈りしてください。

❸切り返しを行い、左回りで刈り続けてください。



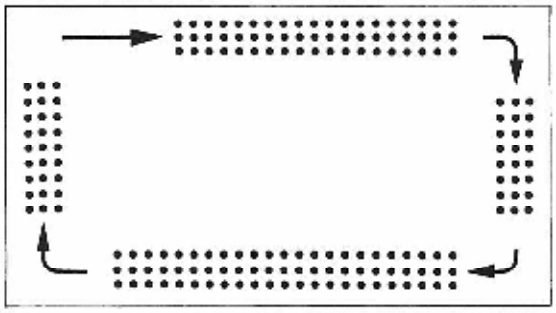
❹ほ場の両端で回行できるようになったら、2方向刈りを行ってください。

2方向刈り



❺あぜぎわ3～4条を残した場合は、あぜぎわ刈りをしてください。
あぜぎわ刈りは、低速で右回りで刈取ります。

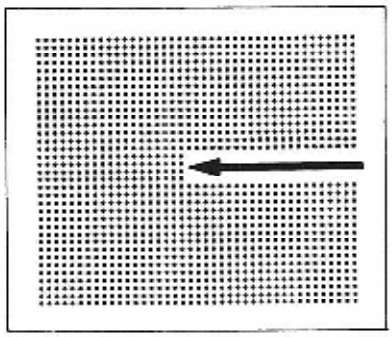
あぜぎわ刈り



〈広いほ場の場合〉

能率よく作業するために、広いほ場などは、中割作業をしてください。

中割り



刈高さの目安

〈ダイレクトカット収穫体系〉

- 乾いたほ場（乾田）…10cm
- 湿ったほ場（湿田）…15cm

参考

- 株元は土が付着したり水分が高く、サイレージ品質を低下させるので、高刈りを行ってください。

〈予乾収穫体系〉

- 刈落とし……15cm
- 拾い上げ……10cm

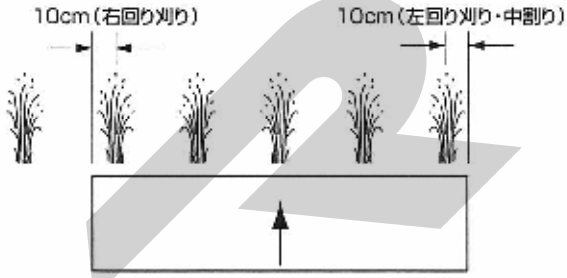
条合わせの目安

条合わせの目安は、ダイレクトカット収穫体系・予乾収穫体系とも同じです。

〈30cm条間の場合〉

回り刈り・中割り

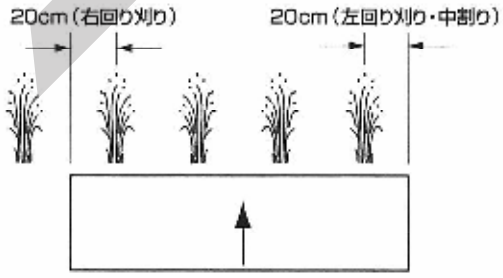
- 刈取部を未刈株の横に合わせてください。



〈33cm条間の場合〉

回り刈り・中割り

- 刈取部を未刈株の横に合わせててください。



参考

- 左回り刈りのときは、右の未刈株を残さないように刈取りをしてください。
  右回り刈りのときは、左の未刈株を残さないように刈取りをしてください。

4.本機の準備のしかた

トワインの準備

使用できるトワインは、PPトワイン12000フィートです。

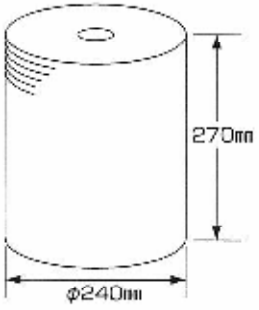
材質：P.P（ポリプロピレン）

長さ：12000フィート（約3600m）

直径：240mm

高さ：270mm

重さ：約4.5～5kg

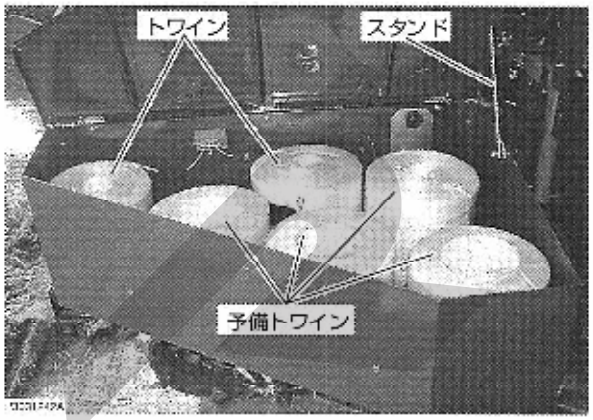


取扱いの注意

- **PPトワイン6000フィート、ジュートトワイン、リイザルトワインは使用できません。**

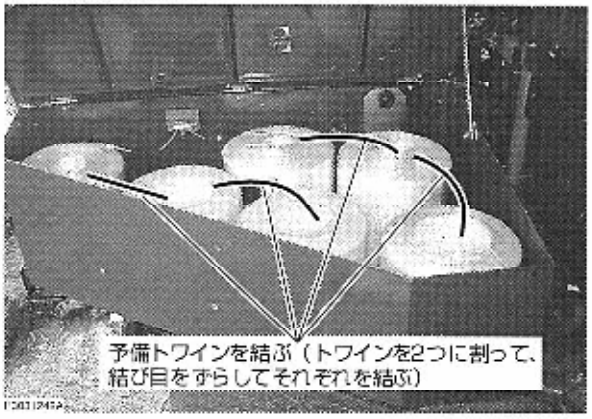
トワインの収納のしかた

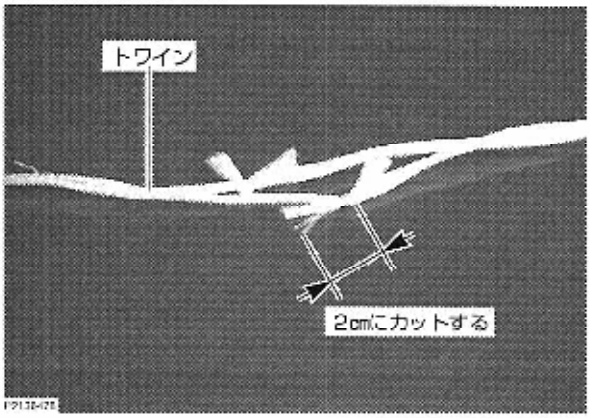
❶トワインケーシングには、トワインを6巻（予備各2巻）収納できます。
ふたを開けて、スタンドを掛け収納してください。



結束ベール数目安
12回巻……200ベール/2巻セット
16回巻……160ベール/2巻セット
20回巻……120ベール/2巻セット

❷予備トワインを結んでください。
トワインを2つ割にして、結び目をずらして結びます。先端が長いときは2cmにカットしてください。

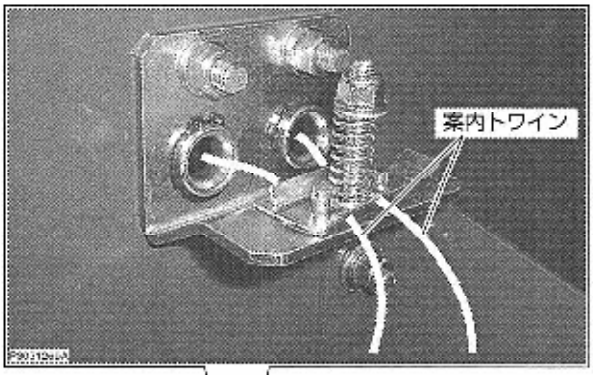


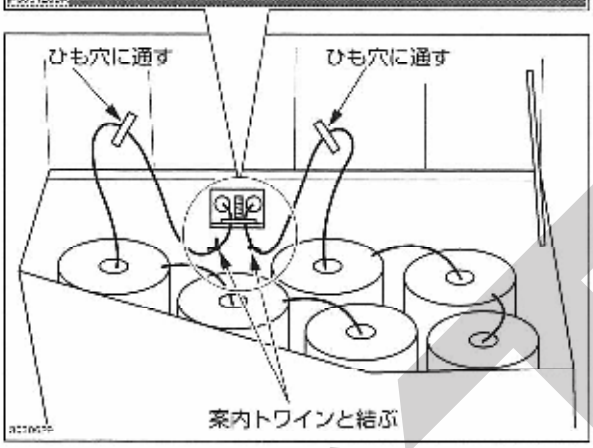


トワインの通しかた

〈出荷状態のとき〉

トワインをトワインケーシングふたのひも穴に通し、案内トワインと各々結んでください。





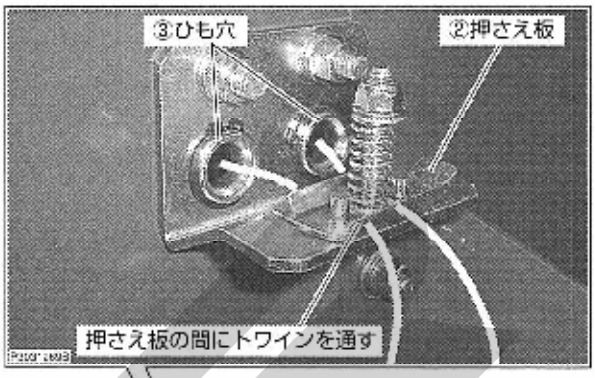
出荷時はベールのトワイン巻数は16回巻になっています。巻数を変更するときは巻付け段を変更してください。(➜59ページ参照)

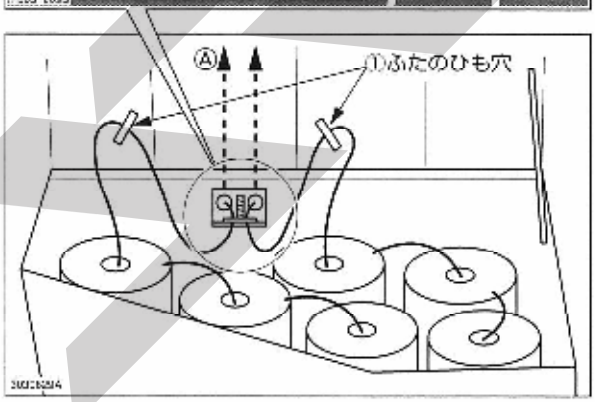
〈ひも切れ・新たに通すとき〉

❶フロントカバーRを外し、ゲートカバーRを開けてください。

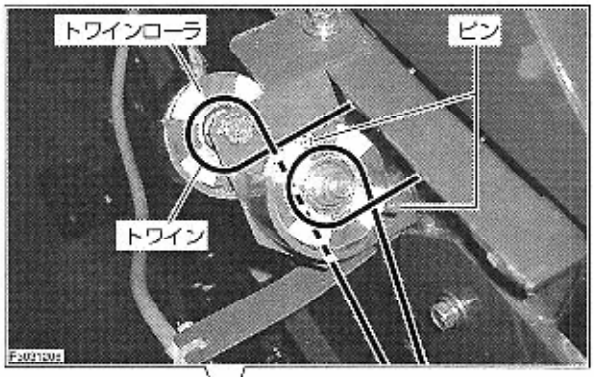
❷前ページの❶～❷を行ってください。

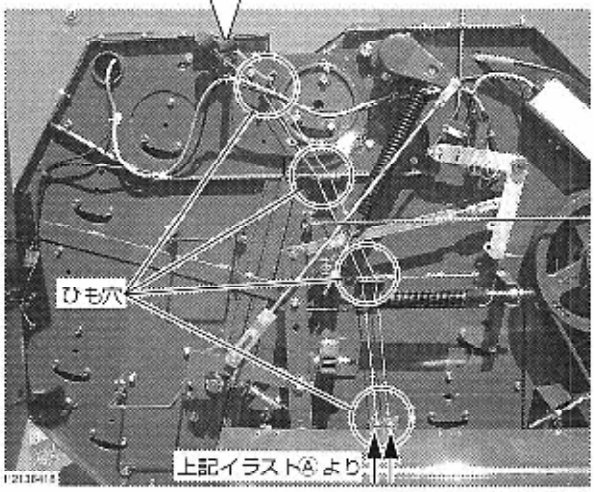
❸トワインケーシングの①ふたのひも穴、トワインケーシング内の②押さえ板に通し、③ひも穴（1ヶ所）に通します。



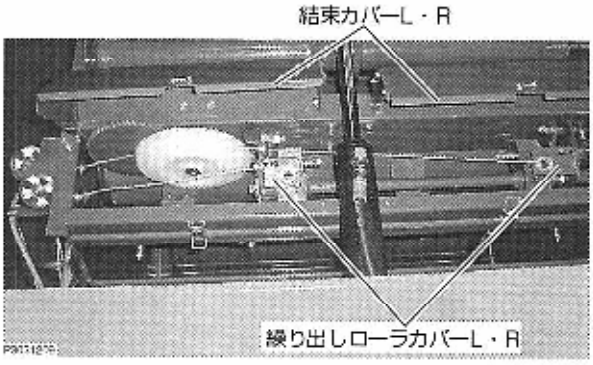


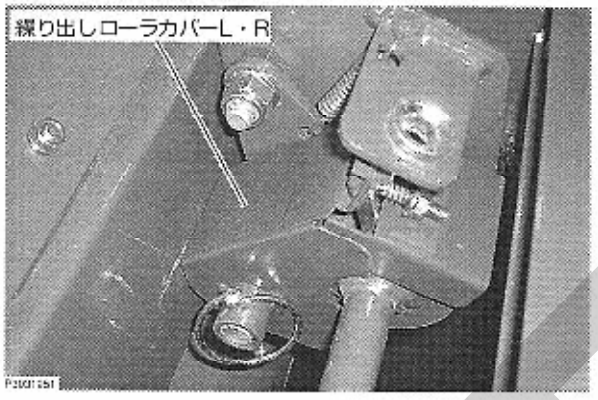
❹ひも穴（4ヶ所）に通し、ピンの位置に注意して、トワインローラに巻付けます。





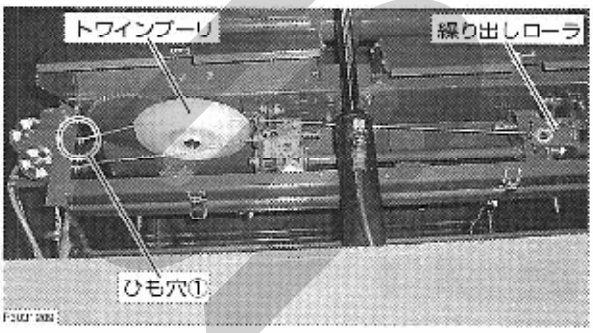
❺リアシュート・結束カバーL・Rを開け、繰り出しローラカバーL・Rを取り外します。

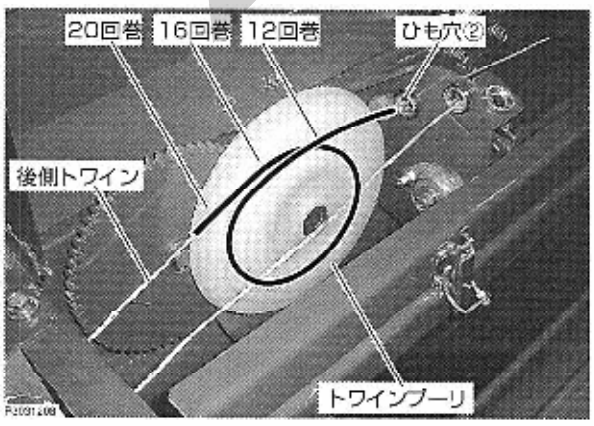


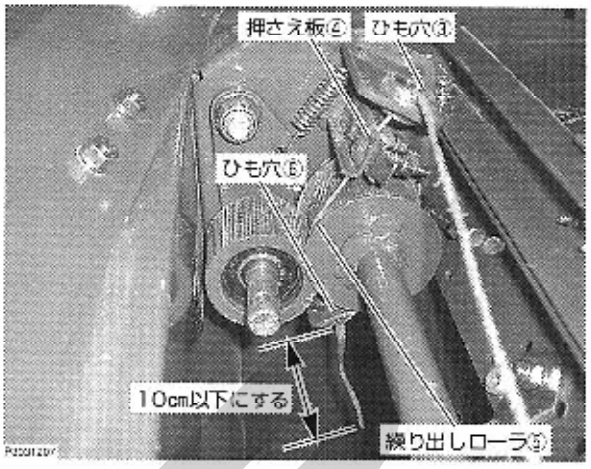


❻本機後側トワインの通し順序

- ひも穴①→トワインプーリ（希望の巻数段）に1回巻いて→ひも穴②→ひも穴③→押さえ板④→繰り出しローラ⑤→ひも穴⑥の順に通します。

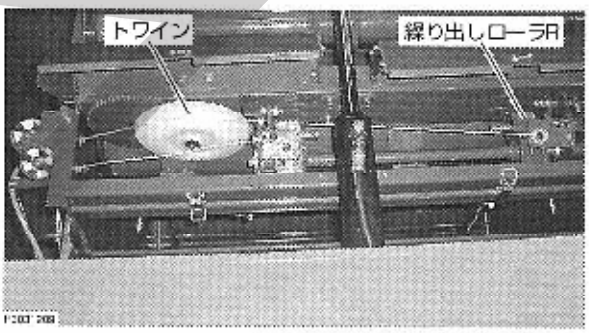


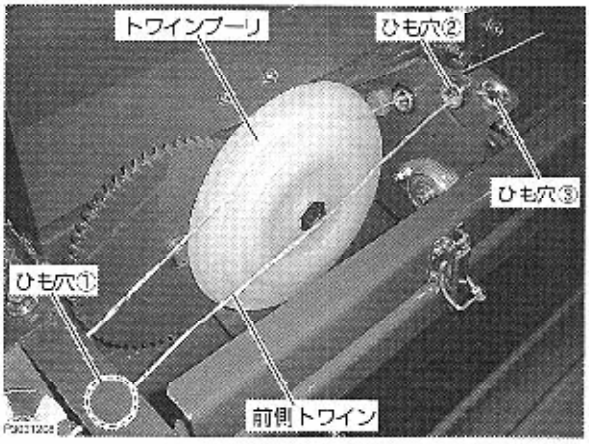




❼本機前側トワインの通し順序

- ひも穴①→ひも穴②→ひも穴③→押さえ板④→繰り出しローラ⑤→ひも穴⑥の順に通します。押さえ板④以降の通し方は後側トワインの通し順序と同じです。





❽前側・後側トワインのひも端は10cm以下にします。

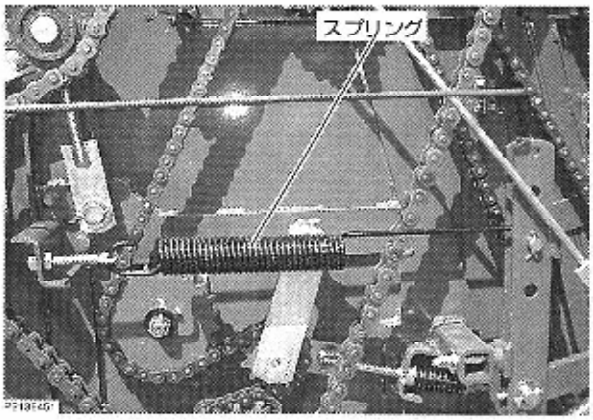
取扱いの注意

- **ひも端が長いとベーラ満量前にトワインがベールに引き込まれ、結束が始まる場合があります。**

❾フロントカバーRを取り付け、ゲートカバーRを閉じてください。

梱包密度の調節

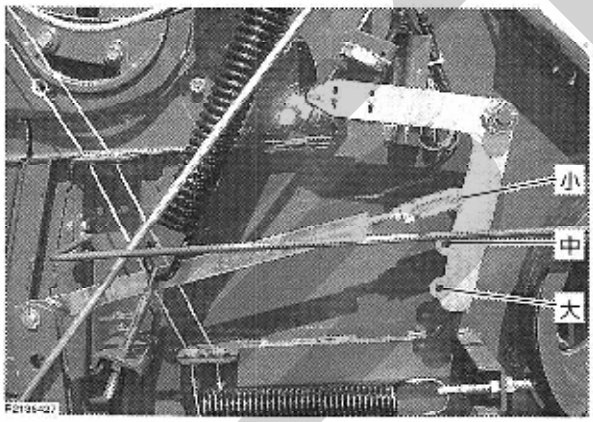
梱包密度調節スプリングの取り付け、取り外しで調節します。



収穫作物	スプリング
飼料イネ	取り付け
麦稈・稲ワラ・牧草	取り付けまたは取り外し

ベール圧力の調節

ロッドの取付けピンを外し、リンクへの取付け位置を変えます。



〈ダイレクトカットの収穫作業(青刈り)の場合〉

- 「小」…飼料イネ・麦（子実のあるもの）
- 「中」・「大」…麦稈・稲ワラ・牧草（子実のないもの）

取扱いの注意

- **ベール圧力を大きくすると、子実の損失が増える傾向になります。**

〈予乾収穫作業(乾草)の場合〉

- 「小」…麦稈・稲ワラ・牧草（乾燥しているもの）

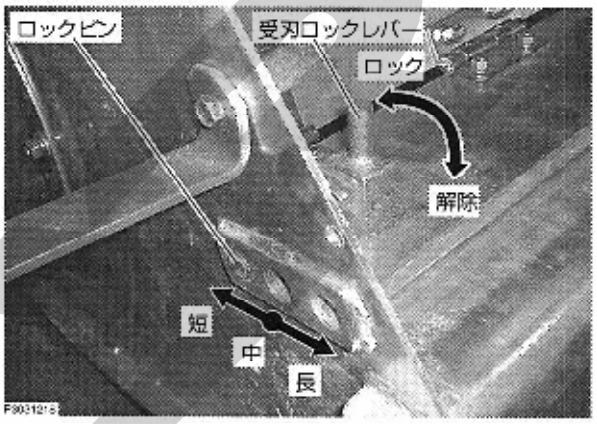
切断長の調節

切断長は受刃のセット位置で調節します。

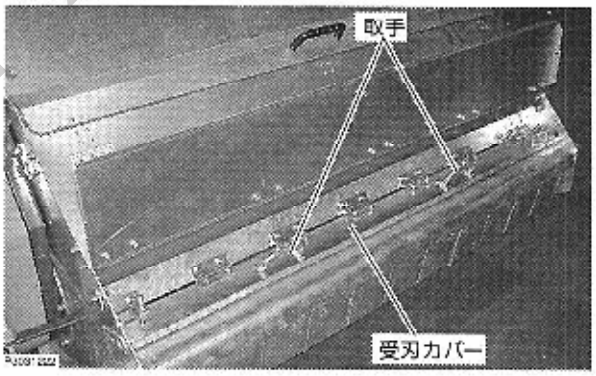
- 「短」… ダイレクトカット収穫作業
  予乾収穫作業の拾い上げ
- 「長」または「中」… 予乾収穫体系の刈落とし
  （稲ワラの刈落としは「長」にします）

❶受刃カバーを開けます。

❷受刃ロック受刃レバーL・Rを「解除」する。



❸取手を持ち任意の位置で、ロックレバーL・Rを「ロック」する。



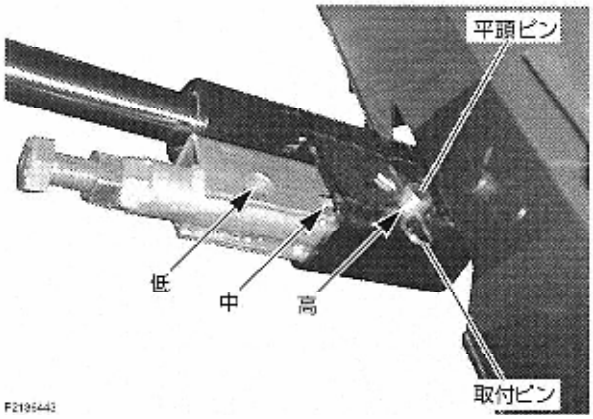
❹受刃カバーを閉じます。

取扱いの注意

- **ロックピンを確実にセットしてください。セットが不十分だと受刃が破損します。**
- **予乾収穫体系の刈落としは「長」位置で詰まるような場合、「中」位置にしてください。**
- **予乾収穫体系では、コンバインなどによる刈取りも切断長を長く設定してください。**
  乾燥すると、梱包対象物の重量が軽くなるために拾い上げの勢いが弱くなり、シュートに詰まりやすくなります。特に切断長が短いと、この傾向が顕著になります。

刈取下げストッパの調節

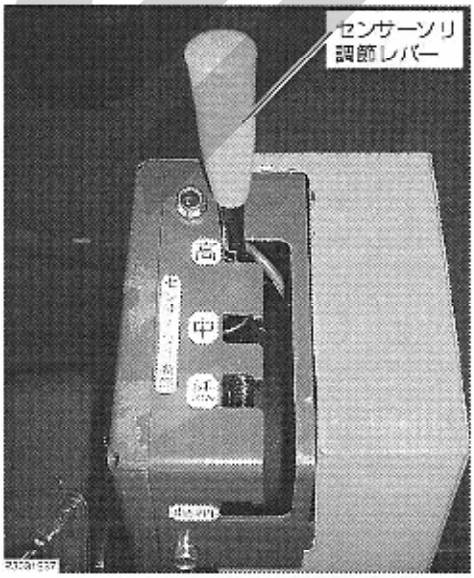
取付けピン・平頭ピンを外し、掛け替えます。

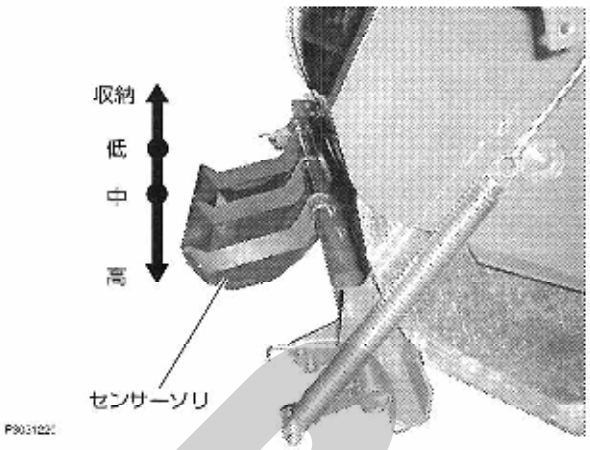


希望の刈高さに合わせ、センサーソリ調節レバーと組み合せて調節してください。
「収納」にするときは、刈取下げストッパを反対向きに取り付けてください。

センサーソリの調節

センサーソリ調節レバーを希望の刈り高さに合わせ、刈取下げストッパと組み合せ調節してください。





目安（乾田）

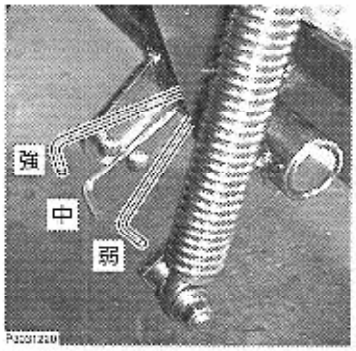
刈高さ（cm）	刈取下げストッパ	センサーソリ調節レバー
5	低	収納
10	中	中・高
15	高	低・中・高

〈センサーソリ調節スプリング〉

切株の条件により、センサーソリ調節スプリング（左・右各1ヶ所）の掛け位置を調節してください。

目安

切株	掛け位置
硬い	強
通常	中
軟かい	弱



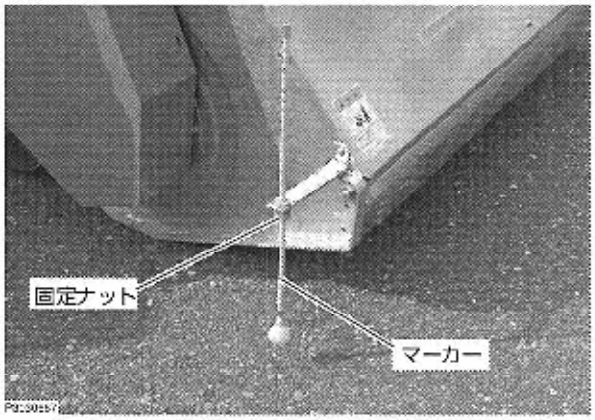
参考

- ほ場が軟かく機体が沈下するときは、刈取下げストッパを希望の刈高さより、高い設定にしてください。
- 切株が硬くOKリフトが働き続けるときは、センサーソリ調節レバーを「収納」位置にしてください。刈高さが除々に高くなっていきます。
- ほ場が軟かくてOKリフトが働きにくいような場合は、センサーソリ調節レバーを希望の高さより高い設定、または「収納」位置にし、刈高さ調節レバーで調節してください。

マーカーの調節

刈高さの目安として使用してください。

マーカーの固定ナットをゆるめて、位置を調節してください。調節後は固定ナットを確実に締付けてください。

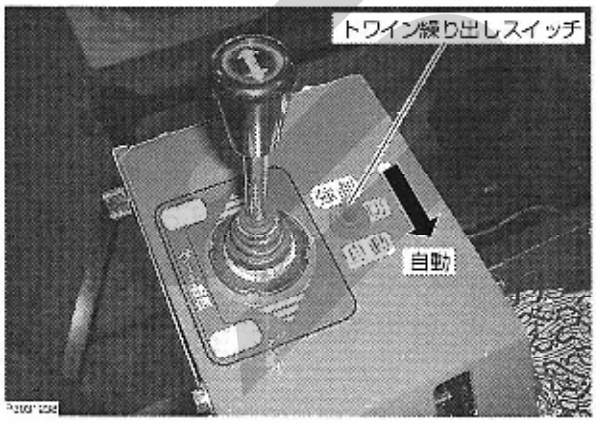


参考

- マーカー下端をフンニールカッター下端または、ほ場面に合わせると使いやすくなります。

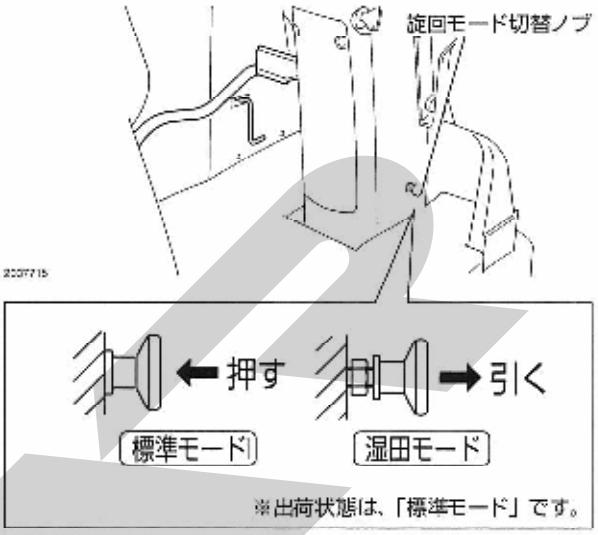
トワイン繰り出しスイッチの切替

トワイン繰り出しスイッチを「自動」位置にしてください。



旋回モード切り替え

ほ場の状態に合わせて旋回モードを切り替えてください。



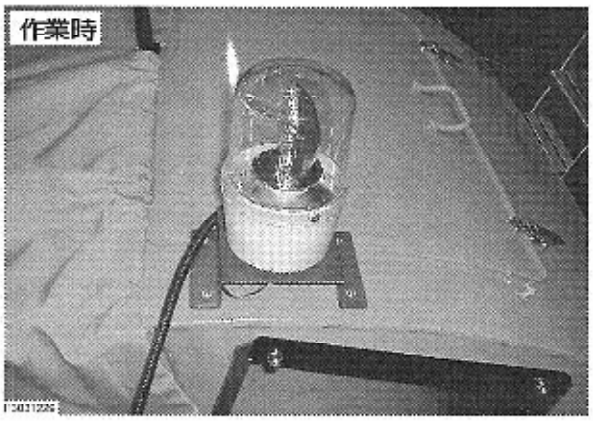
旋回モード切替ノブは、主変速レバーを「N」（中立）位置、ステアリングハンドルを「中立」にして操作してください。

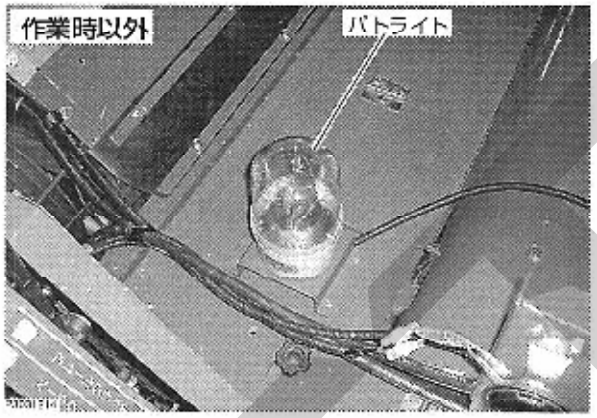
- ノブを押し込む…標準モード（スピンターンする）
- ノブを引き出す…湿田モード（スピンターンしない）

	標準モード	湿田モード
旋回時の車速	減速する	減速しない
副変速「標準」での旋回	スピンターンする（小回り）	スピンターンしない（大回り）
乾いたほ場での旋回	◎	○
ぬかるみでの旋回	○※ハンドルを切りすぎない	◎（旋回力大）
移動走行性能	◎	×（使用不可）
車庫入れ性能	◎	×（使用不可）

パトライトの設置

マグネット式になっていますので、ハーネスをはさまないように設置してください。
作業時……エアシュートまたは、シュート右上面。
作業時以外…エンジンルーム右上面。





取扱いの注意

- シュートに設置するときは、刈取部を上下させても落下しないことを確認してください。
- 運搬・移動時や本機にシートを掛けるときなど作業時以外は、エンジンルーム右上の指定位置に設置してください。指定位置以外では落下して破損するおそれがあります。

5.ほ場への出入りのしかた

- 副変速レバーを「低速」位置、主変速レバーを「1」位置にしてください。
- エコモード切替スイッチを「切」位置にしてください。
- 刈高さ調節レバー刈取部を最上げにしてください。
- ベーラクラッチレバーを「切」位置にしてください。
- あぜに対して直角に出入りしてください。
- 10cm以上の高いあぜの場合は、アユミ板を使用してください。

〈急な坂道の場合〉

- 進行方向

進行方向	登り	前進
	降り	後進

- 移動速度

副変速レバー「低速」位置、主変速レバーは最低速（「N」～「1」）でゆっくり登り降りしてください。

⚠警告

- 急な坂道の場合は、進行方向や速度を誤ると、転倒してケガをするおそれがあります。必ず上記の方法に従ってください。

取扱いの注意

- ほ場へ入るときは、必ずフレールクラッチレバーを「切」位置にしてください。機体が不用意に前傾するとフレールカッターで土をかみ込むおそれがあります。ベールに土が混入したり、シュート内面に付着し、詰まりの原因になります。

本機によるダイレクト収穫（刈取り～梱包）と予乾収穫（刈取り～刈落とし、乾燥後拾い上げ～梱包）作業の基本的な準備と作業要領を説明しています。

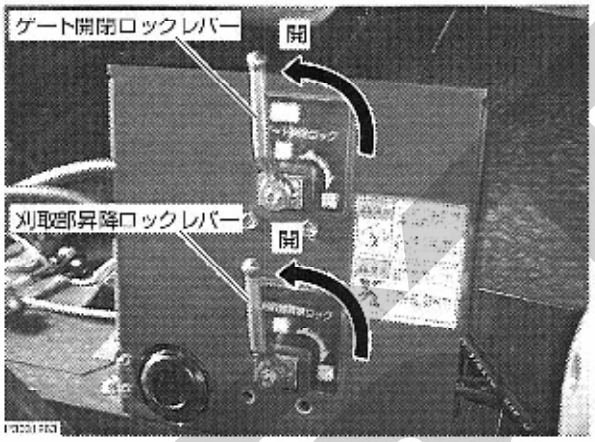
1.ダイレクトカット収穫作業のしかた

取扱いの注意

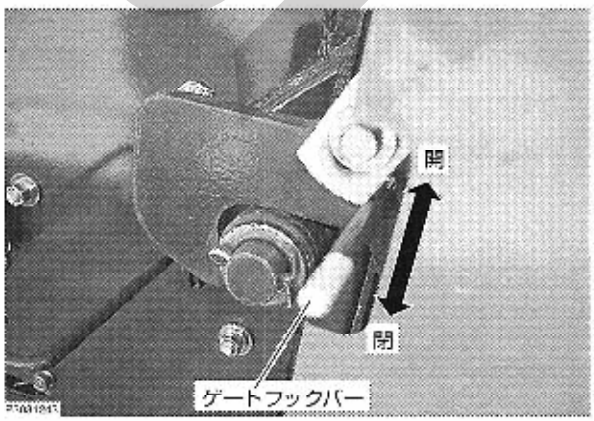
- **本製品の性能を十分に発揮させるため、雨降り時や雨上がり直後のほ場・ぬかるみのある軟弱なほ場では作業を行わないでください。**

❶エンジンを始動してください。(➜42ページ参照)
駐車ブレーキを解除してください。(➜32ページ参照)

❷刈取部昇降ロックレバー、ゲート開閉ロックレバーを「開」位置にしてください。

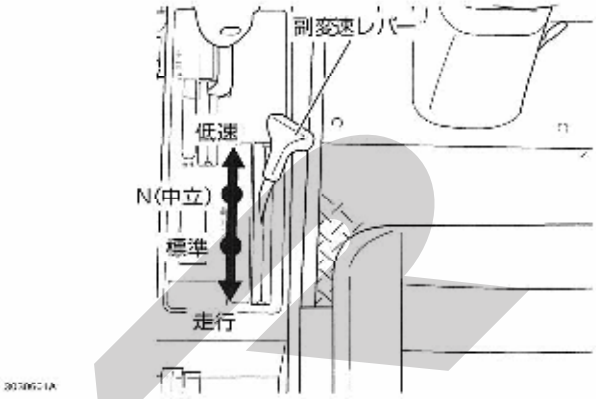


❸ゲート開閉ロックレバーを「閉」位置にし、ゲートフックバーが「閉」位置になっていることを確認してください。

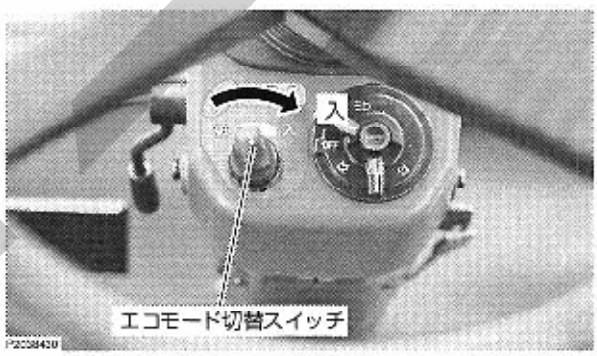


❹刈高さ調節レバーで刈取部を希望の位置に下げてください。(➜29ページ参照)

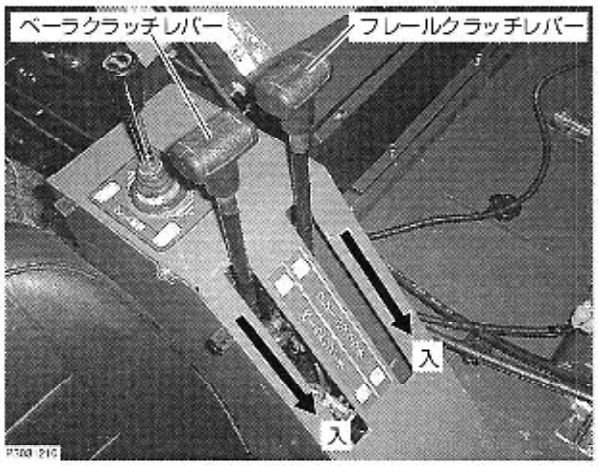
❺副変速レバーを「標準」または「低」位置に入れてください。



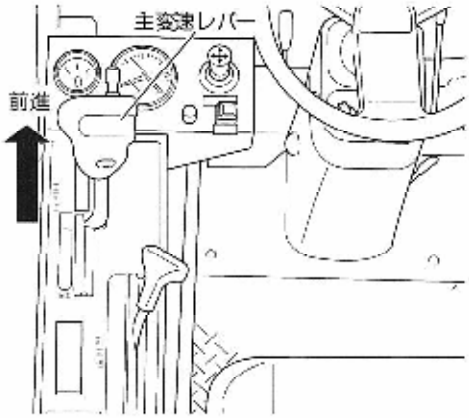
❻エコモード切換スイッチを「入」位置、または、アクセルレバーでエンジン回転を2800rpmに設定してください。



❼ベーラクラッチレバー、フレールクラッチレバーを「入」位置にしてください。



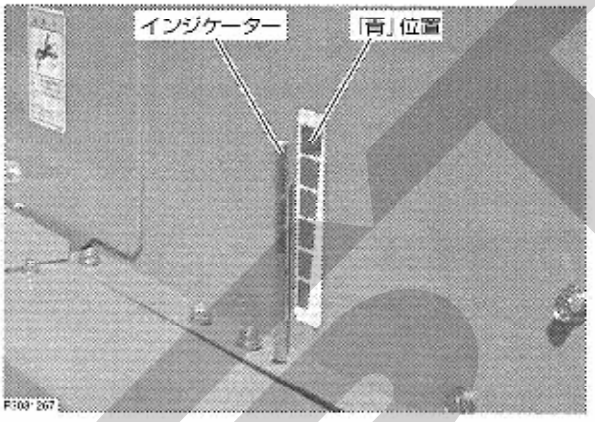
❽主変速レバーをゆっくり前側に倒して、刈り始めてください。



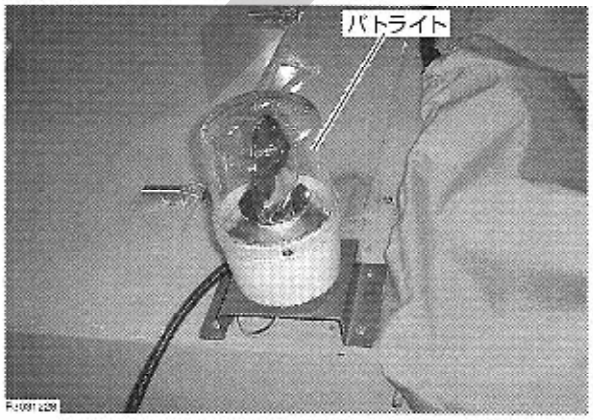
❾ベーラが満量になるとブザーが断続して鳴り、パトライトが数秒間点灯します。

参考

- ベーラ満量の目安は、梱包密度インジケーターで確認できます。「青」位置になると満量です。



- ブザーが鳴り終わるとトワインが繰出され、結束を開始します。同時にトワインローラが回転します。



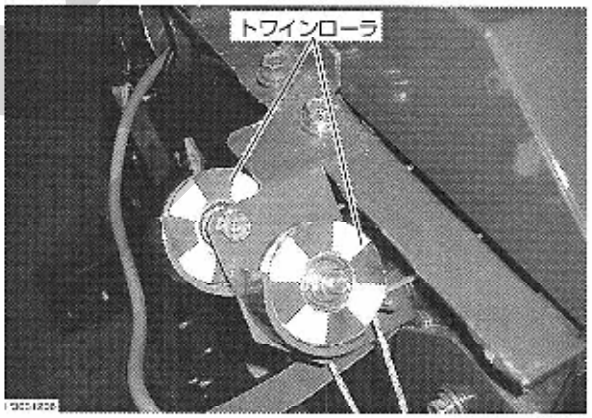
❿主変速レバーを「N」位置にして、停止してください。

参考

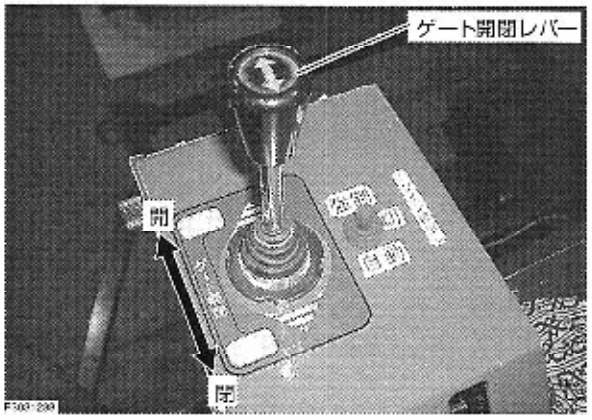
- 次工程の刈取りまで、排出したベールを運搬しないときは、少し後進し機体後方を右に振ってから停止してください。
  このとき、刈取バックアップが働き、刈取部が上昇します。

⓫フレールクラッチレバーを「切」位置にしてください。

⓬トワインローラの回転が停止したことを確認してください。



⓭後方の安全を確認し、ゲート開閉レバーを「開」位置にしてベールを排出してください。



排出が終了したら、ゲート開閉レバーを「閉」位置にし、ゲートフックバーが「閉」位置になっていることを確認してください。

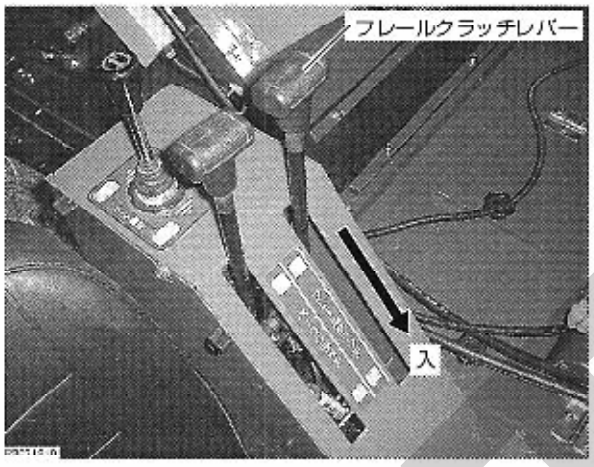
引続き作業を行うとき

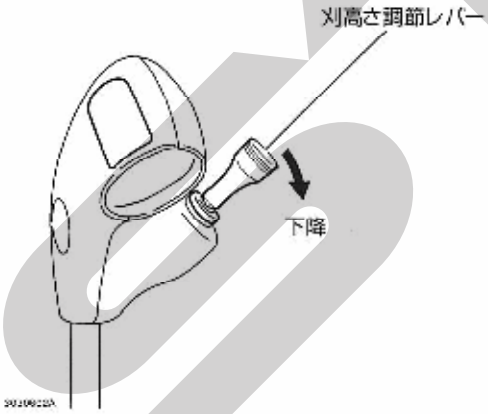
❶フレールクラッチレバー「入」位置にしてください。

参考

- ベール排出のとき後進した場合は刈取バックアップ装置が作動し、刈取部が上昇しますので、刈り高さ調節レバーを「下げ」位置にし、刈取部を下げて作業を始めてください。

❷前項の❽からの作業を繰り返してください。





ベーラが満量にならずに刈取りを終了したときの結束のしかた

手動でトワインの繰出しをします。

❶トワイン繰出しスイッチを「強制」側に1～2秒間倒すと、結束を開始します。
結束が開始できないときは、もう一度1～2秒間倒してください。

参考

- 「強制」側に倒したあと手を離すと「切」位置に戻ります。

❷結束終了は、トワインローラの回転停止で確認してください。

❸ベールを排出してください。

取扱いの注意

- **ベーラクラッチレバーは、「入」位置にして行ってください。**
- **ベールが回転していないときは、結束できません。**

全ての作業が終了したら

❶フレールクラッチレバー、ベーラクラッチレバーを「切」位置にし、エンジンを停止してください。

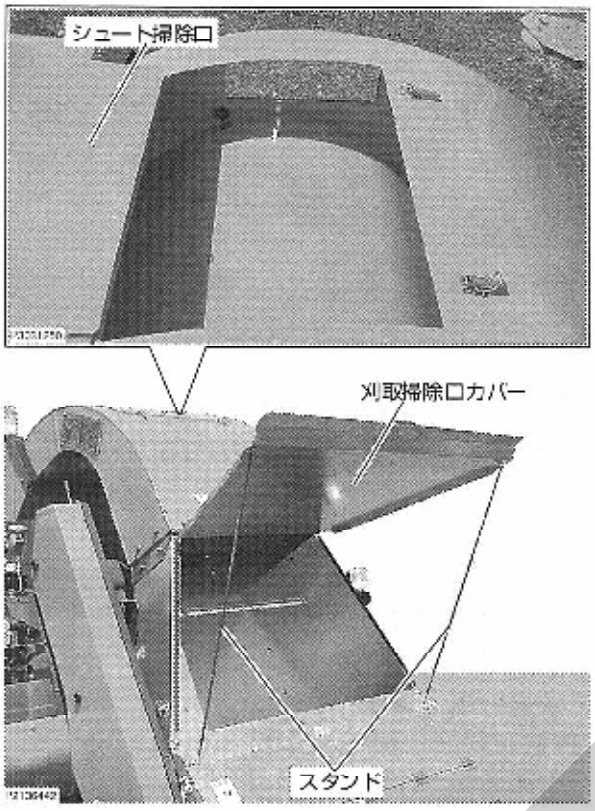
作物の詰まり・泥かみの場合

❶フレールクラッチレバー、ベーラクラッチレバーを「切」位置にし、1～2m後進して、停止してください。

❷刈高さ調節レバーを「下降」位置にし、刈取部を下げてください。

❸エンジンを停止してください。

❹刈取掃除口カバー、シュート掃除口を開けて掃除をしてください。



〈作物が詰まった場合〉

- 取り除いた作物は、まだ作業していない場所にばらまいてください。

〈泥かみの場合〉

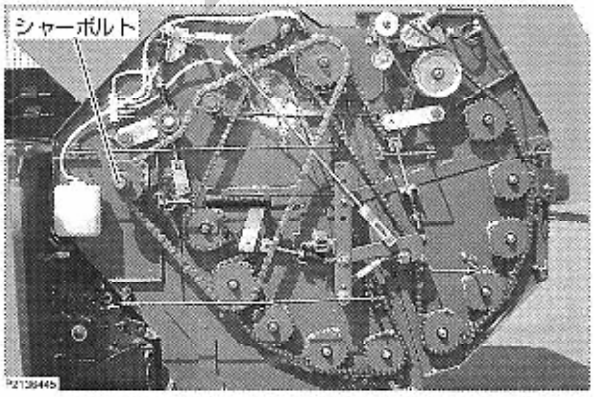
- 刈取部、シュート内面に付着した泥をきれいに取り除いてください。

取扱いの注意

- **泥の付着した作物は、再び収穫しないようにしてください。発酵品質が低下します。**

ベーラ部のシャーボルトが切断した場合

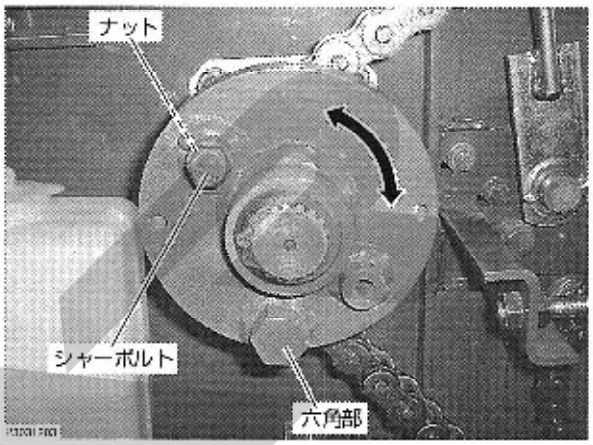
フロントカバーL内のメインチェン駆動部にあります。切断した場合は、付属または、純正（指定）のシャーボルトに交換してください。



❶プレールクラッチレバー・ベーラクラッチレバーを「切」位置にし、エンジンを停止してください。

❷切断したシャーボルトが残っている場合は、取り除いてください。

❸六角部にスパナにかけて、左右どちらかに回転させ2枚の円板のシャーボルト穴を合わせます。



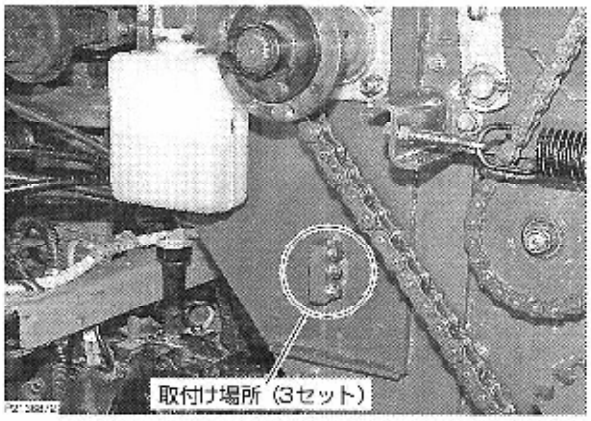
❹シャーボルト（ボルト・ナット）を組み付けます。

取扱いの注意

- **使用するシャーボルトは、必ず純正（指定）のボルトを使用してください。**
  純正以外のボルトを使用すると、本機が破損したり、故障の原因になります。

参考

- シャーボルトがよく切断する場合
  収穫物の詰まりなどで、負荷が増加していると思われます。
  スチールローラ部、ローラカバー部などの詰まりがないか確認し、取り除いてください。
- シャーボルトの予備は、円盤の下側に3セット取り付けできます。



2.予乾収穫作業のしかた

⚠注意

- 予乾して、梱包する作物（牧草）を梱包後にラップしない場合には、水分20％以下で行ってください。20％以上の作物を梱包し、ラップしないで保管すると、自然発火やくん炭化するおそれがあります。

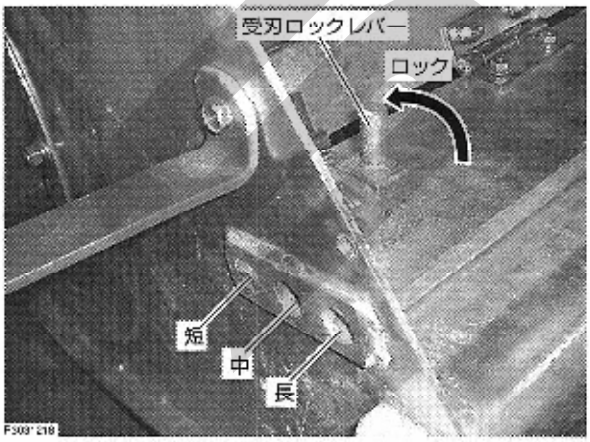
取扱いの注意

- 本機の本来機能は飼料稲のダイレクトカット収穫作業（青刈り）であり、予乾収穫作業はダイレクトカット収穫作業に比べて、作業能力がかなり低下するために、作業方法もかなり限定的なものになります。
  特に乾燥した切断長の短い作物（切ワラ）の場合は、下記の作業のしかたに留意して作業を行ってください。

刈取り～刈落とし作業

❶切断長の設定を確認してください。
（➜60ページ参照）

❷受刃位置を「長」側に調節してください。



❸刈取下げストッパを「高」位置、センサーソリ調節レバーを「中（刈高さ15cm）」に設定してください。

参考

- 刈高さを高くすると、乾燥を促進し、拾い上げの効率が良くなります。

❹ゲート開閉レバーを「開」側にし、30cm程度開けます。

❺ゲート開閉ロックレバーを「閉」位置にしてください。

参考

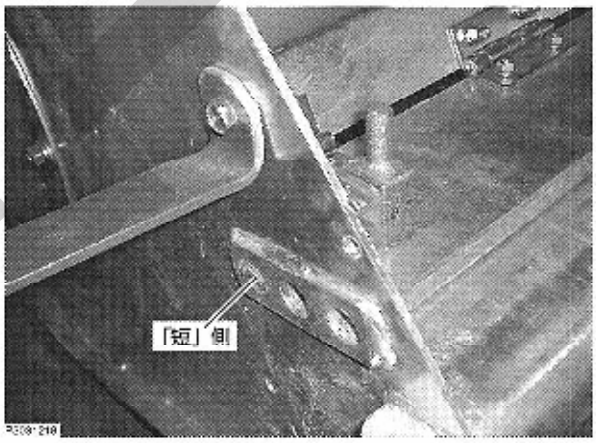
- 5m程度試し刈りをして、作物が詰まるような場合は受刃位置を「中」位置にしてください。

❻以降の刈取り作業は「1.ダイレクトカット収穫作業」（➜64ページ参照）と同じ要領で行ってください。

拾い上げ～梱包作業

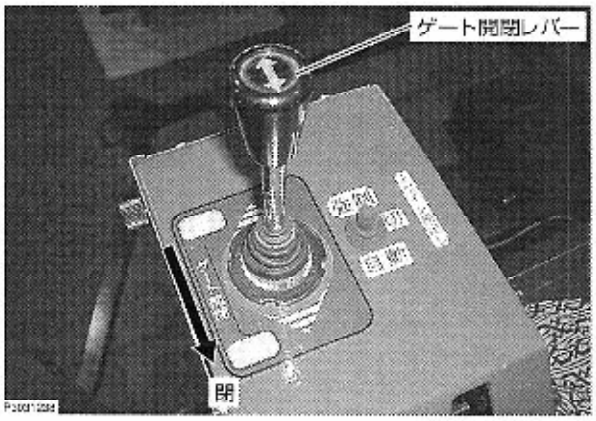
❶切断長の設定を確認してください。
（➜60ページ参照）

❷受刃位置を「短」側に調節してください。



❸刈取下げストッパを「低」位置、センサーソリ調節レバーを「低」に設定してください。（拾い上げ高さ10cm）

❹ゲート開閉レバーを「閉」側にし、ゲートを閉じ、ゲートフックバーを「閉」位置にしてください。



❺ベール圧力の調節用リンクを「小」の位置に設定して梱包密度を下げてください。(➜60ページの「ベール圧力の調節」参照)

❻シュート内面の泥や付着物を取り除いてください。(➜66ページの「作物の詰まり・泥かみの場合」参照)

取扱いの注意

- 刈取部を下げ過ぎて土を噛んでしまった場合、搬送部の面に張り付いた土により、梱包対象が搬送部の面を滑れなくなります。その場合、面に張り付いた土をきれいに取り除かないと、必ず詰まります。

❼作業速度を下げてください。

取扱いの注意

- 刈取作業は副変速「標準」位置・主変速を最大にしても作業可能ですが、拾い上げ作業では副変速「標準」・主変速を低速にして、作業速度をかなり落として作業する必要があります。

❽以降の作業は「1.ダイレクトカット収穫作業」(➜64ページ参照)と同じ要領で行ってください。

参考

- 刈落としと同じ方向で拾い上げ作業をすると、作業効率が良くなります。

3.警報装置が作動したときの処置のしかた

⚠警告

- 詰まりなどを除去する場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。

	名　称	警報の方法	処　置	点検・整備
❶	オーバーロード	ブザー	エンジン負荷が過負荷になっています。 速度を落としてください。	
❷	ベーラ満量	ブザー（断続）と同時にパトライト点灯	ベーラ内が満量になっています。収穫を中止してベーラを排出してください。	
❸	チャージ	ランプ点灯	キースイッチが「入」位置で点灯し、エンジン始動と共に消えるのが正常です。 運転中の点灯は、バッテリへ充電されていません。充電回路の異常を調べてください。	●バッテリ充電。
❹	油　圧	◎	キースイッチが「入」位置で点灯し、エンジン始動と共に消えるのが正常です。 運転中の点灯は、オイル量が正常か点検をしてください。	●オイル補給。
❺	水　温	◎	エンジンを停止し、冷却水が不足している場合は、エンジンが冷えてから補水してください。 ベルトの状態に応じて、調節または交換してください。	●ラジエータファンベルトのゆるみ。 ●水もれの有無。 ●エンジン防塵装置のゴミの掃除。

◎はランプ点灯と同時にブザーが鳴ります。

9章 作業後の手入れと格納について

⚠危険

- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、燃料を抜いたり、注油・給油を絶対にしないでください。燃料などに引火して、火災の原因になります。
- 燃料補給や燃料を抜くときは、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こすおそれがあります。
- 燃料補給や燃料を抜いた後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。
- エンジンが熱い間は、シートなどを絶対にかけないでください。火災の原因になります。

⚠警告

- 点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、平坦で安定した場所で行ってください。本機が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。

⚠注意

- 点検・整備するときは、過熱部分が十分冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

1.機体の洗浄のしかた

その日の内に本機を水洗いし、水洗い後は下記に従って、掃除を行ってください。

- 回転部に巻き付いているゴミを取り除く。
- 水分をよくふき取る。
- 油をしみこませた布で清掃する。
- サビやすい所に防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗る。
  ※作物が通過する箇所は、食品機械用潤滑スプレーの使用を推奨します。
- チェン・ワイヤー類、および回転部や摺動部に注油・グリスアップをする。
  (➔75・76ページ参照)

取扱いの注意

- 水洗いをするときは、エンジン部・電装品に水をかけないでください。故障の原因になります。
- 冷却水交換で出た廃液は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃液の処分は、特販店、またはJAにご相談ください。

2.各部の掃除のしかた

- 機械に付着している茎葉・土砂・石などを取り除いてください。
- ボルト・ナット・ピン類のゆるみ・脱落がないか、また、破損部品がないか確認してください。異常があればボルト・ナットの増し締め・部品交換をしてください。
- 作業前または、作業後には必ず「注油箇所一覧表」(➜75ページ参照)に基づいて注油してください。

ベーラ内の掃除のしかた

ベーラ空回し、またはローラカバーをオープンして掃除してください。掃除が終わったら、本機を元通りにしてください。

〈ベーラ空回しのしかた〉

❶エンジンを始動してください。(➜42ページ参照)

❷アクセルレバーを「高」位置にし、エンジン回転を回転計の「2800rpm」にしてください。

❸ゲート開閉ロックレバーを「開」位置にし、ゲート開閉レバーを「開」位置にし、30cmゲートを開けてください。

❹ゲート開閉ロックレバーを「閉」位置にします。

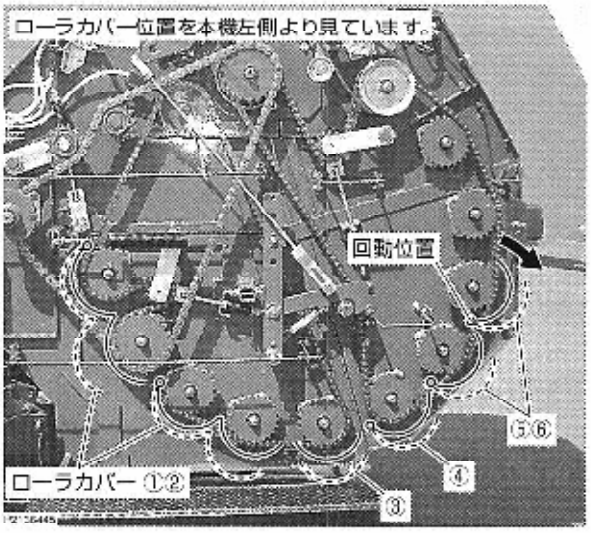
❺ベーラクラッチレバーを「入」位置にし、1~2分空回しをしてください。ローラカバーにたまったわらクズなどが排出されます。

〈ローラカバーのオープンのしかた〉

❶フロントカバーL・R、フロントカバーL(下)、ゲートカバーL・Rを外します。

❷ベーラ本体の側面左・右の白塗りボルトを外します。

❸ローラカバー①・②・⑤・⑥を開け、ローラカバー③・④を外してください。

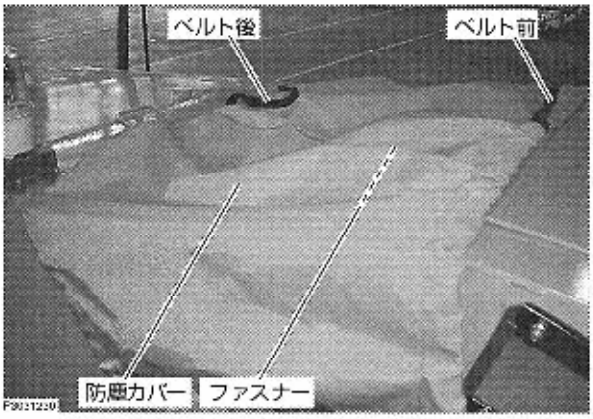


防塵カバーの掃除のしかた

〈取り外しのしかた〉

❶ベルト前・後を外してください。

❷ファスナーを開けてください。



❸防塵カバー内のチリを取り除いてください。

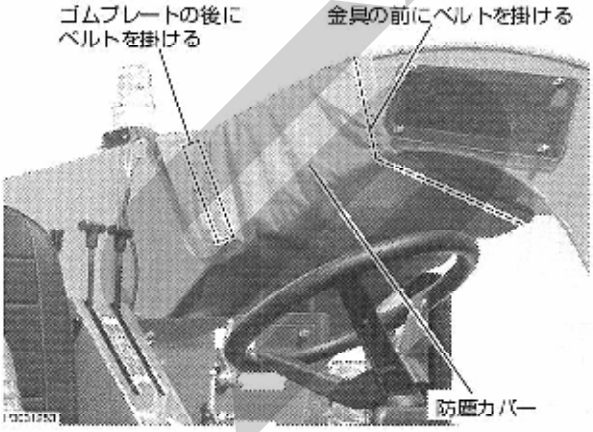
〈取り付けのしかた〉

取り外しと反対の要領で行います。

❶シュート部に防塵カバーを巻き付けてください。

❷ファスナーを閉めてください。

❸前・後のベルト位置を確認し、しっかり締めてください。



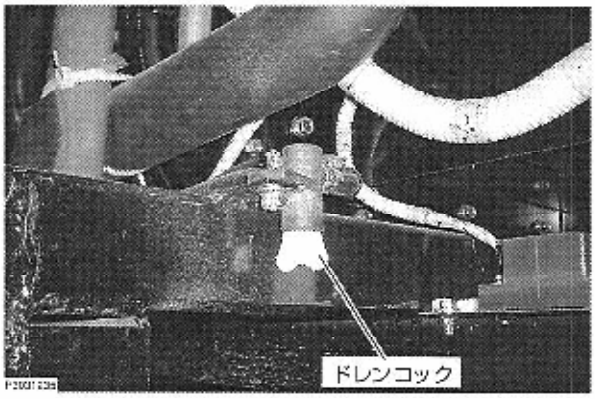
3.格納のしかた

⚠警告

- 格納するときは、バッテリを本機から取り外し、キーを抜いて保管してください。守らないと、事故を起こすおそれがあります。

取扱いの注意

- 各部にこく粒やワラクズが残っていると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、次の年の作業に差し支えますので、きれいに掃除してください。
- 直射日光や雨水のあたらない、風通しのよい屋内に置いてください。
- クローラの下に板を敷いてください。
- 各操作レバーを「切」位置、または「N」(中立)位置にしてください。
- センサソリ調節レバーを「収納」位置にしてください。
- 刈取部をいっぱいに下げてください。
- 外部のサビやすい部分には、防錆油またはエンジンオイル・グリスを塗ってください。
- エアクリーナー・マフラ・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないように、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。
- 燃料タンクに燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。
- 冷却水のドレンコックから冷却水を完全に抜き取ってください。



参考

- スター不凍液を入れた冷却水でも、−30℃以下になると凍るおそれがあります。
(➜81ページ参照)

⚠警告

- 点検・整備・調節をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所で行ってください。守らないと、機械が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備をするときは、エンジンを停止し、駐車ブレーキを掛け、各レバーを「切」位置にして、回転部の停止を確認してから行ってください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、重大な事故の原因になります。
- 室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。エンジンの排気ガスで中毒を起こすおそれがあります。
- 複数で作業するときは、安全を確保するために、キースイッチのキーを抜いてください。

⚠注意

- 点検・整備をするときは、過熱部分が十分に冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- カバーを取り外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を起こす原因になります。

取扱いの注意

- オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、特販店、またはJAにご相談ください。

1.定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行われることをお勧めします。農閑期に行いますと農繁期には機械の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。
機械の整備不良による事故を未然に防止するため、1シーズンごとに整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。
特に、燃料パイプやラジエータホースなどのゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

2.定期点検一覧表

テンションバネフック長は、
両端フックの内寸法を示します。

点検・調節

点検・調節箇所	規定量	内　　容	点検・交換時期	参照ページ
HSTフィルターの交換	—	—	1回目:50時間または1シーズン後 2回目以後:ミッションオイル交換ごと	83
ウォータセパレータおよび燃料コシ器の掃除と交換	—	—	100時間ごと（点） 300時間ごと（交）	84
エンジンオイルエレメントの交換	—	—	1回目:30時間または1シーズン後 2回目以後:オイル交換2回ごと	83
エアクリーナーエレメントの清掃と交換	—	—	50アールごと(清),10ヘクタールごと または1シーズンごと（交）	85
冷却ファンベルトおよびジェネレータ駆動ベルト	10～15mm	指で押したときのたわみ量	—	91
ミッション駆動ベルト	223～227mm	テンションバネフック長	—	93
駐車ブレーキワイヤ	102～106mm	テンションバネフック長	—	93
クローラ	15～20mm	シャーシをジャッキアップしたとき、クローラと転輪のすき間	—	94
各ブーリセットボルトの増締	—	スパナで増締	10ヘクタールごと（点）	—
フレール駆動ベルト	153～157mm	テンションバネフック長	—	92
ベーラ駆動ベルト	153～157mm	テンションバネフック長	—	92
フレールカッターの研磨	—	本機より取り外して研磨	5ヘクタールごと（点）	100
フレール駆動ケースベルト	198～202mm	テンションバネフック長	—	98
フレールベルト	36～40mm	テンションバネ長	—	98
メイン駆動チェン	65～70mm	テンションバネ長	—	95
フロント駆動チェン	65～70mm	テンションバネ長	—	95
ゲート駆動チェン	65～70mm	テンションバネ長	—	95
ゲートフック	2mm	ゲートフックとカラーのすき間	—	96
操作リンクロッド	7mm	すき間	—	96
背圧スプリング	402～406mm	バネフック長	—	96
梱包密度調節スプリング	ゆるく張る		—	96
ロールベーラ駆動ベルト	203～207mm	バネフック長	—	97
トワイン繰出しベルト	—	テンションバネが少し伸びる状態	—	97
カーソル駆動チェン	—	たるみなきこと	—	97

注油箇所

No.	注油箇所	箇所	潤滑油の種類	油量	注油時間	備考
①	ハウジング	2	グリス	—	使用ごと	グリスニップル
②	ゲートフック支点	2	グリス	—	使用ごと	グリスニップル
③	トリップレバー支点	2	グリス	—	使用ごと	グリスニップル
④	ゲート支点	2	グリス	—	使用ごと	グリスニップル
⑤	ベアリングユニット	1	グリス	—	使用ごと	グリスニップル
⑥	チェンテンションアーム支点	3	グリス	—	使用ごと	グリスニップル
⑦	ベルトテンションアーム支点	3	グリス	—	使用ごと	グリスニップル
⑧	カーソルギヤ	1	エンジンオイル・ギヤオイル	—	使用ごと	
⑨	メイン駆動チェン	1	ギヤオイル	—	使用ごと	自動注油
⑩	フロント駆動チェン	1	ギヤオイル	—	使用ごと	自動注油
⑪	ゲート駆動チェン	1	ギヤオイル	—	使用ごと	自動注油
⑫	カーソル駆動チェン	1	エンジンオイル・ギヤオイル	—	使用ごと	
⑬	ロッド・リンク摺動部	4	エンジンオイル・ギヤオイル	—	使用ごと	
⑭	トラックローラ、アイドラ関係	16	グリス	—	使用ごと	グリスニップル
⑮	スイングアーム	8	グリス	—	使用ごと	グリスニップル
⑯	刈取部回動支点	2	グリス	—	使用ごと	グリスニップル
⑰	操作リンクロッド	4	エンジンオイル・ギヤオイル	—	使用ごと	
⑱	自動注油ポンプレバー支点	1	エンジンオイル・ギヤオイル	—	使用ごと	
⑲	トワイン繰出しテンション支点	1	グリス	—	使用ごと	グリスニップル
⑳	センサーソリ調節レバー・ロッド支点	7	エンジンオイル・ギヤオイル	—	使用ごと	
㉑	カーソルスライド部	1	グリス	—	使用ごと	グリスニップル
㉒	シャーボルト部スプロケット	1	グリス	—	使用ごと	グリスニップル
㉓	トワイン繰り出しプーリ部	1	グリス	—	使用ごと	グリスニップル

※注油箇所については、次項のNo.の位置を参照してください。
グリスアップ箇所は 印、注油箇所は 印で示しています。

取扱いの注意

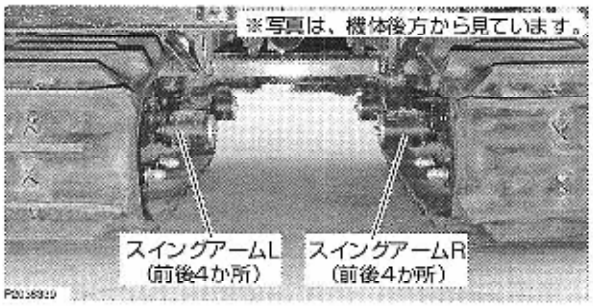
- 注油・塗布する油は、清浄なものを使用してください。
- グリスを給脂する場合は、古いグリスが排出され新しいグリスが出るまで行ってください。
- 出荷時には、十分注油してありますが使用前に確認してください。

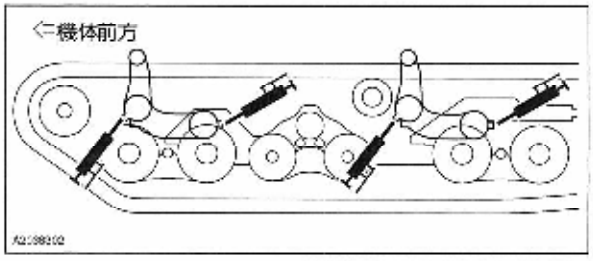
10章

参考

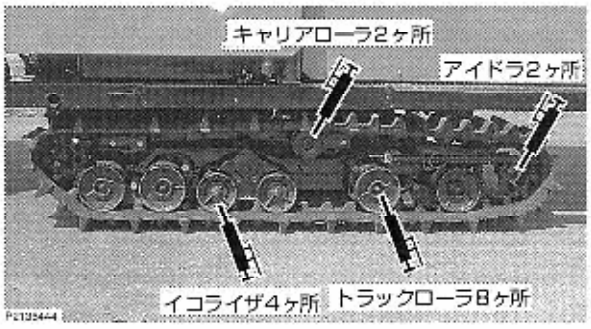
- その他、回転・回動支点の摺動部には、適時オイルを適量に注油してください。
- オイルの種類
  77ページの表を参照してください。

⑮スイングアーム



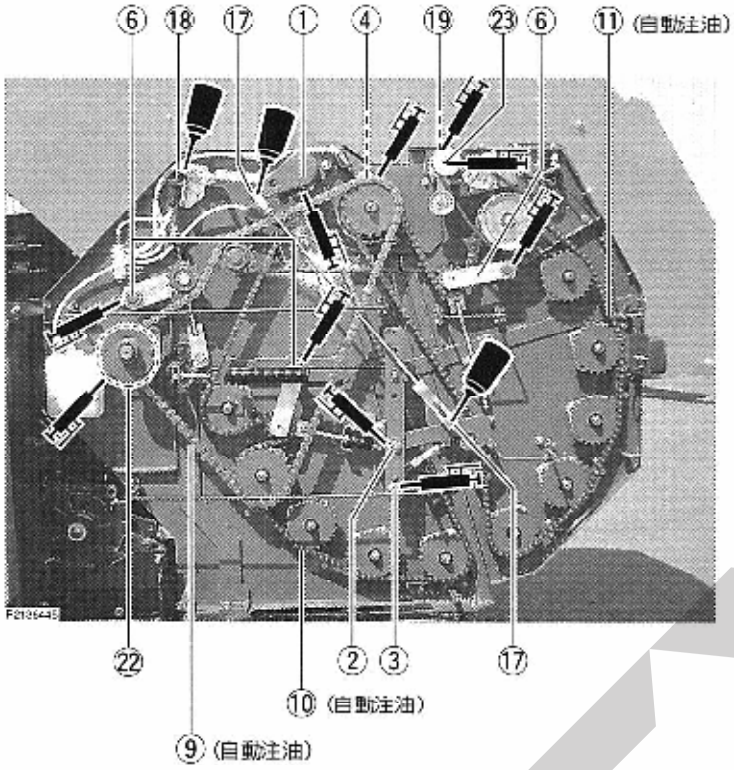


⑭トラックローラ・アイドラ関係

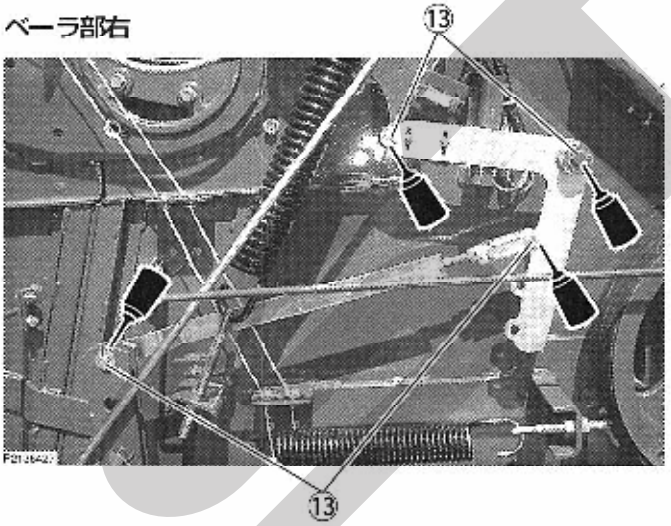


ベーラ部左

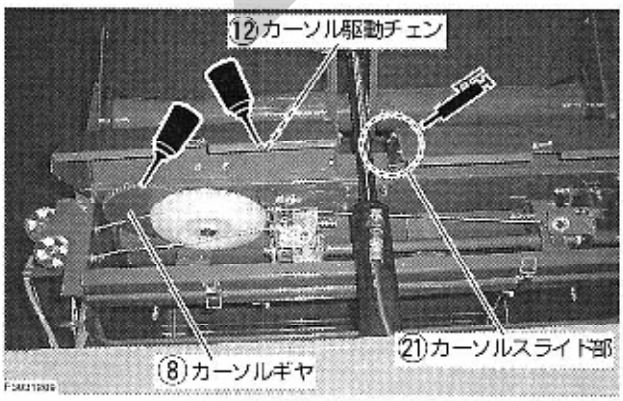
※①②③④⑪は右側にもあります。



ベーラ部右

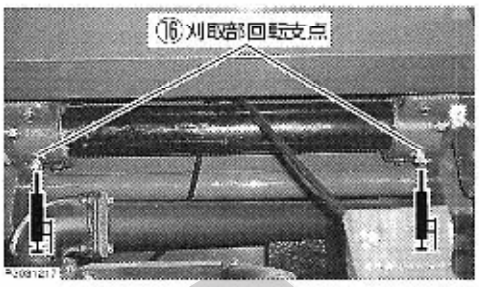


ゲート部上面

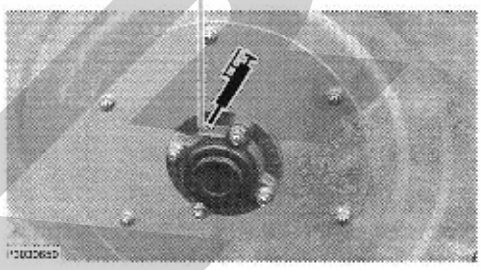


※⑧⑫は、食品機械用潤滑スプレーを推奨します。オイルを注油するときは、垂れないように適量を注油してください。

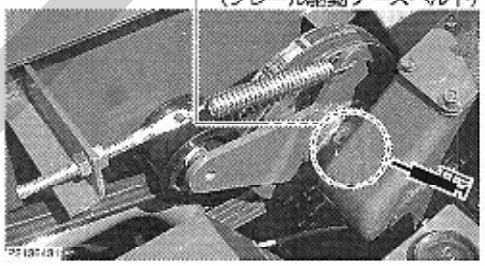
エンジン部上



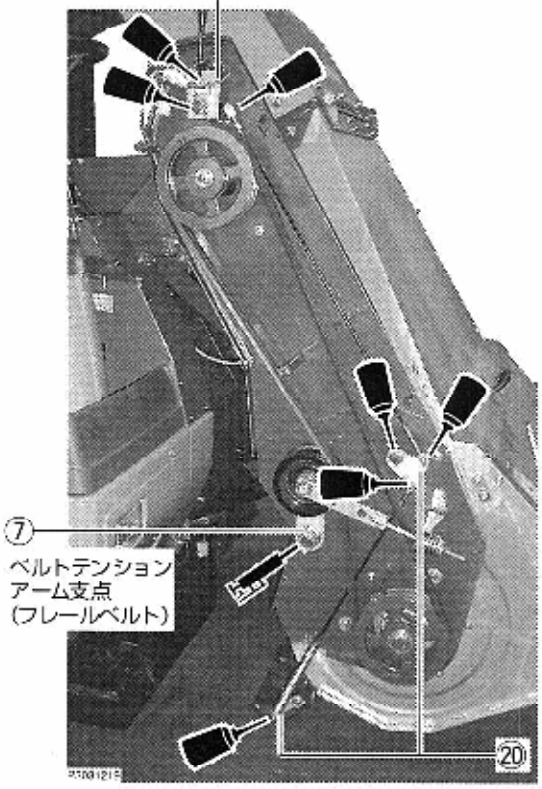
刈取部左



刈取部右



刈取部右



3.オイル・グリス・不凍液一覧表

No.	項　　目	種　　類
1	燃料	ディーゼル軽油（JIS2号）
2	エンジンオイル	ディーゼルエンジン用 マルチグレード10W-30 シングルグレード30＃
3	ミッションオイル （油圧・HST兼用）	トランスミッションフルード TF-300
4	不凍液	アンチフリーズPT （JIS　K2234　2種　パーマネントタイプ）
5	グリース	グリース：2号
6	ギヤオイル	ギヤオイル90番（ギヤオイル：VG220）

4.給油・給水一覧表

項　　目		給油量	種　　類	交　換　時　期	参照ページ
燃　　料		50ℓ	ディーゼル軽油	作業前	78
冷　却　水	ラジエータ	6.0ℓ	清水・不凍液	1年ごと	81・82
	サブタンク	0.45ℓ	清水・不凍液	1年ごと	81・82
エンジンオイル		5.8ℓ	エンジンオイル　10W-30	1回目:30時間または1シーズン後 2回目:以降100時間または1シーズンごと	79
ミッションオイル		17ℓ	トランスミッション フルード TF-300	1回目:50時間または1シーズン 2回目:以降300時間ごと、または2年ごと	80
ベーラ駆動ケース		1.0ℓ	ギヤオイル90番	300時間ごと	81
フレール駆動ケース		0.7ℓ	ギヤオイル90番	300時間ごと	81
自動注油タンク		1.5ℓ	ギヤオイル90番	作業前	98・99

取扱いの注意

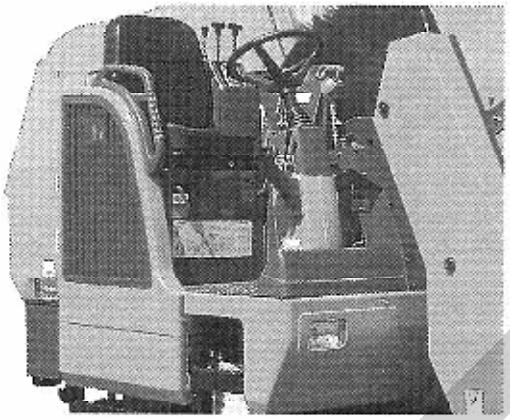
- 定期点検を実施するとともに、オイルの交換は純正（指定）オイルをご使用ください。
- オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、特販店、またはJAにご相談ください。

5.エンジンルームカバーのオープンのしかた

❶左手でアームレストを持ってください。

❷右手で、エンジンルームロックレバーを「開」(解除) 方向に引きながら、エンジンルームを矢印方向にオープンしてください。

❸収納は、エンジンルームを閉じると自動的にロックされます。



P2136459

参考

- エンジンルームを閉じたときは、ロックが確実にできているか確認してください。

取扱いの注意

- **エンジンルームをオープンするときは、完全にオープンするまでアームレストを持っていてください。オープンの途中で手を離すと、エンジンルームの変形の原因になります。**

6.燃料の点検・補給のしかた

⚠危険

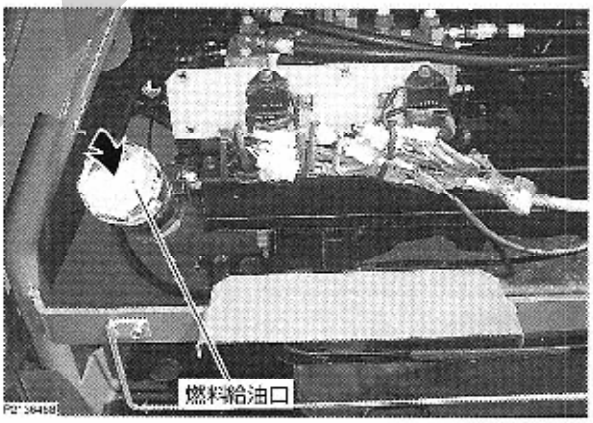
- **燃料の点検・補給をするときは、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こす原因になります。**
- **燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。**

燃料の残量点検のしかた

燃料の残量は、キースイッチを「入」位置にして、燃料計で確認してください。

燃料の補給のしかた

燃料キャップを取り外し、燃料を、フィルターから液面が見え始めるまで補給してください。



P2136458

7.オイルの点検・補給・交換のしかた

エンジンオイル

エンジンオイルの点検・補給・交換は、エンジン始動前か、エンジンが冷えているときに行ってください。

〈点検のしかた〉

❶ベーラ右サイドカバーを外してください。

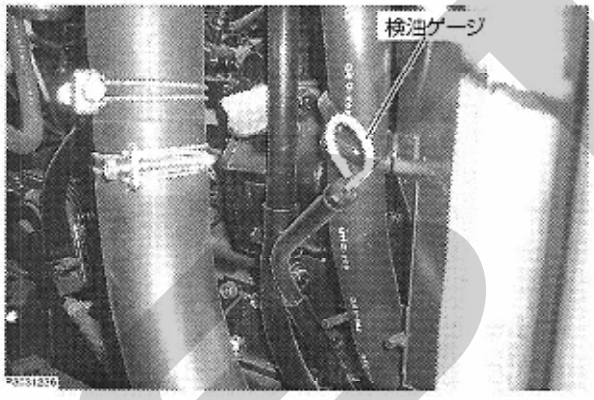
❷検油ゲージを抜いて、先端をきれいに拭き取ってください。

❸検油ゲージを元通りに差し込んだ後、もう一度抜き出して、ゲージの上限と下限の間にオイルがあることを点検してください。

❹点検後は、検油ゲージを元通りに取り付けてください。

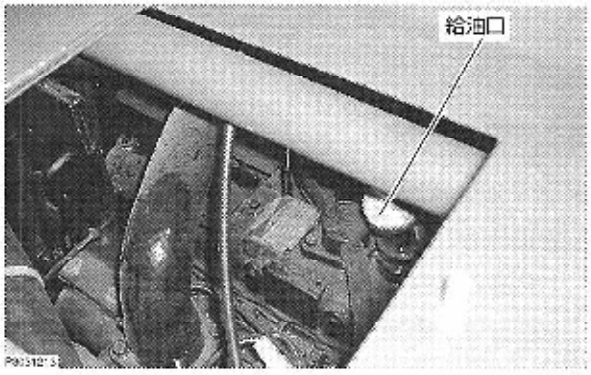
参考

- 点検時、オイルもれのないことも確認してください。



〈補給のしかた〉

オイルが不足している場合は、エンジンオイル給油口ふたを開けて、給油口から規定量になるまで補給してください。



〈交換のしかた〉

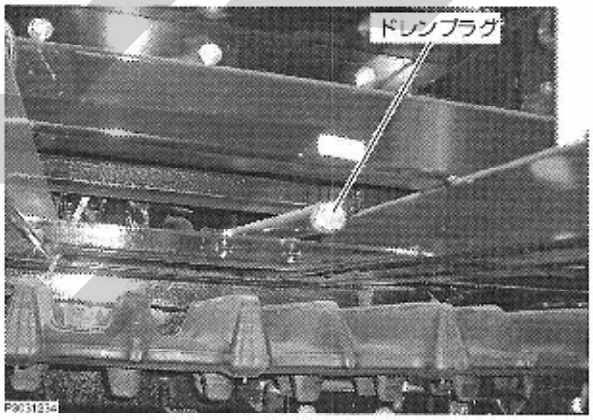
❶ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。

❷エンジンオイル給油口ふたを開けて、給油口のふたを外した後、ドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。

参考

- 給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

❸古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。



❹給油口から、エンジンオイルを規定量まで給油してください。

❺給油口にふたを取り付けてください。

❻エンジンを始動し、油圧パイロットランプが消えるまで、低速回転で回してください。

❼油圧パイロットランプが消えたら、エンジンを停止し、約5分間待ってください。

❽検油ゲージでオイル量を点検してください。不足している場合は、補給してください。

取扱いの注意

- **オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、特販店、またはJAにご相談ください。**

ミッションオイル

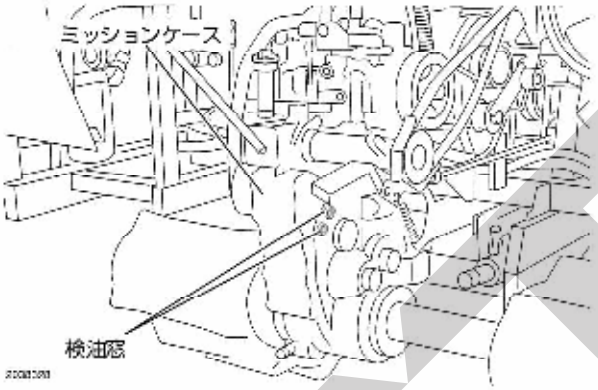
ミッションオイルの点検・補給・交換は、刈取部を最上げ状態にして、刈取部昇降ロックレバーを「閉」位置にし、刈取部が下らないようにロックしてから行ってください。
作業終了後は、元通りにしてください。

〈点検のしかた〉

❶機体を水平にしてください。

❷刈高さ調節レバーを「上昇」側にしてください。刈取部を最上位置にします。

❸ミッションケース左側面にある検油窓を点検してください。2つの検油窓のうち、下側の窓がオイルで満たされていれば規定量です。

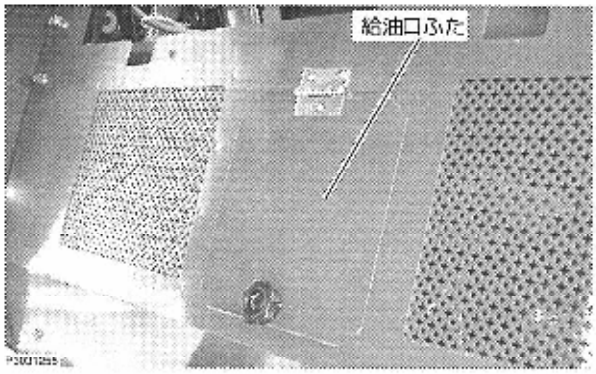


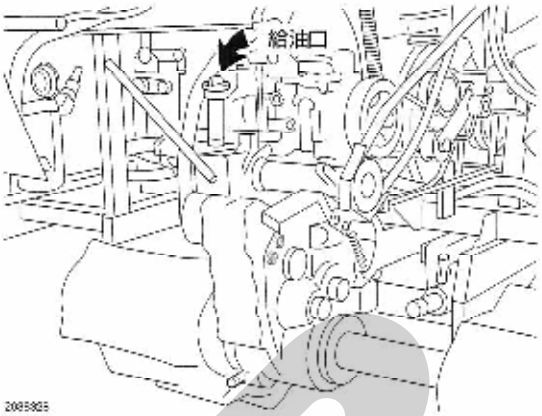
参考

- 上側の検油窓は、入れ過ぎ防止のために設けてあります。
- 点検時、オイルもれのないことを確認してください。

〈補給のしかた〉

オイルが不足している場合は、ミッションオイル給油口ふたを開けて、給油口から規定量（下側の検油窓がオイルで満たされる量）まで補給してください。





〈交換のしかた〉

❶ミッションケース下部のドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。

❷給油口のふたを外した後、ドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。

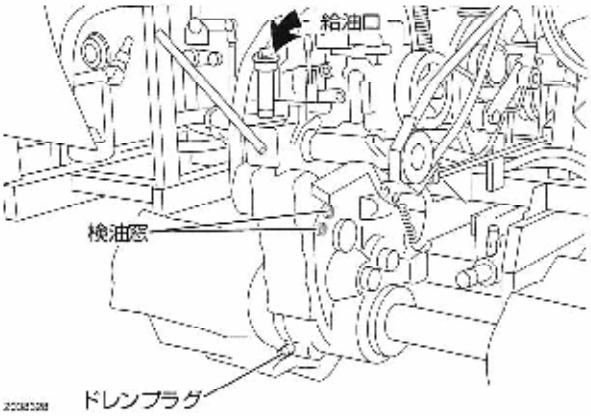
参考

- 給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

❸古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。

❹給油口からミッションオイルを給油してください。下側の検油窓がオイルで満たされれば規定量です。

❺検油ボルトと給油口のふたを取り付けてください。

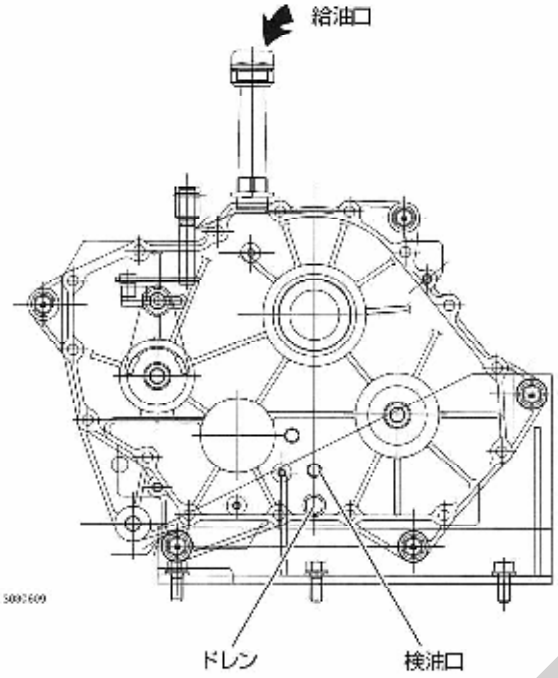


取扱いの注意

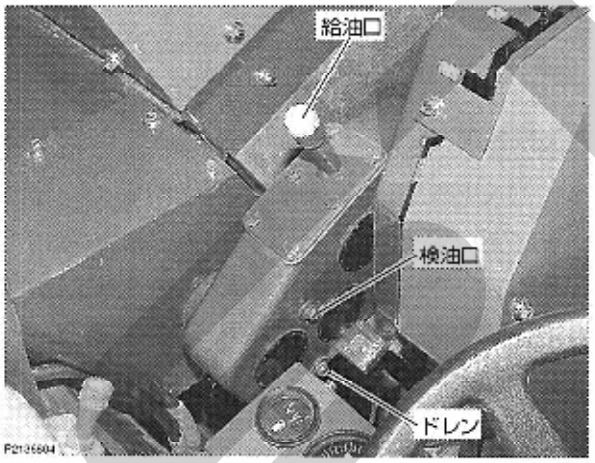
- **オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、特販店、またはJAにご相談ください。**

その他の給油箇所

ベーラ駆動ケース



フレール駆動ケース



8.冷却水の点検・補給・交換のしかた

⚠警告

- **ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後に開けないでください。開けると熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。エンジンの停止後、10分程度たってから、エンジンの冷えていることを確認して開けてください。**

冷却水の補給は、補給口ふたを外して行ってください。交換は、給油口ふたを開けて行ってください。作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈点検のしかた〉

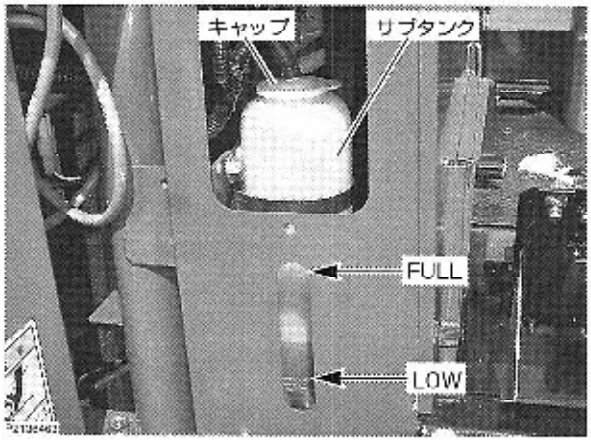
サブタンク内の冷却水が「FULL」「LOW」の範囲内にあるか点検してください。

参考

- 点検時、水もれのないことも確認してください。

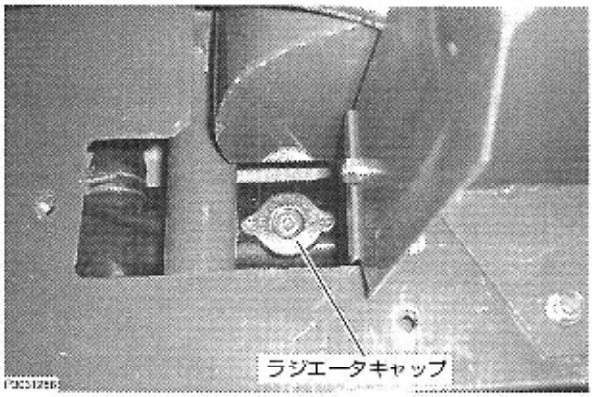
〈補給のしかた〉

冷却水が不足している場合は、補給口ふたを外して、サブタンクのキャップを外し、きれいな水道水を補給してください。

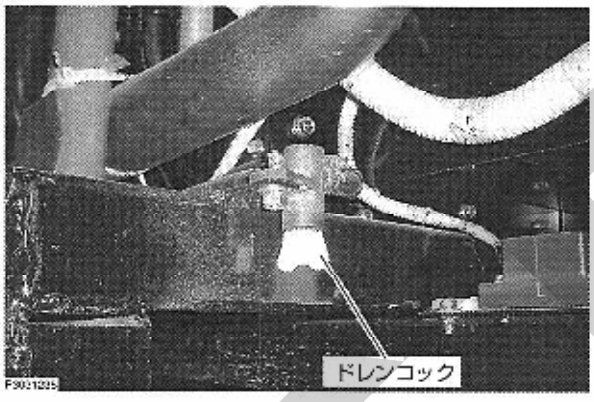


〈交換のしかた〉

❶ラジエータ給水口ふたを開けて、ラジエータキャップを取り外してください。



❷ドレンコックを取り外し、ラジエータ内の水をすべて抜いてください。



❸水道水でゴミや錆が出なくなるまでラジエータ内を洗います。

参考

- ラジエータ内をいっそうきれいにしたいときは、ラジエータ洗浄剤を混合した水をラジエータに入れ、15分以上エンジンを空回転してから、水を抜き取ってください。

❹ドレンコックを元通りに取り付け、不凍液を必要量入れた後、水道水をあふれるまで入れてください。

❺ラジエータキャップを取り付けてください。

❻エンジンを始動し、5分間エンジンを空運転して、不凍液の混合を早めてください。

〈不凍液の取扱いについて〉

- 不凍液は、水の凍結温度を下げる効果があります。不凍液の混合比によって凍結温度がことなりますので、厳寒地帯などでは下記の表を参考にして、安全な濃度で使用してください。

不凍液混合率表

外気温度(℃)		−5	−10	−15	−20	−25	−30
比率	水 (%)	85	75	70	65	60	55
	不凍液(%)	15	25	30	35	40	45

- 出荷時には、不凍液が入っています。冷却水交換時には、新たに不凍液を入れてください。
- 不凍液の混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。
- 冷却水が自然に不足した場合は、水道水だけを入れてください。また、パーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して確認してください。
- 不凍液の有効期限は1年です。毎年、新しい不凍液と交換してください。

取扱いの注意

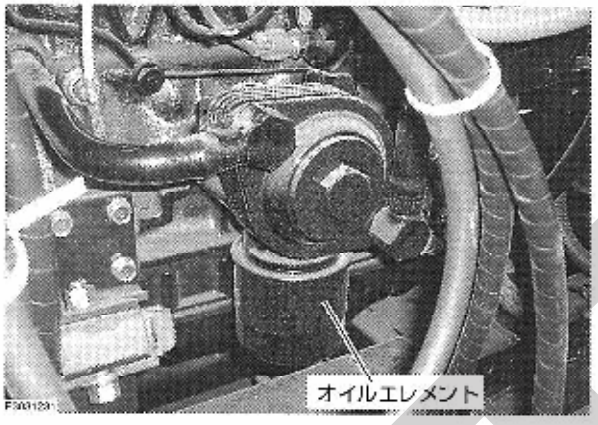
- **冷却水交換で出た廃液は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃液の処分は、特販店、またはJAにご相談ください。**

9.エンジンオイルエレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメントは、エンジンオイル内の小さな異物をこし取るものです。カートリッジタイプになっていますので、掃除はできません。定期的に交換してください。作業は、ルーム枠カバーを外して行ってください。

〈交換のしかた〉

❶オイルエレメントを、左方向に回して取り外してください。



❷新しいオイルエレメントの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布してください。

❸オイルエレメントを、ゴムリングがエンジンケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けてください。

取扱いの注意

- **交換後は、オイルエレメント取付面からのオイル漏れやにじみがないか、必ず点検してください。**
- **エンジンオイルエレメントは、スター純正部品をご使用ください。**

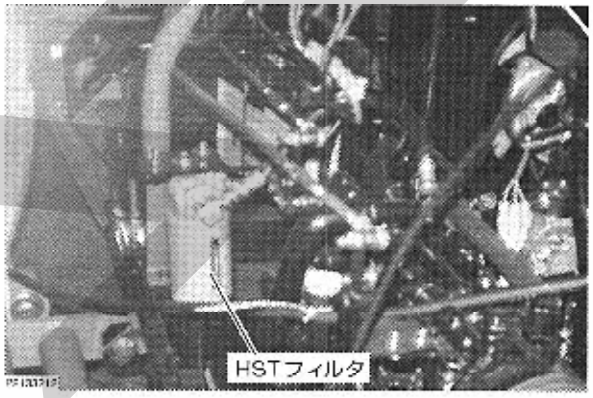
10.HSTフィルタの交換のしかた

HSTオイルは、ミッションオイルと兼用しています。HSTフィルタは、カートリッジタイプになっていますので、掃除はできません。ミッションオイルの交換をするときに、HSTフィルタも同時に交換してください。

〈交換のしかた〉

❶ルーム枠前カバーを取り外してください。

❷HSTフィルタを、左方向に回して取り外してください。



❸新しいHSTフィルタの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布してください。

❹HSTフィルタを、取付部に取り付けてください。

取扱いの注意

- **交換後は、HSTフィルタ取付面からのオイル漏れやにじみがないか、必ず点検してください。**
- **HSTフィルタは、スター純正部品をご使用ください。**

11.ウォータセパレータと燃料コシ器エレメントの点検・掃除・交換のしかた

作業は、ルーム枠カバーをオープンしてから行ってください。
作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈点検のしかた〉

❶エンジンの後部左方に付いている透明容器が燃料コシ器です。
ルーム枠左のシャーシに付いている容器がウォータセパレータです。

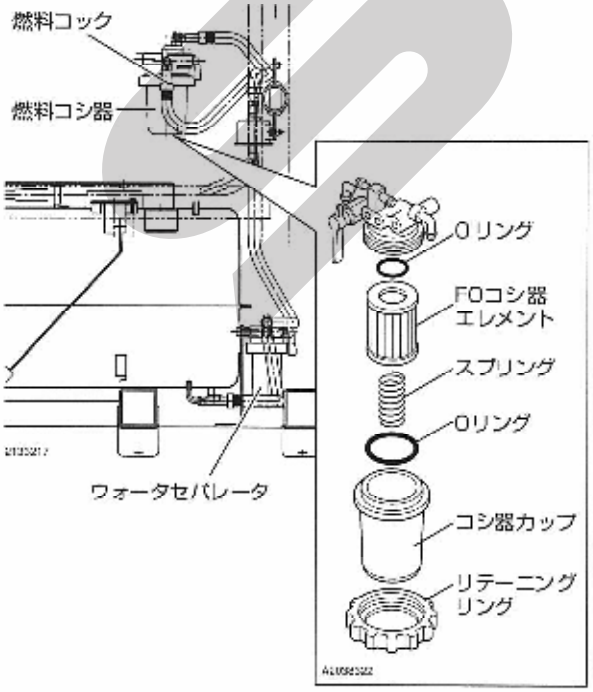
❷コシ器にゴミや水が沈殿していないか点検してください。沈殿していたら、下記の要領で掃除をしてください。

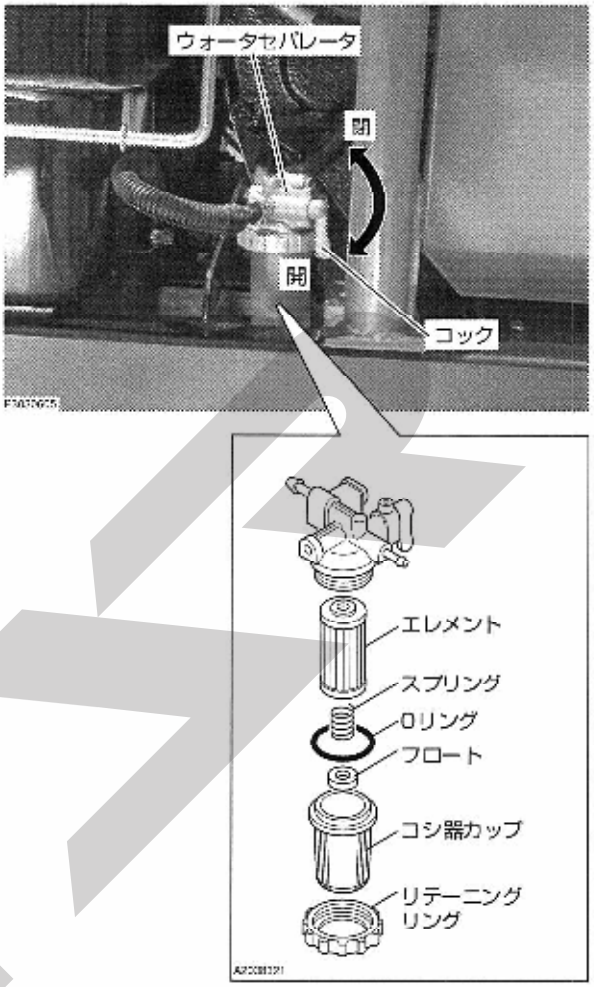
〈掃除のしかた〉

❶燃料コシ器とウォータセパレータのコックを「閉」位置にしてください。

❷それぞれのカップを取り外し、水・ゴミを取り除いてください。

❸コシ器の洗浄が終わったら、燃料コックを「開」位置にして燃料を出しながら、コシ器内に空気が入らないようにカップを取り付けてください。





取扱いの注意

- **空気が入ったときは、燃料のエア抜きをしてください。(➜85ページ参照)**

〈交換のしかた〉

コシ器内のエレメントは、300時間ごとに交換が必要です。
要領は、掃除のしかたと同じです。前述の❷のときにエレメントを交換してください。

⚠注意

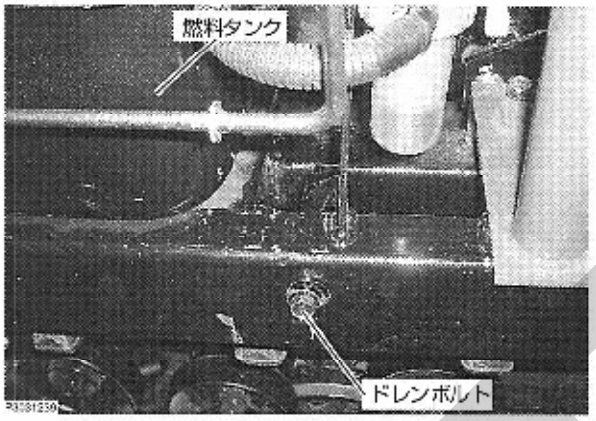
- **マフラに、燃料がかからないように注意してください。万一、マフラに燃料がかかった場合は、ウエスなどで拭き取ってください。守らないと、火災の原因になります。**

12.燃料タンクのドレン抜きのしかた

燃料タンクの底部には、水やゴミが沈殿しています。これらの沈殿物が燃料ポンプに入ると不具合の原因になりますので、定期的に取り除いてください。

〈ドレン抜きのしかた〉

❶ドレンボルトを取り外してください。
燃料が流れ出て、タンク内の沈殿物が排出されます。



❷排出後、ドレンボルトを取り付けてください。

❸燃料キャップを取り外し、燃料を補給してください。

13.燃料の空気(エア)抜きのしかた

燃料タンクが空になったり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まります。下記の要領で空気抜きをしてください。

〈空気（エア）抜きのしかた〉

❶燃料を満タンにしてください。

❷キースイッチを「入」位置にしたまま20～30秒待ち、「始動」位置にしてください。
自動的に空気抜きが行われ、エンジンが始動します。

14.エアクリーナーエレメントの掃除・交換のしかた

エアクリーナーエレメントは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り除き、シリンダライナやピストンリングの摩耗を防ぐ装置です。
50aごとに掃除をし、10ヘクタールまたは1シーズンごとにエレメントの交換をしてください。
作業は、エンジンルームをオープンしてから行ってください。
作業終了後は、元通りにセットしてください。

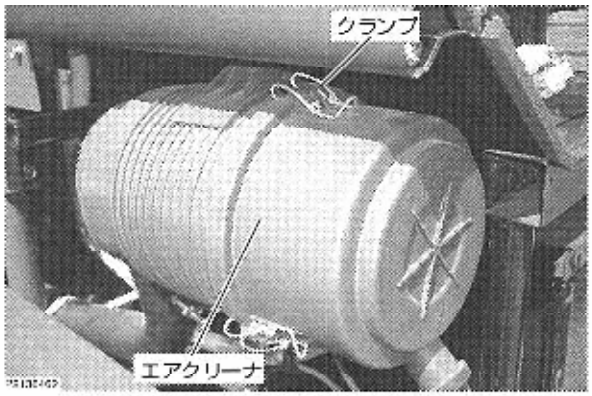
〈掃除・交換のしかた〉

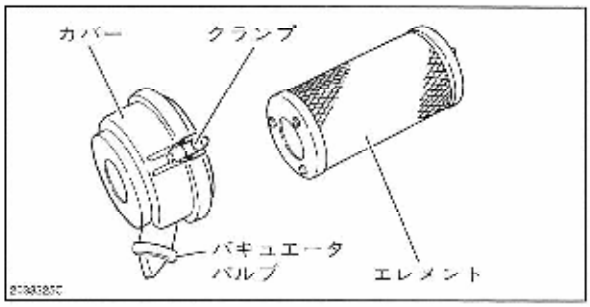
❶エンジンルームをオープンしてください。

❷カバーのクランプを外して、エレメントを取り出してください。

❸エレメントは、内側から空気（7kg/cm²以下）を吹きつけるか、中性洗剤の水溶液でザブ洗いしてください。

❹取り付けるときは、取り外しの逆手順で行ってください。





取扱いの注意

- エレメントを洗ったときは、完全に乾かしてください。生乾きのエレメントは、絶対に使用しないでください。エンジン作動不良の原因になります。
- 中性洗剤の水溶液でザブ洗いするときは、ろ紙を傷つけないようにゆっくり洗ってください。
- エレメントを交換するときは、スター純正部品をご使用ください。

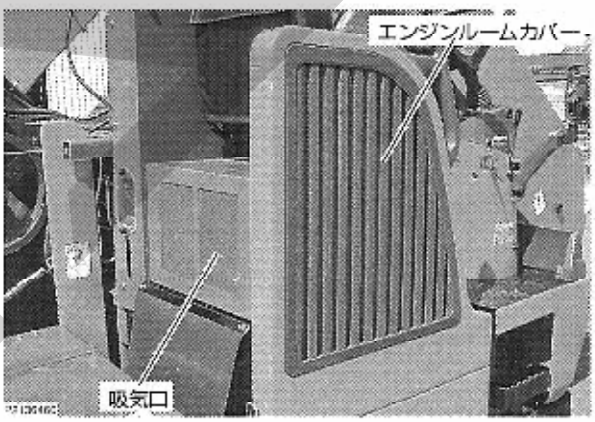
15.吸気口・ラジエータスクリーン・ラジエータフィン・オイルクーラフィンの掃除のしかた

吸気口・ラジエータスクリーン・ラジエータ冷却フィン・オイルクーラフィンは、エンジンの防塵装置です。冷却風を吸入する大切な装置ですから、作業前・作業後には必ず掃除をしてください。

吸気口・エンジンルームカバー内の掃除のしかた

〈吸気口の掃除のしかた〉

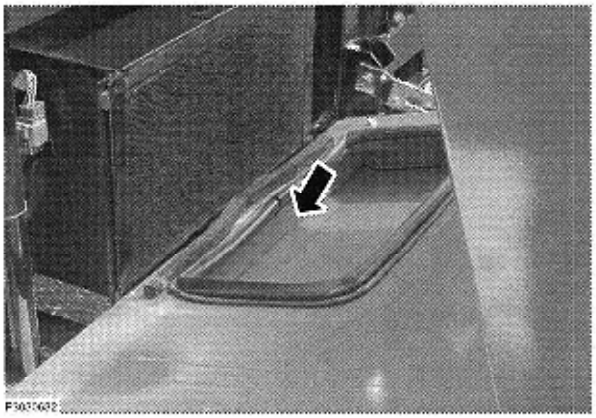
吸気口の網面にゴミが付着しているときは、エンジンを停止してから、網面を軽くこすってゴミを落としてください。



〈エンジンルームカバー内の掃除のしかた〉

❶エンジンルームカバーをオープンしください。

❷エンジンルームカバー内の矢印部分に溜まっているゴミを取り除いてください。



取扱いの注意

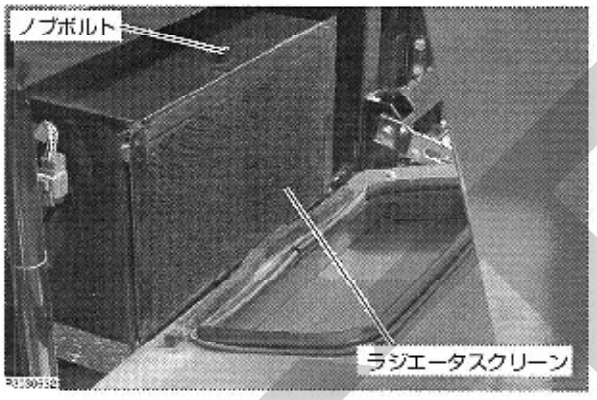
- 網面へのゴミの付着にはいつも注意し、ゴミが付着していれば掃除するようにしてください。ゴミが付着したままにしておくと、エンジンの冷却水、およびミッションオイルの冷却不良の原因になります。

ラジエータスクリーンの掃除のしかた

❶エンジンルームカバーをオープンしてください。

❷ラジエータスクリーン上部のノブボルトを外して、ラジエータスクリーンを引き上げて、取り外してください。

❸ラジエータスクリーンに付着したワラクズやホコリを、払い落としてください。



取扱いの注意

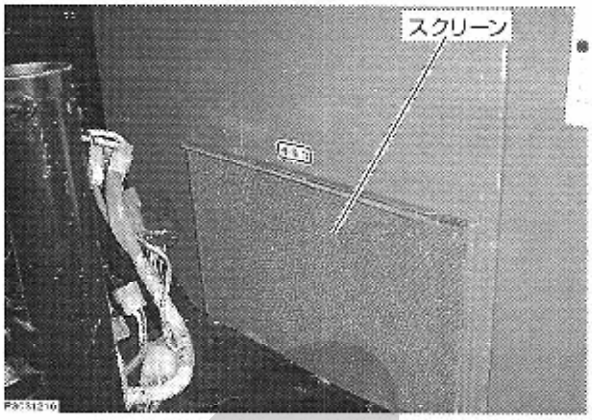
- スクリーンへのゴミの付着にはいつも注意し、ゴミが付着していれば掃除するようにしてください。ゴミが付着したままにしておくと、エンジンの冷却水、およびミッションオイルの冷却不良の原因になります。

サイドコラム横のスクリーンの掃除のしかた

❶エンジンルームカバーをオープンしてください。

❷サイドコラムカバー部のフィルターホルダーを引き上げて、取り外してください。

❸スクリーンおよびフィルターに付着したワラクズやホコリを、払い落としてください。



ラジエータ冷却フィン・オイルクーラフィンの掃除のしかた

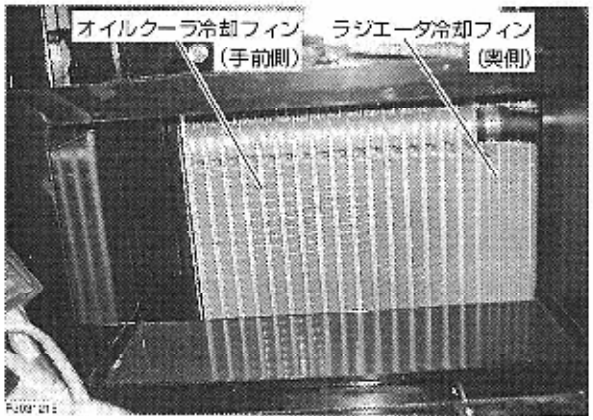
粉塵が特に多い場合は、下記の要領でラジエータ冷却フィン・オイルクーラ冷却フィンを掃除してください。

❶エンジンルームカバーをオープンしてください。

❷サイドコラムカバーを取り外してください。

❸吸気ダクト下側の掃除ふたを外してください。

❹ラジエータ冷却フィン・オイルクーラ冷却フィンに付着しているゴミを取り除いてください。



取扱いの注意

- ラジエータ冷却フィン・オイルクーラ冷却フィンは変形させないでください。

16.バッテリの点検・整備のしかた

⚠危険

- バッテリの点検時には、保護メガネとゴム手袋を着用してください。
- バッテリの液槽キャップを外すときは、火気厳禁です。液槽キャップを開けると、液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、引火してヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

- バッテリ液は、「下限（LOWER）」以下にしないでください。容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。
- バッテリの電解液は希硫酸ですので、取り扱いには注意してください。もし、皮膚や衣服についたときは、直ちに水洗いし、石けんでよく硫酸分を洗い流してください。万一、目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
- バッテリ端子を取り付けるときは、⊕側を先に取り付け、取り外すときは⊖側から取り外してください。守らないと、ショートしてヤケドや火災の原因になります。

取扱いの注意

- バッテリの各槽に電解液を入れすぎると、充電時にバッテリ液が吹き出し、機械の金属部を腐蝕させます。
- 急速充電はしないでください。
- バッテリを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した容量のバッテリを使用してください。

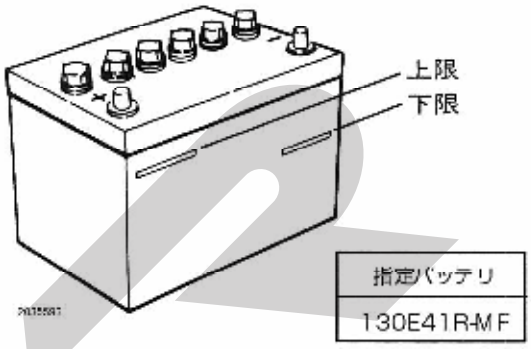
指定バッテリ	130E41R-MF （部品コードNo.1E8080-83320）

バッテリなど有害物の処理について

地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。燃料・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を処分するときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

バッテリ液の点検・補給のしかた

各槽のバッテリ液が、上限と下限のラインの間にあることを確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。



取扱いの注意

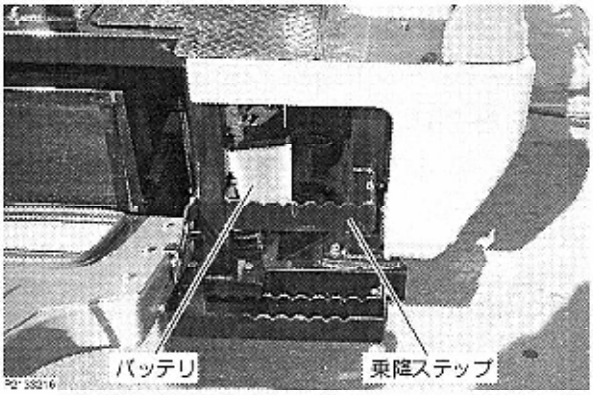
- バッテリ液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリ端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。

バッテリの取り外しかた

バッテリは、運転席ステップ板下にあります。以下の要領に従って取り外してください。

❶ステップ板を取り外してください。

❷乗降ステップ上側を外してください。（M8ボルト4本）



❸バッテリを固定している、取付ナット（2個）を外してください。

❹バッテリコードの⊖端子を外した後、⊕端子を外してください。

❺バッテリを抜き出してください。

❻バッテリの取り付けは、取り外しの逆の手順で行ってください。

補充電のしかた

寒冷地など気温の低い地域で使うとき、エンジンの始動がしにくくなったとき、ライトが暗くなったとき、自然放電によってセル始動ができないときは、下記の要領で補充電をしてください。

❶バッテリを取り外してください。
❷液口栓を外し、バッテリの⊕を充電器の⊕に、バッテリの⊖を充電器の⊖に接続してください。
❸3アンペア程度で8～10時間行ってください。

取扱いの注意

- **急速充電はしないでください。**
- **取り付けるときは、ターミナル接触部の油分などを拭き取ってください。また、取り付け後は、ターミナル部にグリスを塗布してください。**
- **バッテリの⊕ターミナル部のゴムブーツは、必ず取り付けてください。**

バッテリの手入れのしかた

バッテリ端子が腐蝕していたり、白い粉が付いている場合は、お湯で掃除し、グリスを塗布してください。

バッテリの自然放電について

エンジンを長期間運転しないで放置していると、バッテリは自然放電します。使用しないときでも、ときどきエンジンがかかることを点検し、必要に応じて充電してください。

17.パイプ類の点検のしかた

⚠警告

- **作業前・作業後に、燃料パイプの老化や傷による燃料もれがないか点検し、燃料もれのある燃料パイプは交換してください。燃料もれがあると火災の原因になります。**

燃料パイプやラジエータホースなどの傷みによる燃料もれ、水もれがないか点検してください。また、締付バンドがゆるんでないか点検してください。
燃料パイプやラジエータホースは、傷みがなくても2年ごとに交換してください。
燃料パイプを交換したときは、空気（エア）抜きをしてください。

取扱いの注意

- **排油チューブ（エンジンオイルドレン部）も必ず点検してください。排油チューブが破損していると、エンジンの焼付きの原因になります。**

18.電気配線の点検のしかた

⚠警告

- **バッテリや配線に付着しているワラクズやゴミは、作業前・作業後にきれいに取り除いてください。ワラクズやゴミが付着していますと、火災の原因になります。**

電気配線コードが他の部品のエッジ部に接触して、被覆のはがれや傷、接続部のゆるみがないか点検してください。配線コードが傷んでいる場合は、特販店、またはJAで修理してください。
配線コードは、傷みがなくても50時間使用または1年ごとに、定期点検を受けてください。

19.ヒューズ・スローブローヒューズの点検・交換のしかた

スローブローヒューズ、またはヒューズボックス内のヒューズが切れたときは、規定のヒューズと交換してください。

〈ヒューズ・スローブローヒューズ配置図〉

ヒューズボックス

UFO電磁弁 10A	スタータ 5A
UFOコントローラ 5A	警報装置 10A
バインディングモータ 10A	保安装置 10A
予備電源 20A	作業灯 15A
	前照灯 15A
	エンジン電装 15A
	燃料ポンプ 5A
	作業クラッチ/走行装置 5A
	フレール昇降 5A
予備 20A	ゲート開閉 5A
ヒューズ鉄板	

予備ヒューズ　5A　10A　15A

スローブローヒューズ

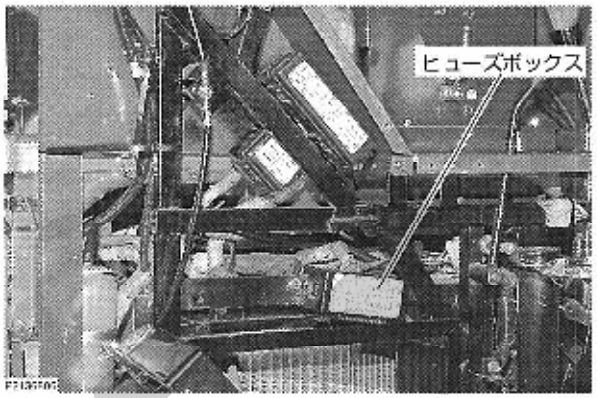
50A	50A	50A
電源　1	電源　2 (エアヒータ用)	ジェネレータ (充電用)

指定容量以外のヒューズは使用しないでください

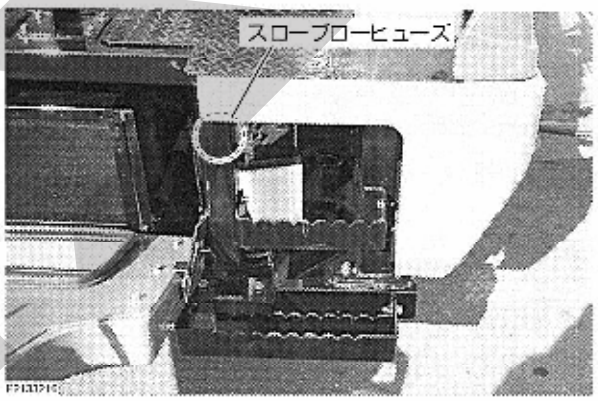
2095597

- ヒューズは、サイドコラム内にあります。
- スローブローヒューズは、ステップ下にあります。

ヒューズの場所



スローブローヒューズの場所

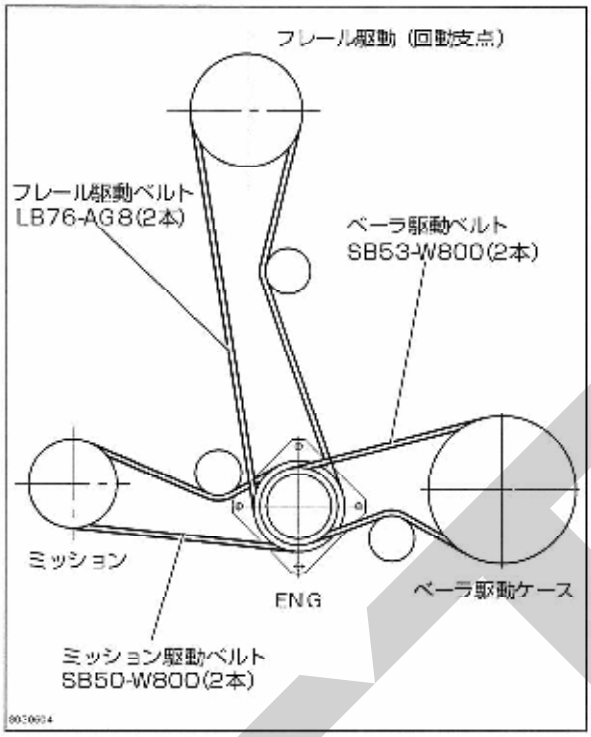


20.各部ベルトの点検・調節のしかた

ベルトにキズがあるときや切れたときは、主要消耗部品（➜112ページ参照）に紹介されているベルトと交換してください。

★ベルトの配置図

ベルトの位置を探すときの参考にしてください。



冷却ファンベルト(ジェネレータ駆動ベルト)

ルーム枠前カバーを外して、下記の点検・調節をしてください。点検・調節後は、元通りに閉めてください。

〈点検のしかた〉

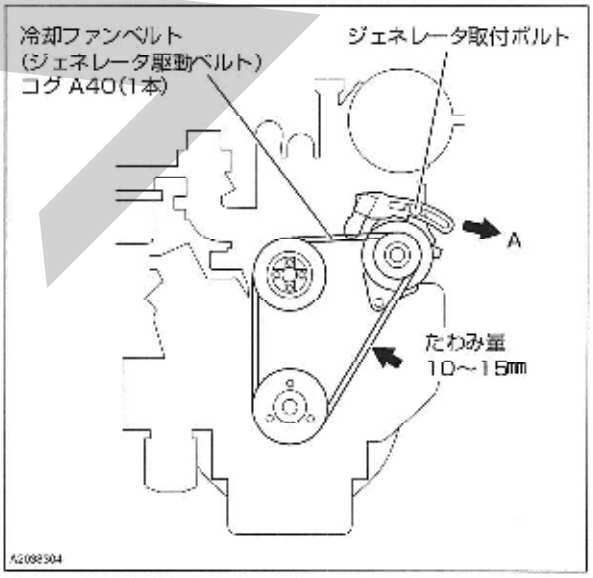
ベルトの中央を指で押したとき、たわみ量が10～15㎜であるか確認してください。

〈調節のしかた〉

❶ジェネレータ取付ボルトをゆるめてください。

❷ジェネレータを下図の矢印Aの方向に引っ張り、ベルトを張ってください。

❸ジェネレータ取付ボルトを締め付けて固定してください。



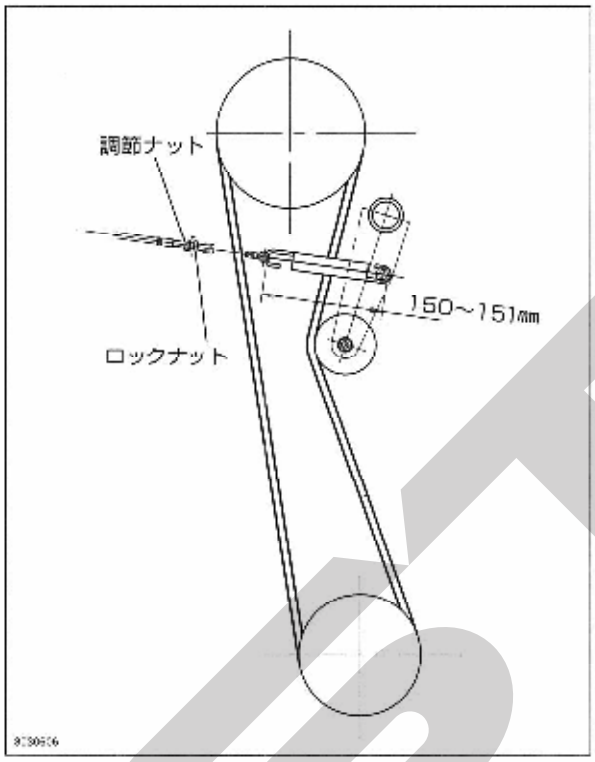
フレール駆動ベルト

ルーム枠カバー、およびルーム枠前カバーを取り外して、下記の2カ所の点検調節をしてください。点検・調節後は、元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた-1〉

❶フレールクラッチレバーを「入」位置にしてください。

❷テンションバネのフック長を測り、150～151㎜であるか確認してください。



〈調節のしかた〉

❶ロックナットをゆるめてください。

❷調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。

❸ロックナットを締め付けて固定してください。

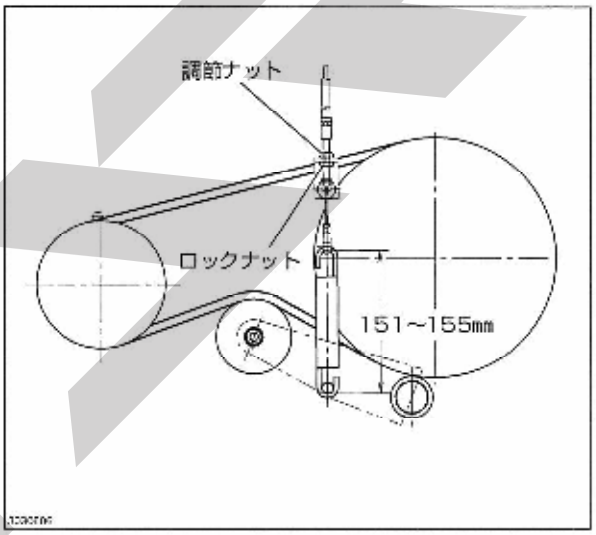
ベーラ駆動ベルト

ルーム枠カバーを取り外して、下記の点検・調節をしてください。点検・調節後は、元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉

❶ベーラクラッチレバーを「入」位置にしてください。

❷テンションバネのフック長を測り、151～155㎜であるか確認してください。



〈調節のしかた〉

❶ロックナットをゆるめてください。

❷調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。

❸ロックナットを締め付けて固定してください。

ミッション駆動ベルト

ルーム枠カバーを取り外してから、下記の点検・調節をしてください。点検・調節後は、元通りに下げてください。

〈点検のしかた〉

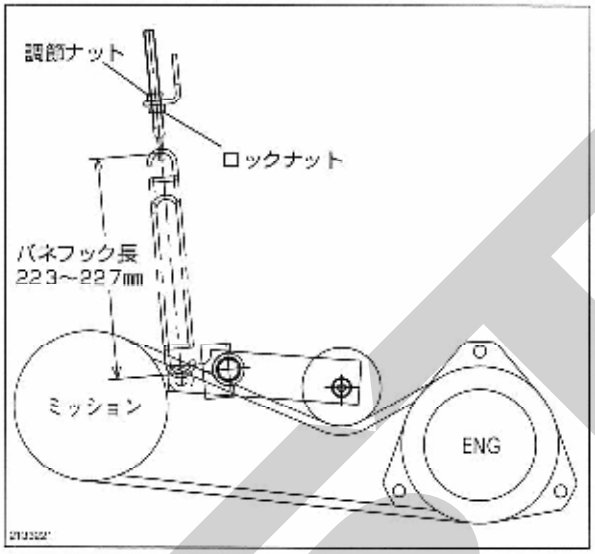
テンションバネのフック長を測り、223～227mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

❶ロックナットをゆるめてください。

❷調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。

❸ロックナットを締め付けて固定してください。



21.駐車ブレーキワイヤの点検・調節のしかた

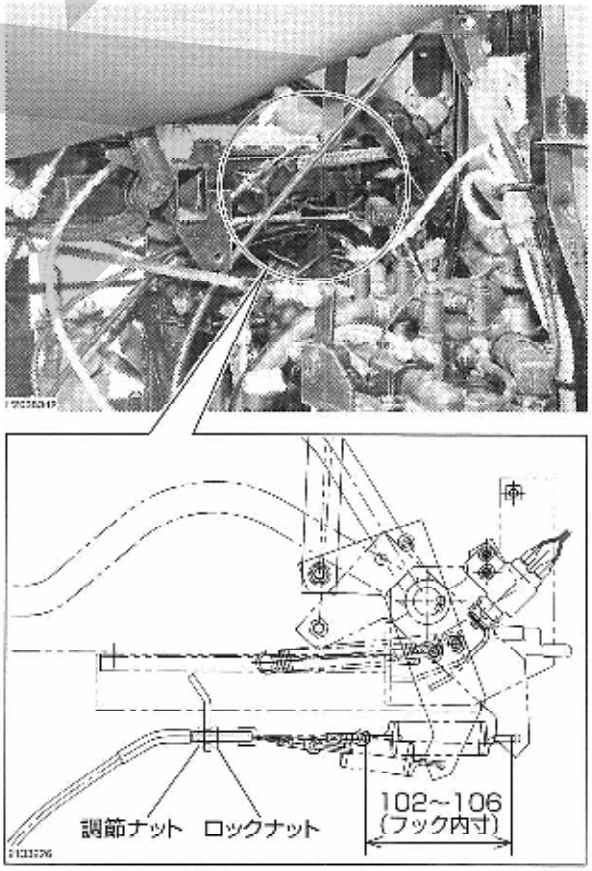
サイドコラムカバーを取り外し、下記の点検・調節をしてください。点検・調節後は、元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉

❶駐車ブレーキをかけてください。
(➜32ページ参照)

❷バネのフック長を測り、102～106mmであるか確認してください。

❸調節後、駐車ブレーキを解除して、バネが自由長になっていることを確認してください。



〈調節のしかた〉

❶ロックナットをゆるめてください。

❷調節ナットを締め込みながら調節してください。

❸ロックナットを締め付けて固定してください。

22.クローラの点検・調節のしかた

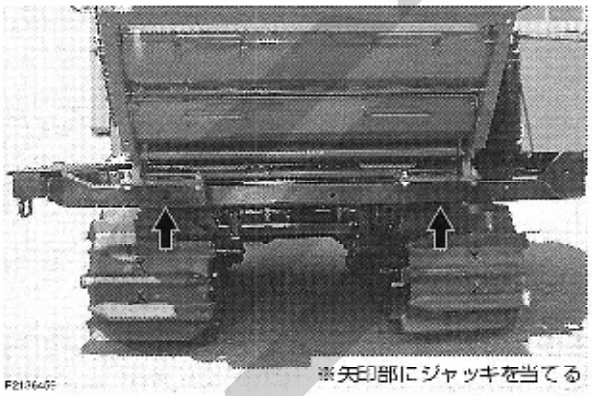
ミッション下部およびシャーシ左後・右後の3か所を同時にジャッキアップし、クローラを浮かせた状態で下記の点検・調節をしてください。

〈ジャッキアップ時の注意事項〉

ジャッキアップをするときは、地面が固く、平坦な場所で、必ず2トン以上の容量のジャッキを使用して行ってください。

ミッション下部

シャーシ左後



〈点検のしかた〉

第2転輪とクローラのすき間を測り、15～20mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

❶ボルトM8を外してください。

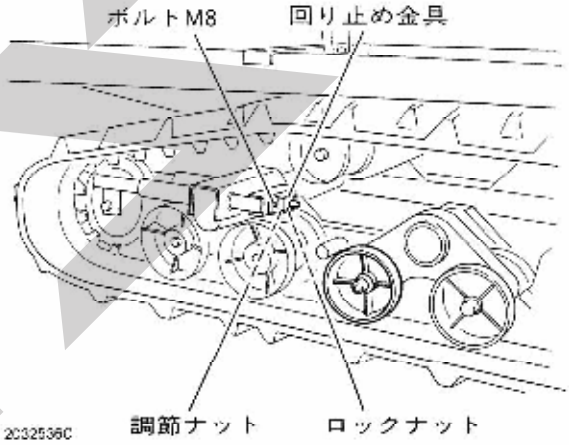
❷回り止め金具を取り外してください。

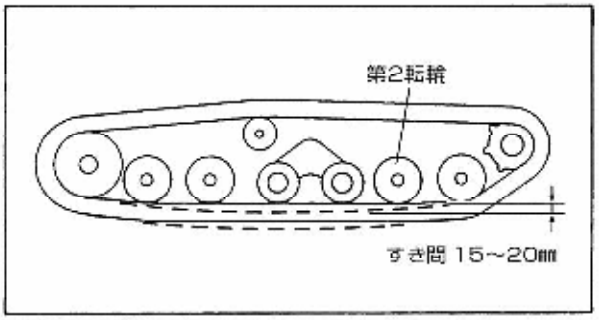
❸ロックナットをゆるめてください。

❹調節ナットを回して、すき間を調節してください。

❺ロックナットを締め付けて固定してください。

❻回り止め金具を取り付けて、ボルトM8で固定してください。





23.排気ガスの色について

エンジンの始動時は、少し黒色の排気ガスがでますが、通常は無色です。

黒色……燃料が濃すぎるための不完全燃焼。

白色……エンジンオイルが燃焼しています。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。

黒色・白色の排気ガスがエンジンに負荷をかけなくてもでるときは、特販店、またはJAで整備してください。

24.作業部の点検・調節のしかた

機械の性能を引き出し、長く使用させるため、作業前には必ず行ってください。

各部の点検

各部のボルト・ナットのゆるみ、ピン類の脱落などがないか点検してください

ベーラ部

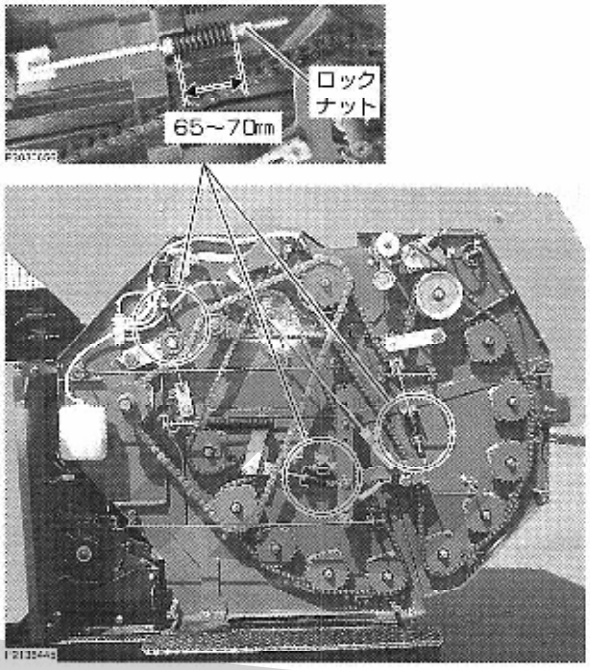
〈メイン駆動チェン、フロント駆動チェン、ゲート駆動チェン〉

フロントカバーLを外し、ゲートカバーLを開けて、下記の調節をしてください。

調節後は、元通りに取り付けてください。

❶各テンションバネのバネ長が65～70mmであるか確認してください。

❷ロックナットをいったんゆるめ、バネ長を調節した後、締め付けて固定してください。



〈トワイン押さえ板〉

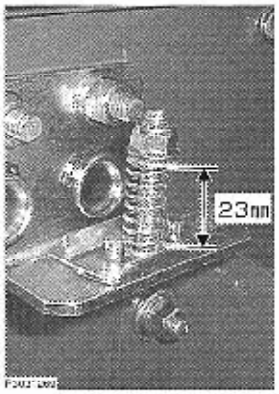
トワインケーシング側のバネは、ふたを開け、スタンドをかけて調節してください。トワイン繰り出しローラ上部（左右2箇所）側は、リアシュート、結束カバーL・Rを開けて、調節してください。

調節後は、元通りに取り付けてください。

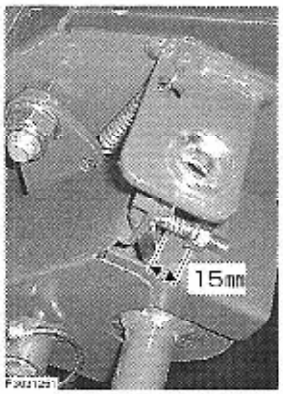
参考

- トワインがたるみやすいときは、バネ長を短く、トワイン繰出しの抵抗が大きいときは、バネ長を長く調節してください。

トワインケーシング側
バネ長：23mm



トワイン繰り出しローラ上部(左右2箇所)側
バネ長：15mm

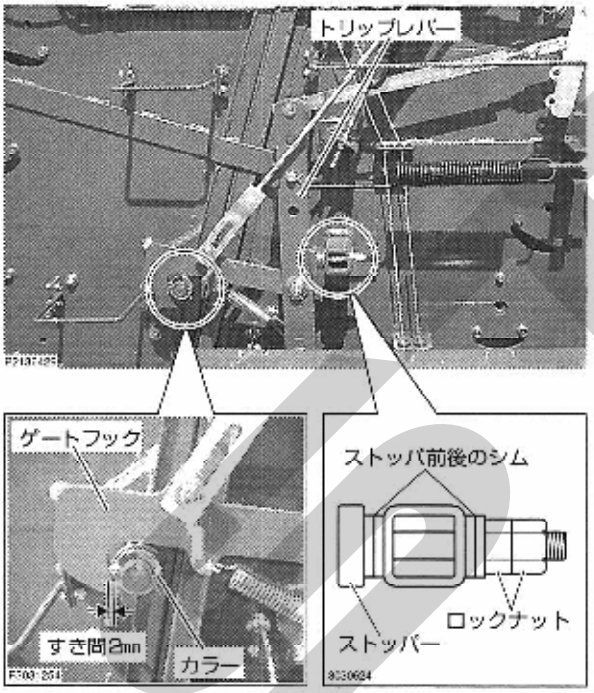


〈ゲートフック〉

フロントカバーL・Rを外し、ゲートカバーL・Rを開けて、左右とも下記の調節をしてください。
調節後は、元通りに取り付けてください。
ゲートが閉じている状態で、ゲートフックのフック部とカラーのすき間が2mmあり、なおかつ操作リンクロッド長穴下端とM8ボルトの寸法が7mmになるように調節してください。

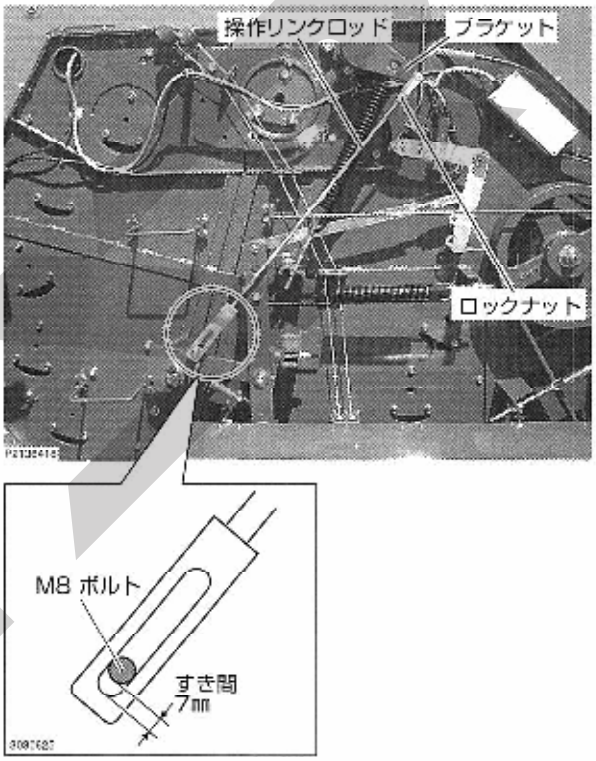
● ゲートフック部

❶ゲートフック支点部のトリップレバーストッパのロックナット（2個）をゆるめてください。
❷ストッパの前・後シムを増減し、すき間を調節してください。
❸ロックナットを締め付けて固定してください。



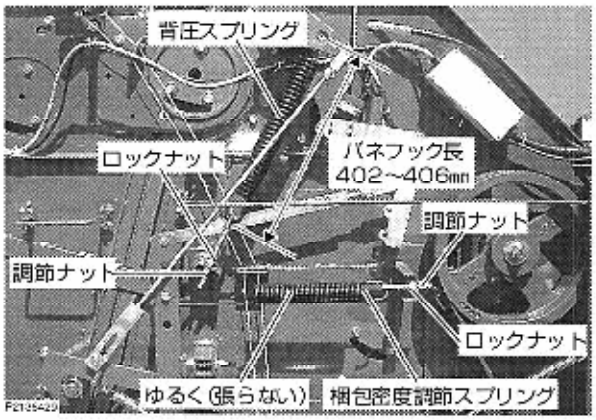
● 操作リンクロッド

❶操作リンクロッドの上部をブラケットから取り外してください。
❷操作リンクロッドの上部のロックナットをゆるめてください。
❸ロッド上部を回して、寸法を調節してください。
❹ロックナットを締め付けて固定し、操作リンクロッドの上部をブラケットに取り付けてください。



〈背圧スプリング・梱包密度調節スプリング〉

フロントカバーL・Rを外して、左右とも下記の調節をしてください。調節後は、元通りに取り付けてください。
ロックナットをいったんゆるめ、バネフック長を調節した後、締め付けて固定してください。

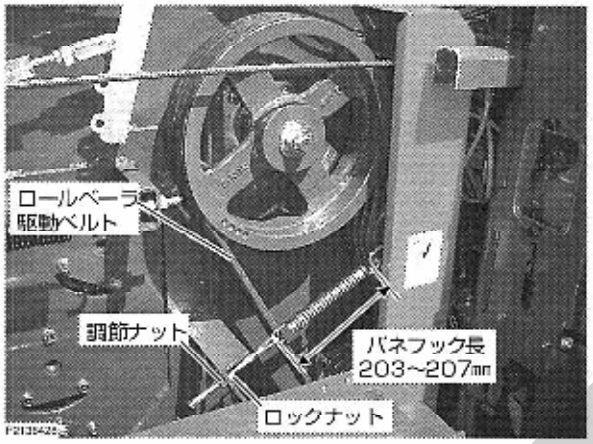


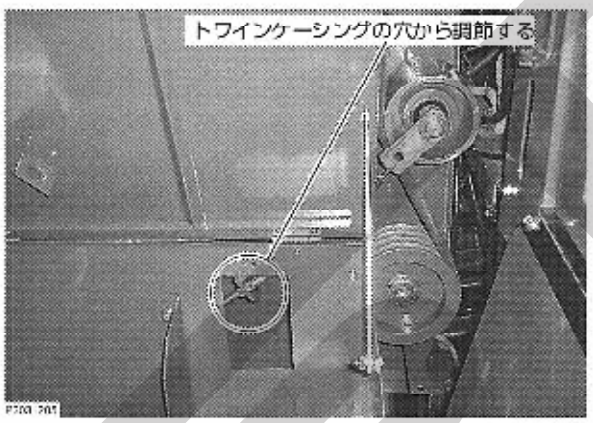
〈ロールベーラ駆動ベルト〉

フロントカバーRを外して、トワインケーシングのふたを開け、スタンドをかけてください。

トワインケーシング内の調節口のふたを外して、下記の調節をしてください。調節後は、元通りに取り付けてください。

ロックナットをいったんゆるめ、バネフック長を調節した後、締め付けて固定してください。

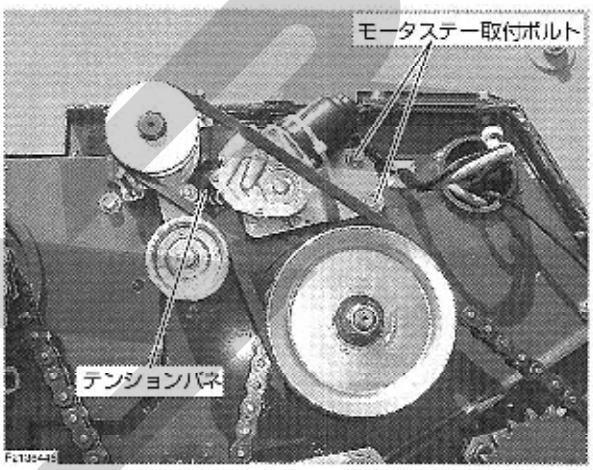




〈トワイン繰出しベルト〉

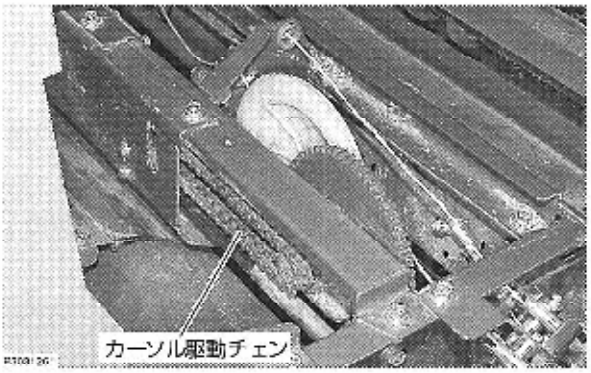
ゲートカバーLを開け、キースイッチを「入」位置、トワイン繰り出しスイッチを「強制」位置にし、下記の調節をしてください。調節後は、元通りに取り付けてください。

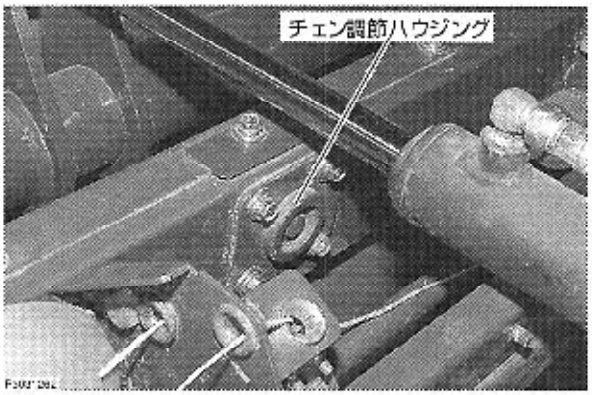
モータが作動したとき、テンションバネが少し伸びる（コイル部に少しすき間ができる）程度に調節してください。モータステー取付ボルトをゆるめて調節後、締め付けて固定してください。



〈カーソル駆動チェン〉

リヤシュートを開け、たるみがないように調節してください。チェン調節ハウジング取付ボルト（4本）をゆるめて調節後、締め付けて固定してください。





刈取部

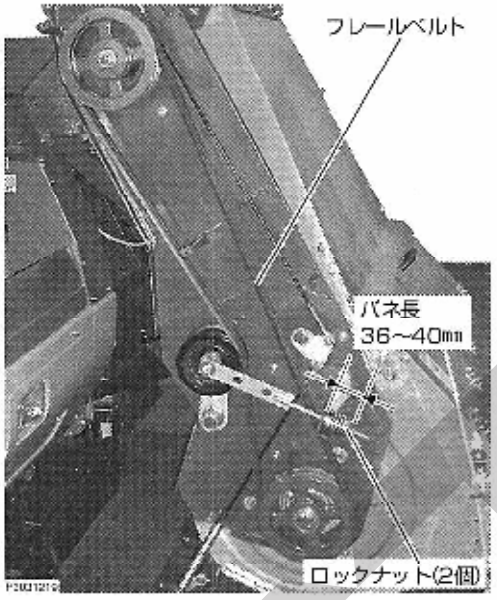
〈フレールベルト〉

フレールカバーを外して、下記の調節をしてください。

調節後は、元通りに取り付けてください。

❶テンションバネのバネ長が36～40㎜であるか確認してください。

❷ロックナット（2個）をいったんゆるめ、バネ長を調節した後、締め付けて固定してください。



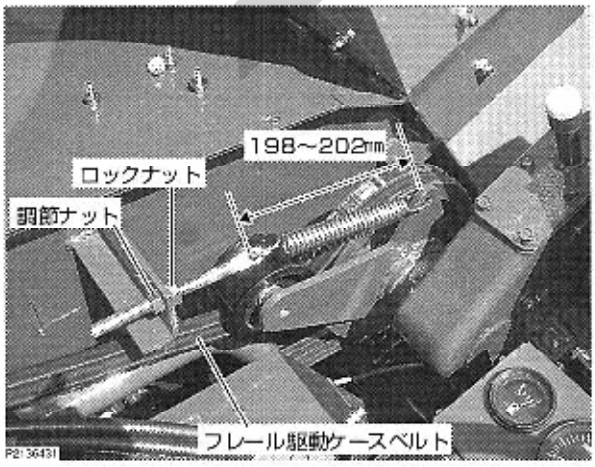
〈フレール駆動ケースベルト〉

ベルトカバーを外して、下記の調節をしてください。

調節後は、元通りに取り付けてください。

❶テンションバネのフック長が198～202㎜であるか確認してください。

❷ロックナットをいったんゆるめ、バネ長を調節した後、締め付けて固定してください。

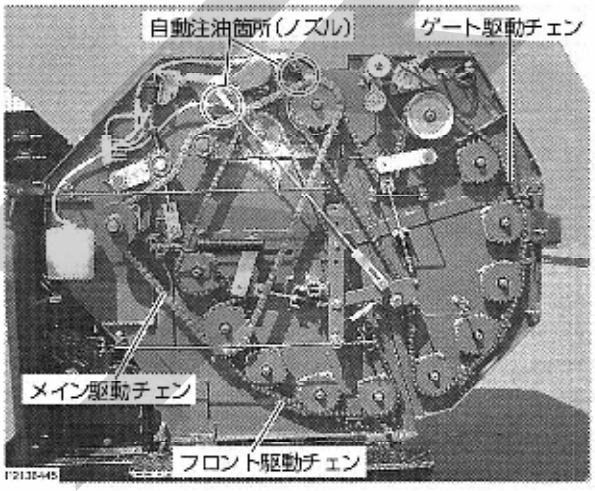


25.自動注油装置について

⚠警告

- **ゲートを開閉するときは、後方に十分注意をし、人を近寄らせないでください。**

ベーラ駆動のメイン駆動チェン、フロント駆動チェン、ゲート駆動チェンにゲート開閉と連動して自動的に注油します。



自動注油のしかた

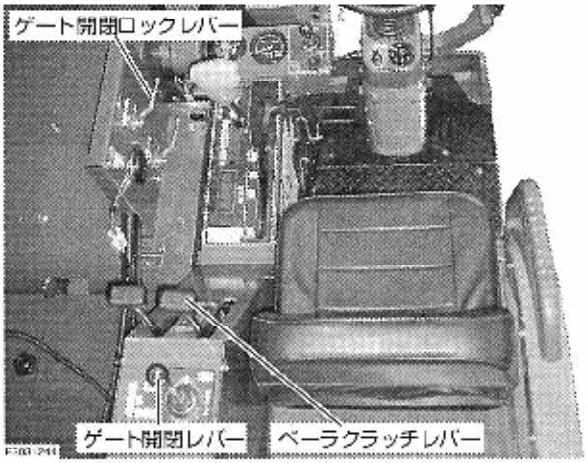
❶エンジンを始動してください。(➜42ページ参照)

❷ベーラクラッチレバーを「入」位置にしてください。

❸ゲート開閉ロックレバーを「開」位置にしてください。

❹ゲート開閉レバーを「開」位置にし、ゲートをいっぱい開けます。

ゲート開閉レバーを「閉」位置にし、ゲートを閉じます。



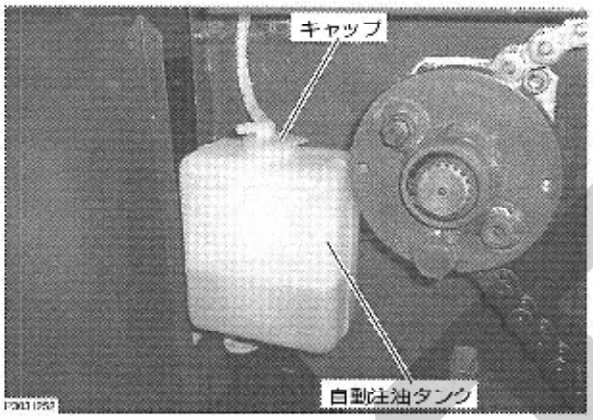
❹の動作を2～3回繰り返すと自動注油ができます。
❺自動注油が終わったらベーラクラッチレバーを「切」位置にし、エンジンを停止してください。

取扱いの注意

- **ゲートの開閉回数は2～3回程度にしてください。回数が多すぎるとオイルが垂れます。**

自動注油タンクへに補給のしかた

❶フロントカバーLを取り外してください。
❷自動注油タンクのキャップを外して、オイルを補給してください。



参考

- タンクに指示されている上限位置は、本装置とは関係ありません。タンク一杯まで最大（1.5ℓ）補給してください。

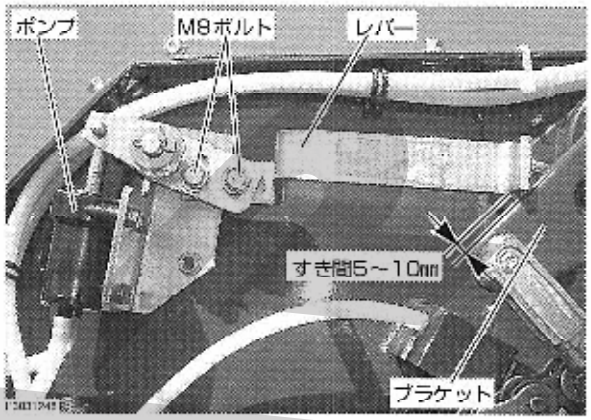
❸キャップを取り付け、フロントカバーLを取り付けてください。

取扱いの注意

- **自動注油タンクに入れるオイルは、ギヤオイル90番を使用してください。ミッションオイルや排油をなどを使用すると、注油ができなかったり、注油ノズルが詰まるおそれがあります。**

自動注油量の調節のしかた

❶フロントカバーLを取り外してください。
❷ゲートフック「閉」位置を確認して、レバーのガタを上にしたときのブラケットとのすき間で調節してください。



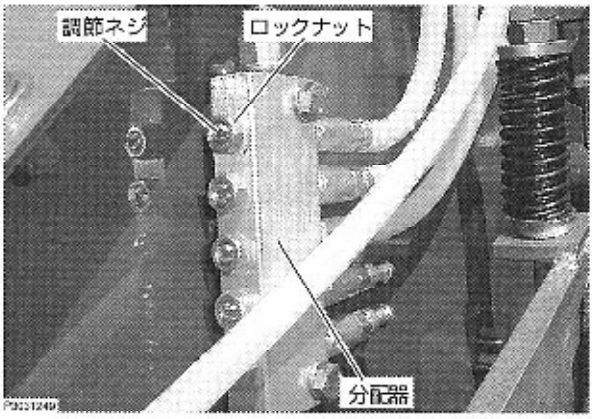
❸M8ボルト（2本）をゆるめてすき間調節してください。

参考

- すき間が小さいと注油量は多くなり、大きいと注油量は少なくなります。
- チェンのオイルが乾きやすいときは、すき間を小さく調節してください。

〈分配器の調節のしかた〉

❶分配器のロックナットをゆるめてください。



❷調節ネジを右（減少）、または左（増加）に回転して調節します。

❸分配量の確認は、レバーを手で持ち上げて、3ヶ所のノズルからの注油量を確認します。

取扱いの注意

- **分配器は、アルミニウム製のためロックナットを締めすぎると、ネジ部が破損することがあります。締めすぎないように注意してください。**

26.　フレールカッター・受刃の研磨のしかた

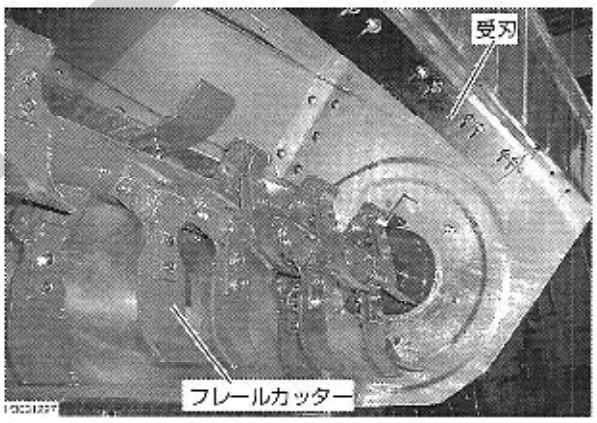
⚠警告

- **刈取部は、必ず刈取昇降ロックレバーを「閉」位置にして、歯止めをし、刈取部が下がらないように固定してください。**

⚠注意

- **グラインダーを使用して、フレールカッター・受刃の研磨を行う場合は、万力などでしっかり固定し、防護メガネをかけてください。**

フレールカッター・受刃が磨耗していると、作物の切断性能が低下し、刈取部に詰まりやすくなったり、刈り跡が揃わなかったりします。取り外して研磨してください。



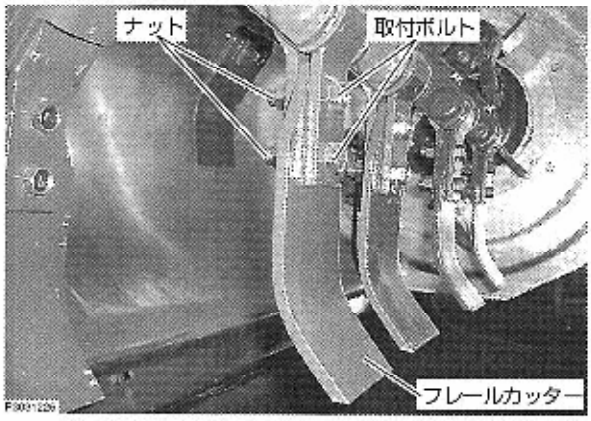
〈フレールカッターの研磨のしかた〉

❶エンジンを始動してください。

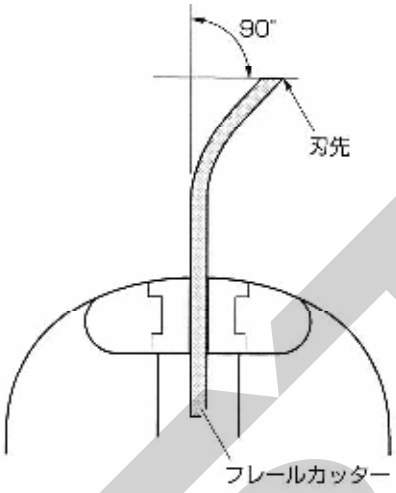
❷刈取昇降ロックレバーを「開」位置、刈高さ調節レバーを「上昇」にして刈取部を最上げにしてください。

❸刈取昇降ロックレバーを「閉」位置にし、エンジンを停止してください。

❹取付ボルト・ナット（各2個）を外して、フレールカッターを取り外します。



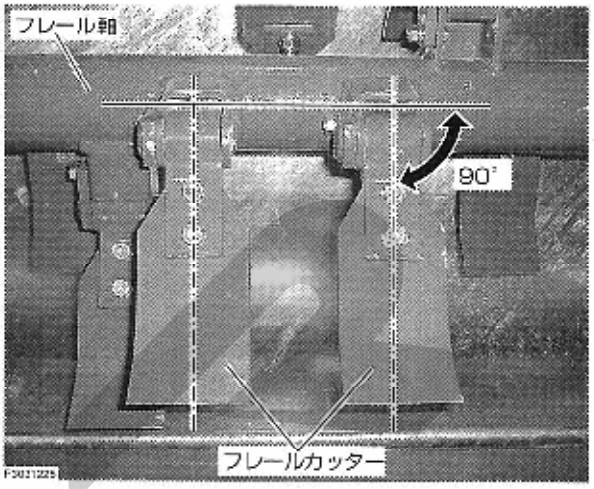
❺フレールカッターを万力などで固定し、研磨してください。



取扱いの注意

- フレールカッターの磨耗が著しい場合は、新品に交換してください。
- 研磨は、フレールカッターが変色しないように時間をおいて行うか、水で冷やしながら行ってください。

❻フレールカッター、ボルト、ナットの方向（左記❹項参照）に注意して、フレール軸に90°になるように取り付けてください。



〈受刃の研磨のしかた〉

❶エンジンを始動してください。

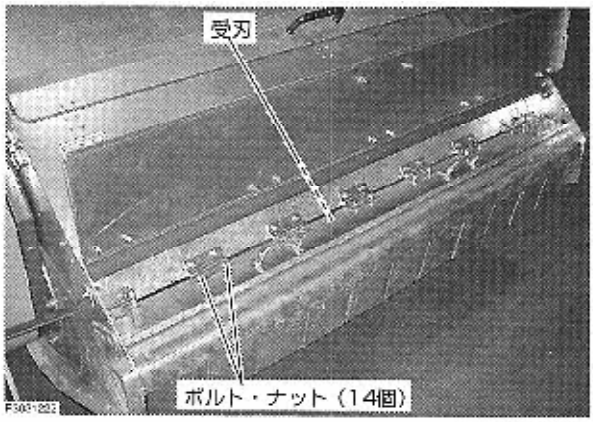
❷刈取昇降ロックレバーを「開」位置、刈高さ調節レバーを「上昇」にして刈取部を最上げにしてください。

❸刈取昇降ロックレバーを「閉」位置にし、エンジンを停止してください。

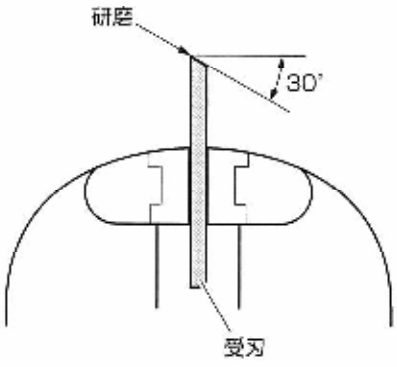
❹受刃カバーを開けてください。

❺受刃を「短」位置にしてください。（➜60ページ参照）

❻取付ボルト・ナット（14個）を取り外して、受刃を取り外してください。



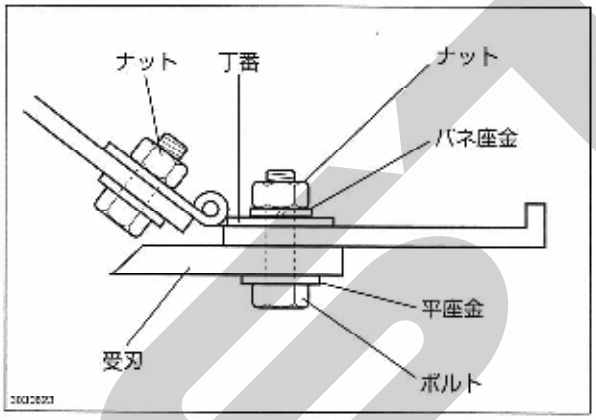
❼受刃を万力などで固定し、研磨してください。



取扱いの注意

- **受刃の磨耗が著しい場合は、新品に交換してください。**
- **研磨は、受刃が変色しないように時間をかけて行うか、水で冷やしながら行ってください。**

❽受刃・ボルト・ナットの方向に注意して、取り付けてください。



27.トワインナイフの交換のしかた

⚠警告

- **ゲートを開けて点検・整備をするときは、必ずゲート開閉ロックレバーを「閉」位置にするとともに歯止めをし、ゲートが閉じないように固定してください。**

⚠注意

- **トワインナイフの裏表を逆に付け替えるときや、交換するときは、刃先をさわらないでください。ケガをするおそれがあります。**

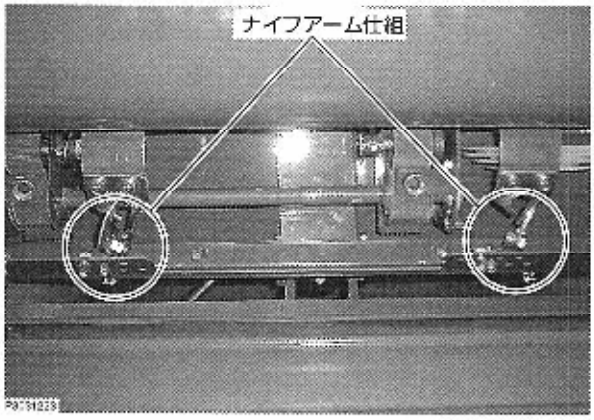
刃先が磨耗していると、トワインの切断性能が低下し、切断長が長くなり、ベール満量前や結束終了後にベールに引き込まれ、トワインが繰り出されてしまうことがあります。

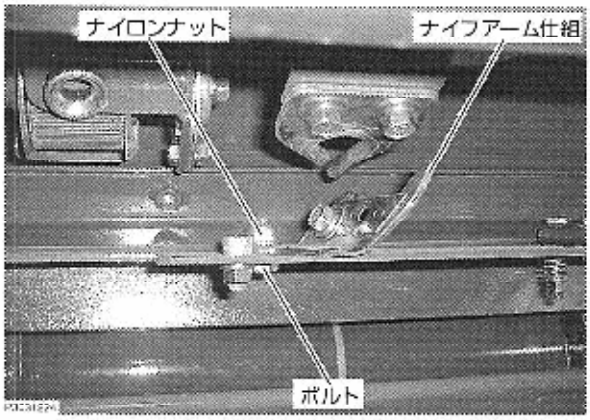
❶エンジンを始動してください。(➜42ページ参照)

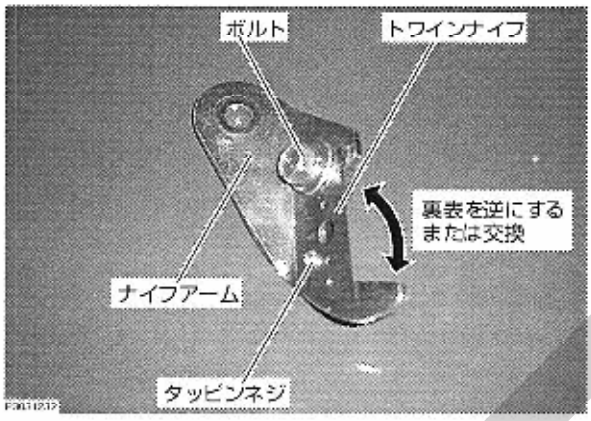
❷ゲート開閉ロックレバーを「開」位置にし、ゲート開閉レバーを「開」位置にしゲートをいっぱい開けてください。

❸ゲート開閉ロックレバーを「閉」位置にし、エンジンを停止してください。

❹ナイフアーム仕組を取り外し、ボルト・タッピンネジをゆるめトワインナイフの裏表を逆に付け替える、または交換する。







❺ナイフアームを取り付け、ナイフアームがスムーズに動くことを確認してください。

❻エンジンを始動し、ゲート開閉ロックレバーを「開」位置にし、ゲート開閉レバーを「閉」位置にして、ゲートを閉じます。

❼エンジンを停止してください。

⚠警告

- 機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。守らないと、回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。

下記の処置をしても改善されないときは、最寄りの特販店、またはJAに連絡してください。

1.キースイッチを「始動」位置にしてもスタータが回らない場合

この確認をしてください	処　置	参照ページ
セフティペダルをいっぱいに踏み込んでいますか。	セフティペダルをいっぱいに踏み込んでから、キースイッチを「始動」位置にしてください。	32
バッテリが放電していませんか。	バッテリを満充電にしてください。	88
バッテリ端子部のゆるみ・外れ、または腐食していませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆してください。	88
スローブローヒューズ、またはヒューズが溶断していませんか。	溶断の原因を調べ、修理した後にスローブローヒューズ、またはヒューズを交換してください。	90
バッテリの接続がプラス・マイナス逆になっていませんか。	プラス・マイナスを正しく接続してください。	88
警報ブザーが鳴っていませんか。	ベーラクラッチレバー、フレールクラッチレバーを「切」位置にしてください。	29

2.スタータは回るがエンジンが始動しない場合

この確認をしてください	処　置	参照ページ
燃料ポンプが作動していますか。（ヒューズ溶断、または燃料ポンプの不良）	溶断の原因を調べ、修理した後にヒューズの交換、または燃料ポンプを交換してください。	90
燃料タンクに燃料が入っていますか。	燃料を満タンに給油し、エア抜きをしてください。	78・85
燃料にエアが混入していませんか。	燃料のエア抜きを行ってください。	85
燃料コックが「閉」位置になっていませんか。	燃料コックを「開」位置にしてください。	42
燃料に水が入っていませんか。	燃料コシ器に水が溜まっていれば、水を抜いてください。	84
副変速レバーが「N」（中立）位置になっていますか。	副変速レバーを「N」（中立）位置にしてください。（走行中または作業中にエンジンが停止したときは、副変速レバーを「N」（中立）位置にしないと、エンジンが始動しない場合があります。）	31

3.運転中に水温パイロットランプが点灯し、ブザーが鳴る場合

取扱いの注意

- **エンジンのオーバーヒートですので、すみやかに本機を停止し、フレールクラッチ、ベーラクラッチを「切」、エンジン回転をローアイドリング（低回転）に下げて冷却運転をしてください。水温パイロットランプが消灯してから、エンジンを停止し、エンジンが十分冷えてから適正な処置を行ってください。**

この確認をしてください	処　置	参照ページ
冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。	81
ファンベルトがゆるんでいませんか、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換してください。	91
ラジエータ冷却フィン・オイルクーラ冷却フィンが目詰りしていませんか。	清掃してください。	87
エンジンオイルが不足していませんか。	オイルを規定量まで補給してください。	79
過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。（作物の状態に応じて、適切な作業速度を選んでください。）	—

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
吸気口が目詰まりしていませんか。	ゴミを取り除いてください。	86
ラジエータスクリーンが目詰まりしていませんか。	ゴミを取り除いてください。	87
サイドコラム横スクリーンが目詰まりしていませんか。	ゴミを取り除いてください。	—

4.運転中に油圧パイロットランプが点灯した場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
エンジンオイル量が少なくなっていませんか。	オイルを規定量まで補給してください。	79
エンジンオイルの粘度が低くありませんか。	純正(指定)オイルと交換してください。	77

5.運転中にチャージパイロットランプが点灯した場合

この確認をしてください	処　　置	参照ページ
冷却ファンベルト（ジェネレータ駆動ベルト）のゆるみ、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換してください。	91

6.機体が水平にならない（UFO装置）

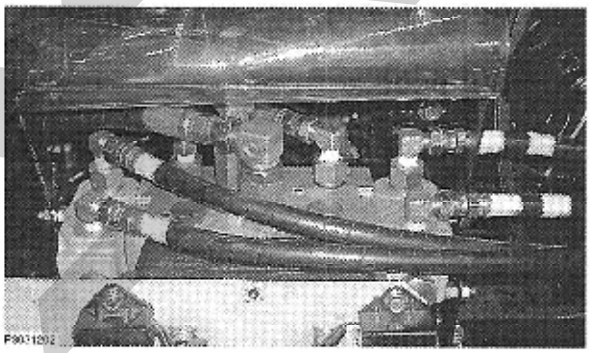
この確認をしてください	処　　置	参照ページ
傾斜角調節ダイヤルが中央位置になっていますか。	傾斜角調節ダイヤルを中央位置に合わせてください。	36
傾斜センサの水平は出ていますか。	傾斜角調節ダイヤルを中央位置に合わせて、傾斜センサの傾きを調整し、水平を出してください。	36

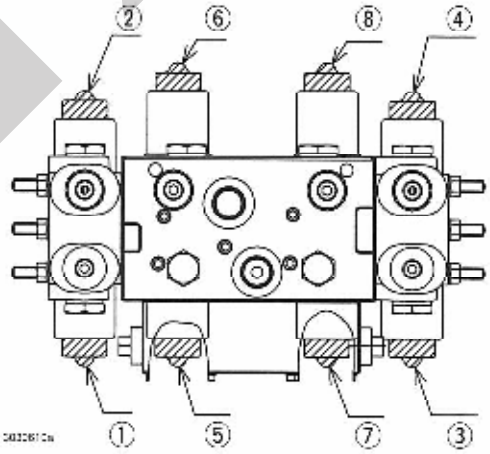
7.油圧が作動しない場合

この確認をしてください	処　置
刈取部昇降ロックレバー、ゲート開閉ロックレバーが「閉」位置になっていませんか。	「開」位置にしてください。
油圧バルブを操作する各操作レバーと、電磁弁のカプラの接続を確認してください。	各カプラを確実に差し込んでください。

作動しない場合の応急処置

ルーム枠カバーを外して、油圧バルブを下記要領で手動操作してください。





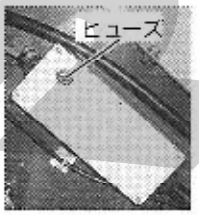
印は各電磁弁の両端の黒いゴムキャップです。強く押して操作してください。

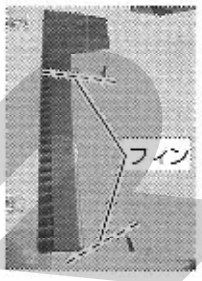
- 車体左を上げるとき、①を押し、下げるとき、②を押す。
- 車体右を上げるとき、③を押し、下げるとき、④を押す。
- 刈取部を上げるとき、⑤を押す。
- 刈取部を下げるとき、⑥を押す。
- ゲートを開くとき、⑦を押す。
- ゲートを閉じるとき、⑧を押す。

8.作業部で下記の現象が出た場合

現　　象	この確認をしてください	処　　置	参照ページ
刈取部（シュート・エアシュート）で詰まる	● エンジン回転が低くないですか。	● エコモード「入」、またはエンジン回転数を2800rpmにしてください。	37
	● 作物の草丈が適応範囲を越えていませんか。	● 少し速度を下げて作業をしてください。	―
	● 切断長調節（受刃位置）が長くなっていませんか。	● 受刃位置を「短」位置にしてください。	60
	● フレールカッターが磨耗していませんか。	● 研磨または交換してください。	100
	● Vベルトがスリップしていませんか。	● 駆動系ベルトのテンションバネを規定量に調節してください。	92
	● シュート・エアシュート内に泥や作物が付着していませんか。	● 付着している泥や作物を除去してください。	66・71
	● 8章2項の「拾い上げ―梱包作業」の内容を全て行っても解消されないですか。	● 乾燥した切断長の短い作物（特に切ワラ）の場合は、シュート先端部のフィンを取り外してください。（ただし、ベール形状が多少変形することがあります）	68
ベーラ入り口で詰まっている	● ベールが回転していますか。（主に麦稈・稲ワラ）	● 梱包密度を低くしてください。	60
	● ベーラ駆動チェンが跳飛びしていませんか。	● チェンのテンションバネを規定量に調節してください。	95
		ローラカバー部の詰まりを取り除いてください。	71
	● ベーラ駆動部のシャーボルトが切れていませんか。	● シャーボルトを交換してください。	67
	● Vベルトがスリップしていませんか。	● 駆動系ベルトのテンションバネを規定量に調節してください。	92
刈り跡がきたない	● フレールカッターが磨耗していませんか	● 研磨または交換してください。	100
	● 刈高さが高くないですか	● 低く調節して作業してください。（刈高さが高く、速度が速いほど刈り跡は、きたなくなる傾向があります）	61
	● エンジン回転が低くないですか。	● エコモード「入」、またはエンジン回転数を2800rpmにしてください。	37

現　　象	この確認をしてください	処　　置	参照ページ
刈り高さが揃わない	● 本機が傾いていませんか。	● UFOを「自動」にし、傾斜角調節ボリウムを中央(水平)にしてください。	36
	● OKリフトが作動し、刈取部が上がっていませんか。	● OKリフトが作動（上げ）後は、「下げ」調節をしてください。	37
	● 刈取下げストッパを使用していますか。	● 刈取下げストッパを使用して作業をしてください。	61
ベーラが満杯になる前にトワインが繰り出される	● トワインの切れが悪くなっていませんか。（切り口が長くなっていませんか。）	● トワインナイフを新品に交換してください。	102
	● ベールに引き込まれていませんか。	● ナイフアーム取付位置を1個左の穴にしてください。（左右とも）	—
	● トワイン押さえ板の圧力が低くなっていませんか。	● テンションバネを規定量に調節してください。	95
ベールが満杯になってもトワインが繰り出されない	● 指定以外のトワインを使用していませんか。	● 指定トワイン（PP12000フィート）を使用してください。	57
	● トワインが引っ掛かったり、からまったりしていませんか。	● 引っ掛かり、からまりを除去してください。	—
	● トワインの通し方が間違っていませんか。（主にトワインローラトワインプーリ）	● 正しく通してください。	57～59
	● トワインの結び目が大きくないですか。	● トワインを二つ割りにして結んでください。	57
	● トワイン繰り出しスイッチが「自動」になっていますか。	● 「自動」位置にしてください。	30
	● トワイン押さえ板の圧力が高くなっていませんか。	● テンションバネを規定量に調節してください。	95
	● ベーラクラッチレバーが「入」位置になっていますか。	● 「入」位置にしてください。	29
	● 繰り出しローラの溝が目詰まりしていませんか。	● 目詰まりを除去してください。	—
	● 繰り出しローラ・トワインプーリにチリが引っ掛かっていませんか。	● チリを除去してください	58・59
	● 繰り出しローラからトワインが外れていませんか	● トワインを通し直してください	58・59
	● トワイン繰り出しベルトのテンションモータは作動していますか	● コントローラのヒューズ（ガラス管ヒューズ3A）・電装品が正常か確認してください。	—
	● トワイン繰り出しベルトがスリップしていませんか	● テンションモータ作動時のテンションバネを規定量に調節してください。	—

現　　象	この確認をしてください	処　　置	参照ページ
強制でトワインが繰り出されない	● ペーラクラッチンバーが「入」位置になっていますか。	● 「入」位置にしてください。	29
	● ベールが回転していますか。	● ベールが回転する量まで作業をしてください。	—
	● トワイン繰り出しスイッチを「強制」位置にする時間が短くないですか。	● ベールに巻き込まれるまで、1~2秒「入」位置にする動作を繰り返してください。	30
	● トワイン繰り出しベルトのテンションモータは作動していますか	● コントローラのヒューズ（ガラス管ヒューズ3A）・電装品が正常か確認してください。 	—
	● トワイン繰り出しベルトがスリップしていませんか	● テンションモータ作動時のテンションバネを規定量に調節してください。	—
トワインが切れない	● トワインナイフが磨耗していませんか。	● 新品に交換してください。	102
	● トワイン押さえ板の圧力が低くなっていませんか。	● テンションバネを規定量に調節してください。	95
	● ナイフアームの動きが悪く、しっかり戻っていないのではありませんか。	● チリを除去してくださいナイフアームが軽く動くように調整してください。	102・103
ベールが排出されない	● ペーラクラッチンバーが「入」位置になっていますか。	● 「入」位置にしてください。	29
	● 梱包密度が高くなり過ぎていませんか。（主に麦稈・稲ワラ）	● 梱包密度を低くしてください。	60
ベールが完成に近くなると回らなくなる	● 麦稈などの乾燥した切断長の短い作物ではないですか。	● 梱包密度調節用スプリングを取り外してください。	60

現　　象	この確認をしてください	処　　置	参照ページ
排出したベールが変形している	● 刈幅に対して偏った刈取り・拾い上げをしていませんか。	● 均等に刈取り・拾い上げをしてください。 残りの条数が少ない場合は蛇行し、左右均等になるように刈取りをしてください。	54
	● シュート先端のフィンの向きが左右で異なっていませんか。	● エアシュート掃除口を開けて、左右同じ向きに取り付けてください。 	―
	● 左右の刈高さが異なっていませんか。	● UFOを「自動」にし、傾斜角調節ボリウムを中央（水平）にしてください。	36
	● 梱包密度が低くないですか。	● 高くしてください。	60
	● トワインの巻き数がすくなくないですか。	● 巻き数を多くしてください。	57・59
	● 作物の水分が多くないですか。	● 適正水分になってから収穫してください。	54

STOP

1.仕様

名称			スター コンビネーションベーラ
型式名			JCB1420
機体寸法	全長	(mm)	4150
	全幅	(mm)	2200
	全高	(mm)	2250
機体質量（重量）		(kg)	3040
エンジン	名称		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル
	型式名		4TNV84T
	総排気量	(ℓ(cc))	1.995(1995)
	出力/回転速度	(kW(PS)/rpm)	42.7(58)/2800
走行部	クローラ 中心距離	(mm)	930
	クローラ 幅×接地長	(mm)	400×1548
	クローラ 平均接地圧	(kPa(kgf/cm²))	24.1(0.25)
	変速方式		HST
	作業速度	(m/s)	低速：0～0.73・標準：0～1.35・走行：0～2.52
	機体水平制御		自動
刈取部	切断方式		フレールチョッパー方式
	作業幅	(mm)	1400
	刈取条数	(条)	5（30cm条間の場合）
	フレール回転速度	(rpm)	1600
	フレール刃数	(枚)	20
	フレール周速	(m/s)	45.2
	フレール径	(mm)	540
	切断長	(mm)	100～150(平均)
	切断調節方式		ワンタッチスライド調節(3段)
梱包部	ベール方式	(mm)	スチールローラ(定径式)
	トワイン巻数調節	(段)	3（12・16・20回）
	ベールサイズ	(mm)	直径900×幅860
	トワイン条数	(条)	2（ダブルバインディング方式）
	トワイン繰出し		自動・手動
作業能率〔計算値〕		(分/10a)	20～55
諸装置	自動化装置		自動定回転制御、機体水平制御、フレールアップセンサー、フレールバックアップ
	警報装置		オーバーロード、傾斜角、エンジン始動、ベーラ満量、モニターランプ(油圧・水温・チャージ)

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

2.主要消耗部品

区分	No.	部品名称	部品コード	個数	備考
ベルト	1	VベルトSB-50 W800	1K1140-57140	2	ミッション駆動ベルト
	2	VベルトLB72-AG8	1K1140-11000	4	ロールベーラ駆動ベルト
	3	VベルトLB68-AG8	1K1140-22010	2	フレール駆動ケースベルト
	4	VベルトLB76-AG8	1K1140-57190	2	フレール駆動ベルト
	5	VベルトSB-53 W800	1K1140-57240	2	ベーラ駆動ベルト
	6	ローエッジコグ LA35	1K1140-15160	1	トワイン繰出しベルト
	7	VベルトLC118	25124-011800	2	フレールベルト
	8	Vベルト コグA：40インチ	25152-004000	1	冷却ファンベルト（ジェネレータ駆動ベルト）
ワイヤ	9	アクセルワイヤ	1E8730-02050	1	
	10	クラッチワイヤ	1K1140-65161	2	ベールクラッチ・フレールクラッチ兼用
	11	ブレーキワイヤ	1E3100-63550	1	
	12	メーターケーブル	1E6740-02300	1	回転計用
フレール	13	フレールカッター	1K1140-21010	20	
	14	フレールブッシュ	1K1140-21020	20	
	15	フレールピン	1K1140-21040	20	
	16	フレールプレート	1K1140-23000	1	受刃
チェン	17	ローラチェン80×96L	25210-800960	1	メイン駆動チェン
	18	ローラチェン60×159L	25210-601590	1	フロント駆動チェン
	19	ローラチェン60×169L	25210-601690	1	ゲート駆動チェン
	20	カーソル駆動チェン仕組	1K1140-14570	1	
	21	ブラシ	1K1140-18000	3	自動注油ブラシ
フィルタ	22	FOコシキエレメント	119802-55801	1	燃料コシ器エレメント
	23	スクリーン （30メッシュ	121850-55710	1	ウォータセパレータエレメント
	24	エレメント	129062-12560	1	エアクリーナエレメント
	25	フィルタ 80×80L	129150-35160	1	エンジンオイルエレメント
	26	エレメント ASY	1E8560-66370	1	HSTフィルタ
防塵シール・パッキン他	27	スポンジパッキン；800	1K1140-24000	2	刈取掃除口カバー部
	28	アクリルプレート	1K1140-25000	2	シュート確認窓
	29	スポンジパッキン；350	1K1140-25010	2	シュート確認窓部
	30	スポンジパッキン；100	1K1140-25020	2	シュート確認窓部
	31	ゴムプレート（下	1K1140-25030	1	シュート下部
	32	スポンジパッキン；400	1K1140-25040	2	シュート掃除口
	33	ゴムプレート（上	1K1140-26000	1	エアシュート上部
	34	ゴムプレート（横	1K1140-26010	2	エアシュート左右部
	35	スライドテープ	1K1140-26020	4	エアシュート部
	36	ゴムプレート（リアシュート	1K1140-26030	1	リアシュート部
その他	37	バッテリー 130E41R-MF	1E8080-83320	1	
	38	トワインナイフ	1K1140-14010	2	
	39	シャーボルト	1K1140-11010	1	10本セット（ボルト・ナット・Sワッシャ）

STAR

STAR

STAT

調整	S－080710E

本　　社	066-8555	千歳市上長都１０６１番地２ TEL　０１２３－２６－１１２３ FAX　０１２３－２６－２４１２
千歳営業所	066-8555	千歳市上長都１０６１番地２ TEL　０１２３－２２－５１３１ FAX　０１２３－２６－２０３５
豊富営業所	098-4100	天塩郡豊富町字上サロベツ１１９１番地４４ TEL　０１６２－８２－１９３２ FAX　０１６２－８２－１６９６
帯広営業所	080-2462	帯広市西２２条北１丁目１２番地４ TEL　０１５５－３７－３０８０ FAX　０１５５－３７－５１８７
中標津営業所	086-1152	標津郡中標津町北町２丁目１６番２ TEL　０１５３－７２－２６２４ FAX　０１５３－７３－２５４０
花巻営業所	028-3172	岩手県花巻市石鳥谷町北寺林第11地割120番3 TEL　０１９８－４６－１３１１ FAX　０１９８－４５－５９９９
仙台営業所	983-0013	宮城県仙台市宮城野区中野字神明１７９－１ TEL　０２２－３８８－８６７３ FAX　０２２－３８８－８７３５
小山営業所	323-0158	栃木県小山市梁２５１２－１ TEL　０２８５－４９－１５００ FAX　０２８５－４９－１５６０
岡山営業所	700-0973	岡山県岡山市下中野７０４－１０３ TEL　０８６－２４３－１１４７ FAX　０８６－２４３－１２６９
熊本営業所	861-8039	熊本県熊本市長嶺南１丁目２番１号 TEL　０９６－３８１－７２２２ FAX　０９６－３８４－３５２５
都城営業所	885-1202	宮崎県都城市高城町穂満坊１００３－２ TEL　０９８６－５３－２２２２ FAX　０９８６－５３－２２３３

SO.20.07.1S　Ⓕ